横浜市芸術文化教育プログラム推進事業

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム
平成 25 年度事業報告書

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局

（STスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
平成 25 年度事業報告書　目次

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】……04

平成 25 年度事業報告　概要	05
横浜市芸術文化教育プラットフォーム　学校プログラム 連携のしくみ	06
これまでの学校プログラムの取組み	07
学校プログラム アンケート結果　児童・生徒向けアンケートから	08
学校プログラム アンケート結果　教員向けアンケートから	09

【学校プログラムの個別報告】……12

音楽

駒岡小学校＋サルビアホール	ジャズを体験しよう！	14
東台小学校＋サルビアホール	サックスのひびき	15
神橋小学校＋かなっくホール	歌う楽しさ、よろこび	16
羽沢小学校＋かなっくホール	ゴスペルのひびき	17
六つ川台小学校＋吉野町市民プラザ	ジャズのリズム	18
峯小学校＋横浜シティオペラ	オペラへの好奇心１	19
並木第一小学校＋子どもに音楽を	ヴァイオリンとピアノのハーモニー	20
西富岡小学校＋Media Global	ドラム缶からできた楽器スティールパン！	21
能見台南小学校＋横浜こどものひろば	ボディーパーカッションで校歌を歌おう、踊ろう	22
城郷小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	弦楽カルテット～気持ちをあわせて～	23
小雀小学校＋さくらプラザ	ドレミパイプ合奏「♪テキーラ」	24
俣野小学校＋アートの時間	熱帯バリ島の不思議な音楽“ガムラン”2013	25
永谷小学校＋吉野町市民プラザ	音楽で発見！みんなでイメージを伝えよう	26
日限山小学校＋横浜市芸術文化振興財団	歌声の響き	27
上川井小学校＋サンハート	サクソフォンカルテット鑑賞会	28
白根小学校＋横浜シティオペラ	オペラへの好奇心２	29
竹山小学校＋横浜シティオペラ	オペラへの好奇心３	30
阿久和小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	友だちと一緒に、自分だけの即興音楽	31
二ツ橋小学校＋子どもに音楽を	ヴァイオリンの音色	32
上郷小学校＋横浜みなとみらいホール	ジャズのアドリブを体感しよう！	33
小山台小学校＋リリス	身体で演奏しよう！１	34
千秀小学校＋神奈川県立音楽堂	打楽器のリズムにのって	35
豊田小学校＋リリス	身体で演奏しよう！２	36
中和田南小学校＋テアトルフォンテ	いろんな音にふれながら遊ぶ、打楽器アンサンブル ！	37
東中田小学校＋テアトルフォンテ	うごいて、たたいて、つたえよう！~ボディーパーカッション~	38
美しが丘小学校＋よこはま音楽広場実行委員会	即興表現を楽しもう	39
荏子田小学校＋横浜みなとみらいホール	リコーダーの響きを聴こう	40
荏田西小学校＋フィリアホール	リコーダーの魅力	41
北山田小学校＋Media Global	創作！！ミュージカルをつくろう	42
松本中学校＋子どもに音楽を	弦楽器のしらべ	43
鴨志田中学校＋横浜みなとみらいホール	合唱コンクールで勝負だ！	44
盲特別支援学校＋かなっくホール	声の魅力、再発見！	45
東俣野特別支援学校＋ＳＴスポット横浜	わたしの音を探す時間	46
日野中央高等特別支援学校＋ＳＴスポット横浜	アコーディオンを楽しむ	47
本郷特別支援学校＋リリス	音楽を楽しもう！	48

演劇

川島小学校＋Media Global	身体でおしゃべり！！パントマイムで学ぶコミニュケーション力	50
屏風浦小学校＋象の鼻テラス	日常から演劇を	51
八景小学校＋急な坂スタジオ	コトバの世界で遊んでみる	52
平戸台小学校＋横浜こどものひろば	額に柿の木	53
深谷小学校＋アートの時間	身体で表現！「三年峠」	54
港南台第一小学校＋横浜にぎわい座	落語を作ってみる！	55
鴨居小学校＋みどりアートパーク	観る、聴く、話す	56
都田小学校＋横浜こどものひろば	はばたけ　つだの子発表会「成長期～最後の仲間～」	57
浦舟特別支援学校＋ST スポット横浜	みんなで創る、歌と詩	58

ダンス

西寺尾小学校＋Offsite Dance Project	世界にひとつの自分だけのダンス	60
平沼小学校＋ST スポット横浜	「感・全・協・竜」オリジナルダンス作り	61
本町小学校＋Offsite Dance Project	気づいたらダンス！	62
間門小学校＋Offsite Dance Project	身体でお習字	63
山王台小学校＋横浜市芸術文化振興財団	ステップアップダンス	64
相武山小学校＋吉野町市民プラザ	身体で表現してみよう	65
永野小学校＋吉野町市民プラザ	校歌でダンス！	66
日野南小学校＋ひまわりの郷	ヒップホップのリズムにのって	67
瀬谷さくら小学校＋Offsite Dance Project	ワクワク！オリジナルダンス！	68
山田小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館	イメージする力～色々な動きでダンスをつくってみよう	69
老松中学校＋急な坂スタジオ	ダンスを体で感じる	70
泉が丘中学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館	何が見えるだろう	71
上菅田特別支援学校＋ＳＴスポット横浜	それぞれの音、身体、時間	72
二つ橋高等特別支援学校＋急な坂スタジオ	踊りで空気を動かしてみよう―大きく、ときに静かに―	73

美術

末吉小学校＋サルビアホール	オリジナル絵の具を作ろう	75
大道小学校＋横浜こどものひろば	アニメーションをつくろう	76
大曽根小学校＋芸術家と子どもたち	せんたくばさみ 30,000 コの時間	77
品濃小学校＋アートの時間	仮面パレード	78
名瀬小学校＋アートの時間	夢じまん宇宙船の旅 in 名瀬小	79
南戸塚小学校＋さくらプラザ	おり紙クルージング	80
希望ヶ丘小学校＋ART LAB OVA	100 人でアクションペインティング！	81
都岡小学校＋サンハート	木炭画で似顔絵を描く１	82
二俣川小学校＋サンハート	木炭画で似顔絵を描く２	83
いぶき野小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	ダンボールの活動	84
伊勢山小学校＋テアトルフォンテ	読めない絵本	85
汐見台中学校＋横浜美術館	横浜美術館収蔵作家の彫刻制作	86
小田中学校＋横浜美術館	日本画の魅力	87
本郷中学校＋象の鼻テラス	社会の中のアート　SLOW LABEL 商品企画開発体験	88
市ヶ尾中学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野	社会に役立つアートの仕事	89
中村特別支援学校＋ART LAB OVA	なかむらの特別なアートなビデオをつくる	90

伝統芸能

岸谷小学校+久良岐能舞台	狂言を体験しよう！１	92
浦島小学校＋よこはま音楽広場実行員会	箏のしらべ	93
浅間台小学校＋横浜市芸術文化振興財団	和太鼓の魅力	94
本牧南小学校＋Offsite Dance Project	狂言の魅力にせまる	95
藤の木小学校＋横浜市芸術文化振興財団	箏の体験～邦楽器の魅力を感じる～	96
今井小学校＋岩間市民プラザ	邦楽の魅力～和楽器のひびき～	97
藤塚小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！２	98
小机小学校＋荒馬座	中山太鼓を叩こう	99
新吉田第二小学校＋Media Global	日本の素敵な音楽	100
東品濃小学校＋さくらプラザ	茂山狂言会～「柿山伏」「附子」～	101
日下小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！３	102
万騎が原小学校＋サンハート	落語で笑おう！	103
上山小学校＋荒馬座	和太鼓を体験しよう	104
十日市場小学校＋みどりアートパーク	「春の海」を弾こう！箏の魅力を体験	105
いちょう小学校＋久良岐能舞台	狂言を体験しよう！４	106
中田小学校＋テアトルフォンテ	「いろはに邦楽®」	107
青葉台小学校＋横浜みなとみらいホール	雅楽を体験しよう！	108
美しが丘東小学校＋神奈川県立音楽堂	響け、届け、おことの音	109

【アーティストプロフィール】……110

【コーディネータープロフィール】……117

【各種資料】……121

【横浜市芸術文化教育プラットフォームとは】

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
平成 25 年度事業報告　概要

課題認識、目的と事務局体制

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局が事務局を構成し、ＳＴスポット横浜が事務局代表として事業を推進しています。事務局構成団体は、横浜の次世代を担う子どもたちのコミュニケーション力と創造力をはぐくみ、豊かな心を養うことが必要であるという課題認識を共有するとともに、市立学校等において、子どもたちの創造性をはぐくみ、ゆたかな情操を養う機会を拡大するためのプログラムを実施する本事業の目的を共有しています。

今年度は、音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能などの分野で活躍している芸術家が、学校へ出かけました。小学校76校、中学校８校、特別支援学校８校、あわせて92校、9,517人の児童・生徒に向けてプログラムを実施。横浜市内の文化施設や、市内外のアートＮＰＯをはじめとする民間の芸術団体をはじめ32団体が、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして授業づくりを支援しました。

コーディネーター会議

先生のためのワークショップ

ウェブサイトの運営

取組みの蓄積、活動の深化に向けて

事業を担当するコーディネーターがあつまり情報交換を行う「コーディネーター会議」を実施し、総勢40名が集まりました。この場では、担当する学校とのプログラムを調整する際に起きる課題の整理や、過去に蓄積したノウハウなどの情報交換を行い、またグループごとでのディスカッションも行いました（2013年６月19日、会場：横浜みなとみらいホール）。

教員向けプログラムとしては、先生のためのワークショップを行い、横浜市内の小・中学校、高等学校の主に図画工作科・美術科担当の教員18人が参加。造形作家・ドゥイによるワークショップを実施しました。これまでの活動の中から学校でも実現可能性の高いものをいくつか選び、実際に体験するとともに、過去の作品や活動の写真などを見ながら解説を行いました。（2013年11月20日・27日、会場：横浜市技能文化会館）。

このほか、芸術文化の創造性を学校運営、カリキュラム等に活かしたいと考える学校関係者や、これからプログラムに参加したいと考えるコーディネーターやアーティストのための相談窓口を設置し、随時相談を受けました。また、過去の実績を集積した報告書や、コーディネーター、アーティストなどの情報をサイトで公開しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
学校プログラム 連携のしくみ

連携のしくみ

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方が集まって、つくられています。ねらいは、次の３点です。

（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での位置付けを行うための体制づくり

（２）様々な実施主体、関係団体を結ぶネットワーク

（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校現場

子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じてプログラムを実施します。プログラム実施の方向性の提案も行います。

事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）

年間を通して学校からの相談対応や、学校向けプログラムの募集業務等の調整を行います。ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局で構成されています。

推進委員会 芸術文化教育プラットフォームの総合的な推進を図ります。

芸術団体／文化施設

学校などで、子どもたちに向けたアートプログラムを実施します。その際、コーディネーターとして、学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整します。

学校プログラムの連携とすすめかた

【アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします】

私たちは、芸術文化の持つ創造性を通して、子どもたちが互いの感性を認め合い豊かにしていく過程を大切に考えています。教科・科目との連動以外に、コミュニケーション能力の育成やクラスの課題解決など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するアート。自由な発想や創造性にあふれた感性を導くことで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

【芸術家が、直接学校へ出かけます】

平成 16 年度にスタートした子どものための芸術文化・教育事業です。プログラムは大きく分けて２種類。１つは、３日程度にわたり実施し、実技体験を通して、アーティストとともに様々なジャンルの創造活動に取り組み、子どもの潜在的な創造性やコミュニケーション力を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施する「体験型プログラム」。もう１つは、アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞した後、アーティストのお話を聞くことで芸術文化を身近に感じることができる「鑑賞型プログラム」。音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家が、直接学校へ出かけます。

【コーディネーターと先生が、実施内容を調整します】

学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科・科目のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生が持っている情報と、コーディネーターが持つ文化芸術分野に関する専門知識がひとつになることで、効果的なプログラムが実施できます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
これまでの学校プログラムの取組み

平成 16 年度から事業を開始

学校プログラムは、平成16年度にスタートしました。平成20年度には「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」を設立して事務局の基盤を強化しています。この９年間で、のべ460校あまりの横浜市立の小・中学校、特別支援学校で、７万人を超える児童・生徒たちが、アーティストと時間をともにしました。

	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
参加児童・生徒数	**319**	**434**	**1,500**	**9,956**	**11,802**	**13,432**	**8,706**	**9,945**	**7,623**	**9,517**
実施校数	**6**	**8**	**22**	**52**	**67**	**82**	**79**	**77**	**73**	**92**
音楽	4	−	7	34	40	38	36	34	27	35
演劇	1	2	4	8	9	11	10	7	10	9
ダンス（舞踊）	1	3	3	3	4	6	6	7	11	14
美術	−	3	5	3	8	11	15	15	13	16
伝統芸能	−	−	3	4	6	16	12	14	12	18
応募校数	−	−	24 校	52 校	76 校	86 校	85 校	94 校	90 校	96 校

多様なコーディネーターによる、プログラムの実施

平成 19 年度以降、コーディネーターとして活動する団体・文化施設を拡大し、現在の学校プログラムは、コーディネーターとしてかかわる横浜市内の文化施設と、市内外のアートＮＰＯなど民間の芸術団体に支えられています。

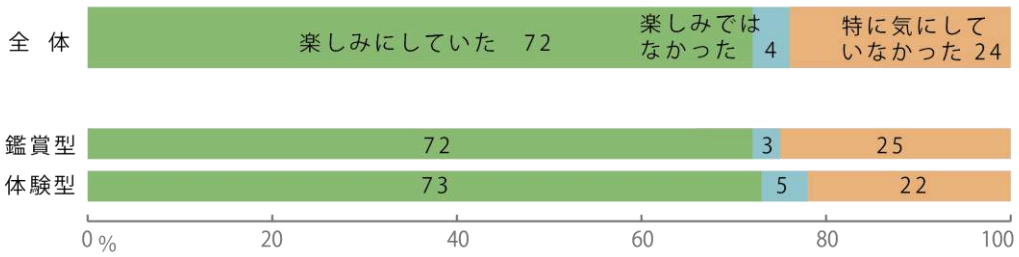
	16 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度
文化芸術団体	−	−	−	4	10	13	13	12	11	10
文化施設	−	−	−	0	4	12	14	16	17	20
事務局構成団体	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2
合計	**1**	**1**	**1**	**6**	**16**	**27**	**29**	**30**	**30**	**32**

学校プログラム　アンケート結果
児童・生徒向けアンケートから

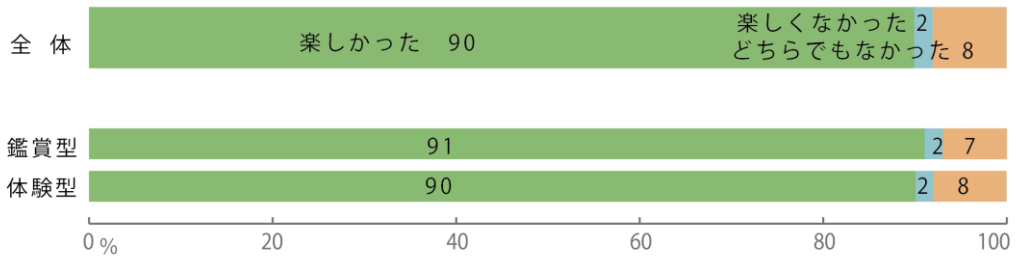
平成 25 年度の「学校プログラム」実施校の児童・生徒に対してアンケートを実施しました。アンケートの集計数は 6,284 人（うち鑑賞型プログラム 2,676 人、体験型プログラム 3,608 人）です。なお、このアンケートは、小学3年生以上を対象とし、複数学年での取り組みではどこか1つの学年でアンケートを実施しています。また特別支援学校では任意で実施しました。設問のうち自由記述は各取組み報告のページに示しました。

いずれも高評価になっています。「楽しかった」、「またうけたい」が9割を超えるなど、次回への期待がうかがえます。

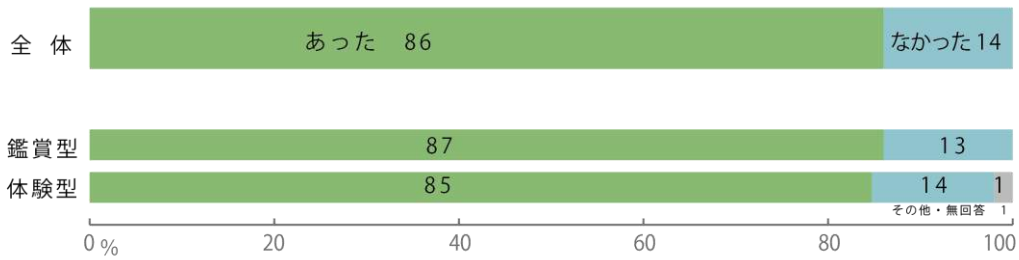
今回の授業を前から楽しみにしていましたか？



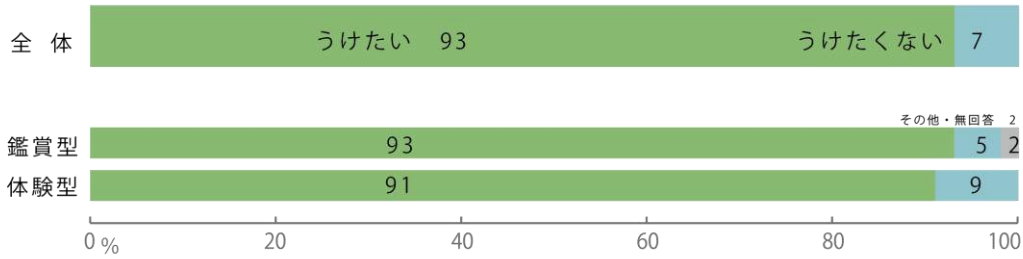
授業は楽しかったですか？



あなたにとって、この授業でためになったことはありますか？



あなたは、今回のような授業をまた受けたいですか？



学校プログラム　アンケート結果
教員向けアンケートから

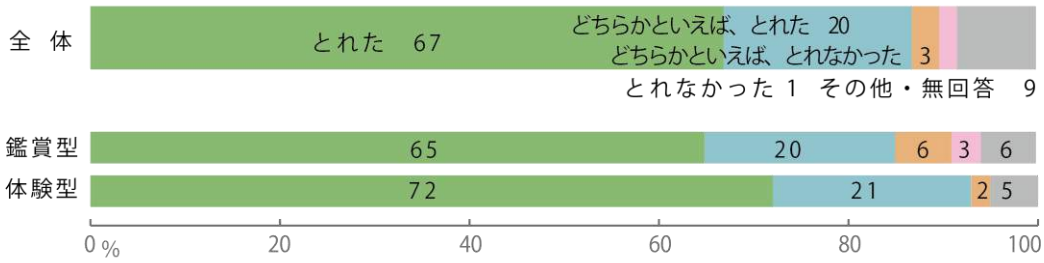
平成 25 年度の「学校プログラム」実施校の学校（もっとも事業に関わった教員）に対してアンケートを実施しました。アンケート回収数は 87 校（全実施校：92 校、回収率：92.4%）でした。

プログラム全体について

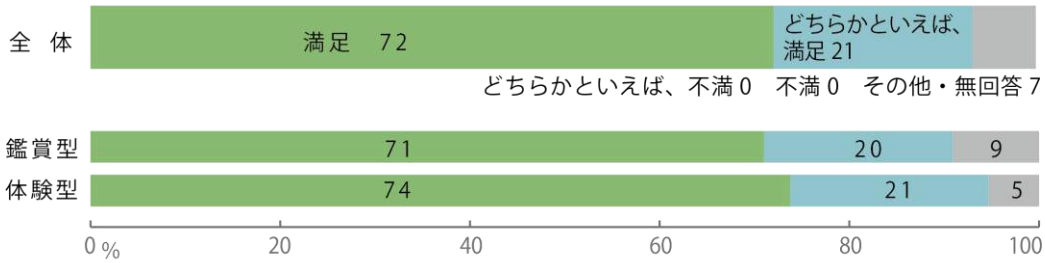
学校での取組みの実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションが「とれた」「どちらかといえば、とれた」はあわせて 87%。教員から見た子どもたちの満足度や、先生のねらいに照らした満足度も9割と高評価でした。

鑑賞型・体験型の間に見られた差は大きなものではありませんが、複数日にわたる体験型プログラムに関しては、教員とコーディネーター間でより密な連携ができる余地があると考えられます。

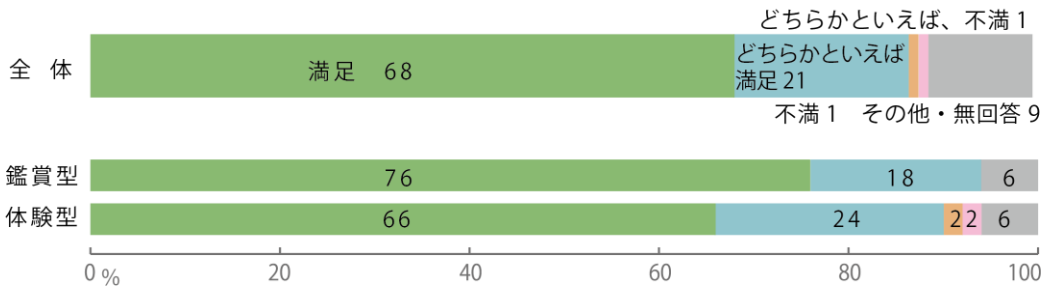
実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションをとることはできましたか？



子どもたちはプログラムに満足していたようでしたか？

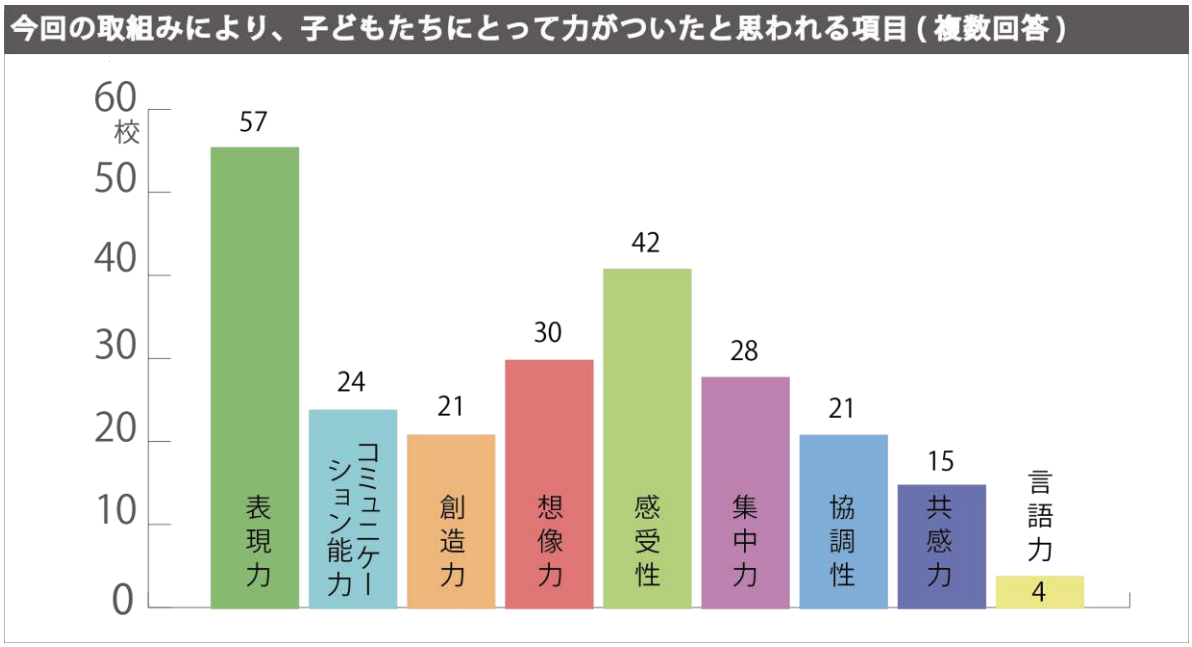


先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか？



実施終了後に子どもたちに「身についた力」

取組みを経て子どもたちに「身についた力」はどのようなものだったかを調べました。複数回答でもっとも多かった回答は「表現力」でした。次に高かったのが「感受性」。以下「想像力」「集中力」「コミュニケーション能力」「創造力」「協調性」と続きます。目に見えにくい、基礎的な力にも先生の注目が集まっていることが分かります。



それぞれの力は、具体的にどのようなものだったか、先生の自由回答を整理したものを、以下にまとめました。

表現力

・表現の仕方を見聞きして、自分の表現に生かそうとしていた。
・自分を表現することに控え目だった子どもたちが積極的に活動していた。
・最初は動きがほとんど想像つかなかったが、助言により様々な表現方法を考えることができた。
・言葉ではなく身体を使った表現方法を体験することで、表情が豊かになった。
・表現する際のよりよい方法について学べた。
・作りながら考え、表現していくこと、失敗することのない安心感もあり、回を重ねるたびに生き生きと表現する力が伸びてきた。
・いつもはできないことができ表現することができた。
・子どもたち自ら劇の内容を考え、表現していた。
・あまり発表しない子も友だちに認めてもらうことができて、自信を持ち活動することができていた。
・言葉だけでなく全身を使って表現しようとする姿が目立った。
・大きくしっかり動くことができるようになってきた。
・その子なりに感じたまま表現していた。
・はずかしそうにしていた子どもたちがだんだん動けるようになり、ハイタッチなど喜びを表していた。
・子どもたちの感想の中に、自分の表現に活かしたいというものがあった。

コミュニケーション能力

・互いに教え合い協力する姿。
・グループでよく話し合い、劇のセリフや役割を決めていた。
・どのグループも自分の考えを積極的に話したり、友たちの意見を聞いていた。
・話し合う場面が増えた。
・みんなで何とかする楽しさを感じていた。
・みんなといっしょに楽しそうにかかわり合い、仕上げられ、達成感を感じていた。
・テンションが上がって動く中で普段あまり関わりのない友だちとも自然に関わる姿も見られた。
・改めて友だちや自己を意識するコミュニケーションの場となった。

創造力

・グループで自分たちの日頃の動きをもとに仕草を考えていた。
・アンケートに自分の思いが表現できた喜びを書いている子が多かった。
・表現の幅が広がり、自分たちで作るダンスの振り付けにいかすことができた。
・話し合って決めたことを自分なりの表現で演じていた。

・自分で見つけた身近な素材を動かす楽しさを想像し、友だちと協力しながら作品にしていくことの喜びを子どもたちは感じ取っていた。
・最初は楽器の音をただ鳴らすだけだったが、徐々にどんな風にしたらいい音が出せるか、お話に合った音を表現できるか考えていた。

想像力

・いろいろな色を作ることを通して、想像力がついた。
・多様な身体の動きに感化されて、自由に身体を動かしていた。
・マスクの型やかざりつけなどが自分の想像力を活かして、取り組む姿があった。
・まねする姿が見受けられた。
・行き先を想像しながら絵を描いた。
・子どもたちが食べ物をダンスで表現できることに驚いていて、感想で「発想がゆたかになることがわかった」と言っていた。
・聴いた曲からイメージしたことを言葉にしたり絵に表したりしていた。
・出来上がった作品を見ながら、絵を作っている児童が見られた。
・アーティストの方の動きを見て、どんな場面かわかっていた。

感受性

・鑑賞を喜んで、楽しんでするようになった。
・初めて本物を聞いた子がほとんどで聞き惚れていた。
・歌やリズムにのせて体を動かしたり、メロディを口ずさんでいる子が多く見受けられた。
・好きになった、やってみたくなった等の意見が多く、心が動いた記述が見られた。
・すばらしい表現に触れてそれぞれが何かを感じとっていると思った。
・表情、動きに気を付ける様子が見られるようになった。
・音・光・振動、リズムなど日頃体験できない空間の中で、子どもたちの微細な感覚・感情を引き出すことができた。

集中力

・一人ひとりがとても集中して音に向かい、音楽を楽しんでいた。
・太鼓の迫力に微動だにせず、聞き入っていた。
・いつもならそんなに集中してない子たちも目の前での演奏に言葉を失い、聴き入っていた。
・集中して振り付けを覚えようとする力が育った。
・普通の授業では集中できない子も熱心に取り組むことができた。
・集中して取り組んでいる子が多かった。
・聞きもらさないで習おうとする雰囲気が高まっていた。
・とても長い話だったのであらすじを理解することで集中力がついた。

協調性

・2人1組で演奏し、伴奏を考える事で協調性が高まった。
・お互いの音を聴き、合わせようとしていた。
・同じ楽器の仲間で協力して演奏している姿を見た。
・3人で合わせるだけでなく、みんなと合わせることに身体の全部使っていた。
・任せられたことによって「みんなでつくり上げよう」という気持ちが高まった。

共感力

・仕事にする(プロになる)ということの大変さを知った。
・演奏家の楽しそうに表現する様子をみて、楽器に対する関心が高まり、演奏をしてみたいという気持ちがより一層強くなった。
・仲間の叩くリズムを聞いて、それに応えるように自分が叩く活動を通して、お互いを感じ合う経験ができた。
・3人1組で行うので、友だちを思いやる気持ちなどがとても成長した。
・自然と体を動かしている様子が見られた。
・体を揺らしたり、リズムに乗って指揮をしてみたりと一体となっている様子がうかがえた。

言語力

・普段活発にしゃべらない生徒が自分の思ったことや考えたことを何とか言葉にしようとしていた。
・古語で書かれた文字、内容の理解を実際の演者や動きを見ることを通して、深められた。

【学校プログラムの個別報告】

音楽分野の取り組み

目の前で縦横無尽に奏でられる「生の音」に触れてみます。聴くことや見ることといった鑑賞を足場に、自分たちが実際にやってみる体験へと活動を広げ、音楽の楽しさを実感していきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立駒岡小学校＋サルビアホール ジャズを体験しよう！

担当アーティスト	名本海希（ビレッジボイス）、本郷修史
実施校	駒岡小学校(鶴見区)
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ジャズ／6 学年 3 学級 103 名
実施日程	2013 年 8 月 30 日(金)

授業のねらい

聴いたことがあるジャズの曲、ジャズではない曲もジャズに変身するなどの例を鑑賞した後、実際にリコーダーと歌で演奏を体験する。
コードの変化で曲の雰囲気が変わることや、リズムなどを感じてもらい、ジャズという音楽に興味を持つきっかけをつくる。

アーティストから

3 クラスとも同じプログラムを行っているが、リコーダー演奏が得意なクラス、英語の歌が得意なクラスと、それぞれ特長があり、毎回、新鮮で楽しかった。帰り際に「楽しかったよ。」と声をかけてくれる子どもたちがたくさんいて、嬉しく感じた。短い時間の中で、ジャズは楽しく聴いたり、演奏の「楽しさ」を伝えることが出来たと思う。

コーディネーターから

ジャズを体験しよう！がテーマのプログラムを 45 分授業で 1 クラスずつ計 3 回、3 クラス授業を行った。短い時間の中で視聴、歌、リコーダーとかなり盛りだくさんな内容だった。子どもたちも演奏に参加して、リコーダーと歌で 1 曲ずつ数回練習し、最後に講師と一緒に演奏した。初めて吹くリコーダーの曲や英語の歌を、どちらも短い時間の中で覚えて演奏する子どもの吸収力の素晴らしさに驚いた。

先生から

目の前で生の演奏、生の歌声を聞くことで子どもたちの感性を揺さぶることができた。この授業のあと、6 年生の教科書にある「スワンダフル」の学習に生かすことができた。アーティストが教科書にある曲やＣＭで耳慣れた曲など子どもたちがより身近に感じることができるよう工夫し、準備してくださったことでこの時間だけでなく、事後に生かすことができたと思う。

子どもたちから

リズムがおもしろかった。／英語の発音が聞けてよかった。／自分でいろいろできた。／ジャズが好きだった。／ジャズを初めて知り、新鮮だった。／ジャズ初めてでジャズの法則などが面白かった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立東台小学校＋サルビアホール サックスのひびき

担当アーティスト	QUARTET　LIEN（サクソフォン四重奏）
実施校	東台小学校(鶴見区)
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／サックス／5 学年 4 クラス 138 名
実施日程	2013 年 10 月 18 日（金）

授業のねらい

小学生があまり聴く機会のないサックスの音色と、ハーモニーの美しさを迫力の生演奏で体験してもらう。聴くだけでなく、歌やリコーダーで共演するプログラムも入れることで、より親近感を感じてもらえるようにする。今まで知らなかった音楽を知りたいという行動につながるきっかけや、聴いた子が何か学んだり、気持ちの中で何かが変わったり、その後の何らかの行動につながるような機会としたい。

コーディネーターから

公演前にビデオレターを学校に送付し、予告編を見て頂くという試みを行ったところ、楽器の名前、アーティストの名前を覚えてくれ、イベントへの関心の高さがうかがえた。

アーティストから

本番前は「聴いてくれるだろうか？」と緊張したが、名前を呼んでくれたり、楽しそうに演奏を聴いてくれたので、とても嬉しかったし、モチベーションアップにもつながった。演奏活動をしていく中で大変なこともある。喜んで聴いている笑顔に支えられて続けていくことができるのだと再確認した。また自分たちの演奏を聴いて、サックスや音楽に興味を持ってくれる子が増えたら、演奏者として光栄だと思った。

先生から

プロのミュージシャンの生の音や素晴らしいパフォーマンスを感じて、自分たちも楽器に触れてみたい、演奏してみたいという気持ちが芽生え、音楽の楽しさと奥深さを実感することができたようです。プロのミュージシャンが「1 日 10 時間以上練習する」という言葉からどの世界でもプロになることの大変さや一生懸命頑張ることの大切さを肌で感じていたようです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立神橋小学校＋かなっくホール 歌う楽しさ、よろこび

担当アーティスト	小沢祐美子(ソプラノ歌手)
実施校	神橋小学校(神奈川区)
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／6 学年 3 学級 92 名
実施日程	2014 年 2 月 24 日(月)、3 月 5 日(水)・12 日(水)

授業のねらい

「本物の芸術」に触れる機会がほとんどないので、貴重な芸術体験の機会として位置付ける。また、卒業式に卒業生が合唱を披露するのが毎年の恒例になっているため、このワークショップを通して発声のコツやスキルを身につけるとともに、声を出すこと、歌うことの楽しさを学び、歌う喜びを共有することで、卒業式に向けてのモチベーションアップに繋げる。

アーティストから

今回は小学校で教えることの喜びと難しさを体感させていただきました。まず、歌うことの楽しさを知ってもらうために、ソプラノ・ミニコンサートを実施したことで、歌の世界に興味を持ってくれたように感じました。また、腹式呼吸で体を使って歌うこと、歌詞の意味を理解して心を込めて歌うことを指導しましたが、子どもたちがリラックスしながらも真剣に取り組んでくれて、授業の時間内で目に見えて上達したことに手応えを感じました。

最後の全体での合唱では、テクニックだけでなく気持ちを高めて全員で歌の情景を一つに描くことが出来たことで、大変まとまりのある素晴らしい合唱になったと思います。

反省点としては、学校の時間割の関係もありますが、時間内での配分が難しかったことや、音楽担当の先生方の指導方針と異なる部分についての意見交換、当日の打ち合わせなど、期間中に少しでもコミュニケーションが取れれば更により良い内容に高められるのではないかと思いました。

コーディネーターから

卒業式における、卒業生から在校生への歌のプレゼントのクォリティ・アップという明確な到達目標を設定しながらも、単なる歌唱テクニックの指導ではなく、プロの歌い手がどのように歌に心を込め、表現に繋げるのかといった「マインド」を子どもたちに伝えたい、との担当の先生の思いを受け、プログラム設計を行いました。6 年生という年齢的な難しさはあったものの、最後は音楽に表情が生まれ、歌うことの楽しさを心で感じてもらえたように思います。ただ、子どもたちの教室移動時間などを除いた有効時間と授業内容とのバランスの取り方や、先生との日々のカリキュラムの共有、進捗確認の時間をうまく持てなかったことが反省点でした。

先生から

なんでも同じだと思いますが、子どもたちは「本物」を目の前にすると口を閉じて目を見張ります。そして真剣な表情になります。おそらく「本物」とそれを培ってきた、雰囲気に圧せられるのだと思います。子どもたちの力を伸ばすというよりは、その「本物に触れる」機会と「触れたときのおどろき」をこういった取り組みで大切にしたいと考えています。

子どもたちから

同じ歌でも歌い方によってちがうことがわかった。／高い声ってあのくらい出るんだ！と思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立羽沢小学校＋かなっくホール ゴスペルのひびき

担当アーティスト	HAL&Panda(ゴスペルシンガー)
実施校	羽沢小学校(神奈川区)
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ゴスペル／4 学年 3 学級 104 名
実施日程	2013 年 10 月 31 日(木)

授業のねらい

この学年（4 年生）は好奇心が旺盛で頑張り屋が多い。しかしながら、力はあるにも関わらず人前に出ると失敗を恐れてか萎縮してしまい、実力（練習の成果）を発揮できない子が多いように見受けられる。彼らに失敗を恐れず自信を持って表現することの楽しさ、喜びを伝えたい。

アーティストから

ゴスペルには、GOD SPELL、Good News（福音）の意味があります。100 分のワークショップの中で、この先の子どもたちの人生を照らす Good News（希望の光）を届けられるよう、気合いが入りました。初めは恥ずかしがっていた子どもたちが、段々真剣になってゆく過程が私たちの喜びの一つでもあります。
今回は初の試みとして、私のオリジナル曲「祈り」の歌詞を子どもたちの言葉に置き換えて歌うことにしました。『美しい空が、美しいままでありますように！』の「空」の部分に、子どもたちの豊かな感性で選ばれたたくさんの言葉が嵌め込まれました。これは大成功でした。羽沢小学校 4 年生の「祈り」の歌が出来ました。
中身の濃い 100 分を終えた後、私たちがプレゼントで歌った「君は愛されるため生まれた」という歌を聴いて、「ジーンとした！」「涙が出そうになったよ！」「いい歌だった！」と、子どもたちが一生懸命に私たちに伝えてくれました。真剣に受け止めてくれた子どもたちに感謝します。
小学校時代に歌手になりたい！と夢を持ち、夢を叶えた HAL&Panda にとって、音楽を通して子どもたちと過ごす時間はかけがえのない大切な時間です。

コーディネーターから

最初に担当の先生からお話を伺った際、子どもたちが自分の持てる力を自信を持って発揮できるようになるよう、音楽の力を借りて自分を表現することの楽しさ、喜びを知ってもらいたいたい、と子どもたちへの愛情たっぷりのコメントをいただきました。HAL さんと Panda さん、そして音楽の力のおかげで、子どもたちの表情がみるみる生き生きとしていくとともに、先生がとてもいい笑顔をしていらっしゃったのが印象的でした。こうした笑顔の連鎖を生むのがまさに音楽の力なんだろうと再認識した 1 日でした。

先生から

コーディネーターの方が親身になって相談のってくださったので子どもたちの実態にあったプログラムとなりました。アーティストの方の演奏を聴いて、普段触れることのないゴスペルのよさを知ることができました。日頃の音楽の授業でも生かしていきたいです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立六つ川台小学校＋吉野町市民プラザ ジャズのリズム

担当アーティスト	ユキ・アリマサ(ジャズ・ピアニスト)
実施校	六つ川台小学校(南区)
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ジャズ／4 学年 2 学級 53 名
実施日程	2014 年 1 月 21 日(火)・25 日(土)・27 日(月)

授業のねらい

ジャズは横浜にとってゆかりのある音楽でありながら、子どもにとって、聴く機会は多くありません。まず、本物のアーティストによる生演奏を間近で鑑賞し、ジャズ特有のリズムやハーモニーを体験します。また、子どもたち自身も楽器を持って、実際にアドリブを体験します。お互いに聴き合いながら自由に表現する楽しさと、アーティストと一緒に演奏する喜びを味わうことを目的として取り組みを行った。

アーティストから

今回は、アドリブで自由に音楽をやってみることと、ジャズのリズムを体感することの２点を中心にワークショップを行いました。今までのワークショップと比べて、少し難しいかなと思う提案をしても、子どもたちは難なく挑戦していました。ベースラインの音を良く聴いて、リズムを感じてアドリブをしていたのが印象的でした。最終日の発表は、クラスのカラーに合わせて演奏形式を選びました。

コーディネーターから

２つのまったく違う個性を持ったクラスを、それぞれに合ったプログラムでうまく展開してくださいました。最初はとまどい緊張していた子どもたちが、時間を追うごとに笑顔があふれ、自由な発想で音楽を生み出していきました。アドリブ演奏という難しい課題に真剣に取り組み、最終日には身体全体でリズムを感じ音楽を楽しんでいた姿が印象的でした。学校全体でこのワークショップを支えてくださった方々の想いが、子どもたちの真剣な姿につながったと感じています。

先生から

担任はただただ見守るのみでした。でも子どもたちの変化にとてもうれしく思いました。リズムのもつ楽しさ、音楽のもつ楽しさを見守った３日間でしたが、とても感謝いたしております。アーティスト方の大きなそして豊かなご指導のおかげだと思います。音楽に対して苦手意識を持っていた子が生き生きとして本当によかったと思います。

子どもたちから

頭の中のリズムができた。／遊んでいるみたいなのに音楽だった。／いつも違う音楽で好きなリズムでできた。／アドリブなのに音が重なって楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立峯小学校＋横浜シティオペラ
オペラへの好奇心 1

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	峯小学校(保土ヶ谷区)
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／3・4 学年 211 名
実施日程	2013 年 12 月 9 日(月)

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや楽しさを知ってほしい。また今後の音楽表現や人間関係を創るコミュニケーション能力の一助になってくれることを目的とする。

アーティストから

鑑賞態度はとても良く、物語に興味を持ち、目を輝かせて観てくれていた。反応も良く出演者たちと共に喜び、共に笑ってくれた。オペラの後に生徒全員と出演者とで合唱をした時にも元気よく、明るい子どもたちに大変感動した。

コーディネーターから

舞台とは音響的に異なる体育館での公演でしたが、機械ではなく生の音を聞いてもらう事によって、明らかに子どもたちの音への好奇心が増し、演技へ集中しているのが感じられました。これをきっかけに子どもたちがオペラというジャンルに対して親近感を持ってくれることと思います。

先生から

音楽を通して子どもたちが感じ取ったことを学校生活の中で表現していくことができることがとても有意義であると感じました。子どもたちが学校の授業で触れることができない領域を体験することができてとても満足できたと思います。

子どもたちから

劇に興味をもち自分もやってみたくなった。／歌が好きになった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立並木第一小学校＋子どもに音楽を ヴァイオリンとピアノのハーモニー

担当アーティスト	横山奈加子(ヴァイオリン)、諸田由里子(ピアノ)
実施校	並木第一小学校（金沢区）
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／弦楽器／3・4 学年 129 名
実施日程	2013 年 11 月 28 日(木)

授業のねらい

３年生（66 名）が希望学年ですが、４年生（63 名）も希望されたので、1 回の時間を短縮して 2 回、演奏していただくことにしました。音楽を通して豊かな心を育むことを目的にする。

アーティストから

皆とても元気がよく「小学校に弾きに来た！！」という実感たっぷりでした。校歌を演奏した時に子どもたちが楽譜を覗きに来たのが印象的でした。「とにかく音楽は生演奏が一番」と思っているので子ども達へ演奏を届けるのは本当に素晴らしい仕事。子どもと高齢者はこちらも真剣勝負で弾かないとそれを感じ取られてしまうので、演奏する側も勉強になります。

コーディネーターから

３年生には時間が長かったこともあるかもしれないが、少し集中力に欠けているところもあった。４年生はいつもの様に静かに聴いていた。帰りに参加していた男性の先生が大きな声で校庭の遠くから「ありがとうございました！」と言ってくださっ

先生から

音楽が好きな子どもは意識が高く、とても集中していて微動だにせずじっと音色に耳を傾けていました。音楽が苦手な子どもの一部も食い入るように見つめ､離席することなく 40 分間座っていたので、さすが一流の演奏は子どもの心をとらえて離さないんだなと思いまいた｡感想の中にヴァイオリンを身近に感じ、好きになった、やってみたくなった等の意見が多く、心が動いた記述が見られました。

子どもたちから

きれいな音で心に染みました。／ピアノと一緒に弾いてるものを聞いて感動しました。なぜなら２つの音が混ざって素敵な音になったり低くなったりしたからです。／聞いて心が揺り動かされるような感じでとても心に残りました。／「よくあんなに早く指が動かせるな」と思いました。何度も練習しているんだなと思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立西富岡小学校＋Media Global ドラム缶からできた楽器スティールパン！

担当アーティスト	珠[TAMAKI](スティールパン奏者)
実施校	西富岡小学校(金沢区)
コーディネート	企業組合 Media Global
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／スティールパン／5 学年 2 学級 64 名
実施日程	2013 年 11 月 27 日(水)～29 日(金)

授業のねらい

コミュニケーション能力の育成。 自分の表現に自信を持ち、創造力を豊かにする。表現の過程を大切に協力して音楽を表現する。

コーディネーターから

様々なプログラムを体験されている継続校。１クラス１時限ずつ２日間と３日目は合同練習と発表という短時集中授業でした。スティールパンという普段触れることが少ない楽器でしたが積極的に取り込んでいただけたと思います。

アーティストから

短い時間の中、子どもたちは真剣にスティールパンに取り組んでいた。事前にスティールパンの音階の配置図を配ったところ、「家でいっぱい練習した！」と笑顔で応えてくれ、配置図作戦は有意義だった。演奏発表にも積極的に手を挙げてくれスムーズな授業となった。たくさんの子どもたちに楽器に触れてもらうよう配慮したが、発表でスティールパンが出来なかった子どもたちも音を楽しんでもらえたのではと思う。

先生から

スティールパンという珍しい楽器に触れ、興味を持った子どもたちがたくさんいました。体験型ということで、実際に演奏できたことはとてもよかった。発表の場で全員が演奏できるような工夫や構成があるとさらによかったと思う。アーティストの方は魅力的で子どもたちの気持ちをよくつかんでいてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立能見台南小学校＋横浜こどものひろば ボディーパーカッションで校歌を歌おう、踊ろう

担当アーティスト	古川はじめ(音楽家)
実施校	能見台南小学校(金沢区)
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ラテン音楽／5 学年 4 学級 147 名
実施日程	2013 年 10 月 23 日（水）・30 日（水）、11 月 12 日（火）

授業のねらい

ラテン音楽のリズムと使われる打楽器を体験し、普段あまり触れない音楽を身近に楽しんでもらう。「能見台南小学校校歌」サルサバージョンを歌い踊って、よりラテン音楽に親しむ。

アーティストから

体を打楽器として、年齢的にはやや複雑と思えるリズムを、クラスごとそれぞれ異なるものを指導した。その複雑さに最初ほとんどの子どもたちは戸惑っていたが、何度もリズムを口で歌うこと、一連の動きをダンスのように捉えることで、途中止まってしまっても、立ち戻れるようになり、最終日の合奏では見事に完成していた。合奏に使用した曲は、校歌をサンバ風にアレンジしたものだが、真剣にリズムに集中する箇所、歌い楽しむ箇所など子ども達それぞれにメリハリがあった。子どもたちは楽しみ方さえ知ってしまえば、どんどん吸収してしまうということを改めて実感した。

コーディネーターから

担当アーティストの古川さんは本プラットフォームの事業に参加されて３年目となり、ますます子どもとの距離を縮めることに成功されていると感じています。今年は前年度までの２年間と少し異なり、ボディーパーカッションの手法でやや複雑なリズムを体感して、体に入れることを目指していました。このことは簡単そうではあり、本来誰しも身に備え自然に行えることではあるが、今の時代にはとても大きな意味のあることです。子どもたちはその本気さにしっかりついていってていたと思いました。授業内容とアーティストの意欲（面白がる）が共に進歩して、毎年継続されること、積み重ねることの意味がとても感じられた良い時間でした。

先生から

高学年になると演奏表現といっても歌う、楽器を演奏することに限られてしまう。今回、体を動かして楽しく表現する子どもたちの様子を見て、高学年でもこのような活動は大切で授業の中で取り入れていきたいと思った。コンサートも楽しいプログラム構成ですばらしいと思った。

子どもたちから

体を動かして演奏するのが楽しかった。／いろいろな楽器にふれることができてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立城郷小学校＋よこはま音楽広場実行委員会 弦楽カルテット～気持ちをあわせて～

担当アーティスト	中一乃(ヴァイオリニスト)
実施校	城郷小学校(港北区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／弦楽器／6 学年 3 学級 95 名
実施日程	2013 年 12 月 18 日（水）

授業のねらい

弦楽四重奏を通して、クラシックをより身近に感じてもらいたい。生の音楽に触れることで、豊かな感情体験をもってもらいたい。

アーティストから

どこか懐かしさの残る城郷小学校。6 年生を対象に 45 分弦楽四重奏で演奏させて頂きました。子どもたちはお行儀良く、興味津々で、色々なことに素直に反応しながら一生懸命に聞いてくれました。演奏しているかなり間近で聞いてくれていたので、その一生懸命さが直接伝わってきて、私たちも、とても嬉しかったです。

モーツァルトやバッハなど著名な作曲家の写真が壁に貼られていて、その人たちに曲を演奏した時には、その写真を何度も振り返りながら聞いてくれていたのも印象的でした。最後に、一緒に何か出来たらということで、卒業式に歌う『旅立ちの日に』を弦楽四重奏で伴奏しましたが、みんなとても上手に、しっかり歌ってくれて、初めて聞く、弦楽四重奏の前奏に　「お～」と反応してくれて、やって良かったなと思いました。

楽器の紹介や、演奏の仕方、音域の違いなど、色々説明しましたが､みんな興味を失わず最後まできちんと聞いてくれて、これからどんな形になっても弦楽器や、音楽に興味を持ってくれるきっかけになれたら嬉しいです。

コーディネーターから

弦楽四重奏による生演奏を子どもたちに間近で聴いてもらいたいという音楽専科からのご要望に答えられるようにアーティストを探しましたが、困難だったのは、４人の演奏者のスケジュールと学校側の希望される日時との擦り合わせでした。また、音楽室という限られた空間の中で３クラスを２つのグループに分けるなど、先生方の采配もとてもよかったと思います。卒業式で歌う曲をいつもと異なる雰囲気で歌唱したこと、思い出の１ページになることを祈っております。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立小雀小学校＋さくらプラザ ドレミパイプ合奏「♪テキーラ」

担当アーティスト	萩原広充(パーカッション＆ドラムス)、佐藤深雪(ダンサー)、吉野有子(ダンサー)
実施校	横浜市立小雀小学校(戸塚区)
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	音楽／体育・保健体育
実施概要	体験型／パーカッション／4 学年 2 学級 82 名
実施日程	2014 年　2 月 24 日(月)、3 月 6 日(木)・7 日(金)

授業のねらい

４年生最後のイベントとして、全員で一体感・達成感を得られる内容に。「歌」＋「α」…普通の合唱で終わらず、インパクトのあるものに。全員が参加できるものに。３年生の時に、公会堂での戸塚音楽祭に出場しており、合唱経験があるのでステップアップしたい。

アーティストから

もう少し（あと１日くらい）時間があれば、子どもたちも発表の場で緊張せずにできただろう。やはりお父さんお母さんの前で緊張している子も多かった。子どもたちの取り組む姿勢や純粋さ、素直さをストレートに感じた。先生の指導にも学ぶ部分が多くあり、今後の創作活動やワークショップの参考にもなった。今回のワークショップで子ども自身が、何かに気づき、成長するきっかけになれば良い。

コーディネーターから

アーティストには、打合せ段階から何度も学校へ足を運んでいただいたり、多くの協力をいただいた。それがなければ、ここまでのパフォーマンスにはできなかっただろう。学校での自主的な練習をしてもらったことも大きい。楽器のパート分け、体育館でのフォーメーション指導の進行など、アーティストもその場で考えたりすることも多かったが、複数回このワークショップを重ねられれば、本番の完成度も上げられると感じた。「本番」がある取り組みに関しては、アーティスト・学校、双方の協力と十分な期間が必要である。

先生から

今回私たちの学校では 1／2 成人式と絡めてこの取組に参加させていただきました。私たち教師の「こんな式にしたい」という思いをコーディネーターの方が汲み取ってくださり、それに合うプログラムを提供してくださったことに感謝いたします。子どもたちにとっても思い出に残るものとなりました。

子どもたちから

ドレミパイプで演奏して、家族に見せられたのがよかった。／みんなで一つの曲を演奏できて楽しかった。／音が合った時のうれしさ、曲になった時のうれしさは忘れられない。／達成感を感じることができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立俣野小学校＋アートの時間
熱帯バリ島の不思議な音楽“ガムラン”２０１３

担当アーティスト	櫻田素子(ガムラン奏者)
実施校	俣野小学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ガムラン／4 学年 1 学級 23 名
実施日程	2013 年 9 月 24 日(火)・27 日(金)・30 日(月)

授業のねらい

西洋音楽とは成りたちが違う音楽を肌で感じ、自ら体験することで子どもたち自身の音楽表現を広げる。また互いの音を聴き合い、身体を使って息を合わせるという演奏におけるコミュニケーションを体験し、大勢で演奏する楽しさを実感する。

アーティストから

ガムランは不思議な響きでその空間を満たす音楽。この音楽を身体全体で感じてほしいと、楽器を演奏し、演奏に合わせてバリ舞踊も踊る、という体験を提供しました。好奇心にあふれ、自分の音と全体の音を同時に感じること、耳で聴き、目で見て、息を合わせて演奏すること、音楽と踊ることとの密接な結びつき、などを感度抜群に吸収した子どもたち。柔らかい心と身体で生き生きと伸びやかな表現を続けていくことを願っています。

コーディネーターから

同じフレーズの繰り返しになるとどうしても音は走ってしまう。しかし講師はそれをあえて正さない。子どもたちに収束させる。音に漂う体験をして欲しいという。リードする者がいない音楽のなかで子どもたちは互いをさぐり、見事に収束していく。唯一頼りにできるのが自分自身の踊りの体験。演奏と踊りは緊張感のなかで常時会話をしている。子どもたちの目は真剣になる。今回は正に芸術の入口に立つ経験ができたのではないかと思う。

先生から

ガムランの踊りや音楽に触れて、そこから感じ取ることも一人ひとりの子どもにとても貴重ですが、アーティストの方々との関わりから感じ取ることも今回とても貴重なものに感じました。特に踊りを教えていただいたアーティストの方からは子どもをぐいぐい惹きつける魅力を感じ、夢中になってインドネシアの踊りをイメージして踊ることができました。人を通じて、ガムランの楽しさやよさをあじわっていたと思います。私自身、教師として子どもを惹きつける魅力を身につけていかなかればとも思いました。

子どもたちから

ドレミファソラシドの音が日本と少し違うところが印象に残った。／日本にない楽器などをた弾いたことが楽しかった。／外国のおどりや歌を知ることができた。／日本の音楽とはちがう不思議な感じの音楽で世界にはもっとちがう音楽があることが分かった。／知っているリズムがこの授業で増えた。／リズムをたくさん見つけることができた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立永谷小学校＋吉野町市民プラザ
音楽で発見！　みんなでイメージを伝えよう

担当アーティスト	大石将紀(サックス奏者)、新居由佳梨(ピアニスト)
実施校	永谷小学校(港南区)
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／サックス・ピアノ／4 学年 3 学級 92 名
実施日程	2014 年 1 月 23 日(木)・30 日(木)・31 日(金)

授業のねらい

プロの演奏する本物の音楽を身近に触れ、感性を揺さぶられるような経験を味わってもらいたいです。自分が感じたこと、イメージしたことを言葉や絵で表現してクラスのみんなに発表し、感じ方や表現の仕方がたくさんあるということをみつけ、お互いに個性を尊重し合い、コミュニケーション力を高めます。また、目の前にいる演奏家の表情、表現、息遣い、そして音楽から感じ取れるものをみつけ、自由にイメージする力を高められる機会とします。

アーティストから

今回大変驚いたのは、永谷小の子どもたちが、こちらの投げかけに対し能動的なだけではなく自発的に学び、遊ぶことができることでした。何かをこちらから教えるという姿勢ではなく、音楽、絵を使って一緒に「遊ぶ」という姿勢で臨みましたが、音楽と絵から導きだされる彼らの想像力に触れ、私も時を忘れて遊んでいました。音楽、美術、ダンス、どんな芸術でも未知のものに触れた時に、それぞれが自分の感性においてどのように自由に遊べるか、それが芸術に親しむことの鍵であることを再確認しました。

コーディネーターから

金ぴかの楽器から、いろんな音がする！　ピアノを演奏している指が早過ぎて見えない！　楽器と音楽から、たくさんのびっくりが飛び出して、大石さんのサックスと新居さんのピアノに子どもたちはすっかり夢中。知っている曲だとみんなで歌い出す、お話しや音楽を聴くとき、講師の質問に答えるとき、子どもたちがこのひと時を全身で楽しんでいるのが伝わってきました。本物の音楽で表現力、想像力が引きだされ、芸術の素晴らしさを感じる、子どもたちにとっても、我々にとっても、大変充実した３日間でした。

先生から

アーティストの方が子どもたちとの出会い方・導入を工夫されている様子から日頃の授業を行う上で自分自身が努めていることとの繋がりを改めて感じました。子どもたちが瞬時に引き込まれていく姿は素晴らしかったです。また、アーティストのお２人が子どもたちにできるだけ寄り添おうとしてくださっていることが伝わってきました。

子どもたちから

最初の出会いが楽しかった。／色々な曲を聴けたことが楽しかった。／楽器の色々なことを知り、音を聴くことができて楽しかった。／演奏を聴き、絵を描くことが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立日限山小学校＋横浜市芸術文化振興財団 歌声の響き

担当アーティスト	柏原美緒(声楽家)
実施校	日限山小学校(港南区)
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／声楽／5 学年 3 学級 100 名
実施日程	2013 年 11 月 25 日(月)・30 日(土)

授業のねらい

声楽家の生の声に接することで「人の声」の魅力を知る。響きのある声で歌う意欲を育てる。

アーティストから

大きく元気な声を出す。一見、簡単そうですが、５年生ともなるとなかなかそうはいきません。そんな中、強制的に声を出させるのではなく、安心して気持ちよく声を出せる環境作りから始めました。いい声を出すために体をほぐすことはもちろんのこと、より大事なのは心をほぐすことではと常々考えております。そして２日間の授業を通して、世界にたった１つしかない自分の楽器＝声を自信を持って奏でるお手伝いができたら嬉しい限りです。

コーディネーターから

最初は緊張していた子どもたちも、体をほぐす体操や腹式呼吸の練習を通じて緊張が解けてきた様子でした。それに伴い１日目の終わりには、最初に比べより力強い歌声が出せるようになりました。2 日目は、息継ぎのタイミングやリズムの取り方、声を伸ばすタイミングなど、楽譜を見ながら講師と確認をしました。講師がアドバイスをするごとに子どもたちも工夫をし、子どもたちの歌声がどんどん変化していく様子がありました。

先生から

アーティストの歌声に接し、＜人の声の素晴らしさや迫力を感じ取り＞それが＜体全体を使うことによって生み出されること＞を理解できた子どもがたくさんいました。こちら側のねらい通りに授業を組み立てていただけたと考えています。今回は日限山小では初めてバリトンの方にも加わっていただきました。ソプラノの方との音の重なりもあり、演出もあり、子どもたちは例年に増して楽しめた様子です。プログラム内容の中に知っている歌が多く、興味を持って鑑賞できた面もあったかもしれません。選曲もバッチリでした。

子どもたちから

大きくきれいに声が出せたから。／歌うのに体全体が楽器になっていたから。／歌が上手くなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上川井小学校＋サンハート サクソフォンカルテット鑑賞会

担当アーティスト	Green Ray Saxophone Quartet(サクソフォンカルテット)
実施校	上川井小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／サックス／全学年 151 名
実施日程	2013 年 11 月 19 日(火)

授業のねらい

クラシカルサクソフォンという楽器について学ぶと共に、クラシック音楽全体の歴史の中でのクラシカルサクソフォンの位置づけについても勉強する。また、身近なポピュラー曲や校歌等を一緒に演奏することで、音楽を奏でる楽しさを実感する。

アーティストから

Green Ray Saxophone Quartet にとって、初めてのアウトリーチとなりました。低学年と高学年に分かれての授業でしたが、子どもたちの反応に違いがあり新鮮でした。アニメの主題歌をベース部分（バリトン）だけで演奏した際に、すぐに何の曲なのか当てたり、教えたリズムを正確に叩くことが出来たりと、子どもたちの音感・リズム感の良さには驚きました。今回の経験を大切に、またアウトリーチ活動にチャレンジしたいと思います。

コーディネーターから

サクソフォン四重奏の特徴を活かしたプログラムを組んでいただきました。バリトンからソプラノまでの音域・音色・役割の違いを楽しみながら学べたと思います。低学年・高学年ともに集中して演奏を聴いている姿が非常に印象的でした。
また、プログラムを考案するにあたり、ご担当の先生に児童の特徴やアドバイスをいただきながら進めることができ、心強かったです。

先生から

小規模校ということやなかなかプロの演奏に触れる機会が少ないという実態をコーディネーターのサンハートの担当の方にお話し、曲選びや参加できる部分も工夫していただき、子どもたちがサックスや音楽を楽しめるプログラムを組んでいただきました。その結果、短い時間の中でたくさんの曲をいろいろな形で楽しめ、音楽が好きになったという感想をもつ子どもも多くいました。給食の交流もしていただき、より興味をもったようです。1 回の公演で劇的に何かが変わるということはないと思いますが。今回、サックスを身近で生で聴いたという経験はこれからの音楽活動や生活の中での音楽やサックスへの意識が変わり､心の豊かさにつながっていくのではないかと感じました。今後も様々なプロの方々と触れ合える機会を提供していただきたいと思います。

子どもたちから

迫力があった。／アーティストの音楽を生で聴くと、音が大きくとても響いていた。／校歌をサックスでできてよかった。／音楽に興味をもった。／楽しい気分になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立白根小学校＋横浜シティオペラ
オペラへの好奇心２

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	白根小学校(旭区)
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／3・4 学年 6 学級 224 名
実施日程	2013 年 12 月 4 日(水)

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや楽しさを知ってほしい。また今後の音楽表現や人間関係を創るコミュニケーション能力の一助になってくれることを目的とする。

アーティストから

鑑賞態度はとても良く、物語に興味を持ち、目を輝かせて観てくれていた。反応も良く、笑ったり応援してくれたり、一体感を感じさせてくれた。オペラのあとに子どもたちより音楽や、声楽・オペラについての質問を受けた。積極的で興味の深さを感じ嬉しかった。

コーディネーターから

舞台とは音響的に異なる体育館での公演でしたが、機械ではなく生の音を聞いてもらうことによって、明らかに子どもたちの音への好奇心が増し､演技へ集中しているのが感じられました。これをきっかけに子どもたちがオペラというジャンルに対して親近感を持ってくれることと思います。

先生から

初めてオペラを観たという子どもがほどんどでした。オペラの世界に引き込まれ、夢中になって楽しんでいる子どもたちがドキドキわくわくしながら、そして、魔女の言動に大笑いしていました。そんな姿を見て、音楽を教科書だけでしか知ることができなかった本物のオペラを観ることができたことは子どもたちが将来舞台を観に行こうというきっかけにもなったように思います。

子どもたちから

初めて観たのでとても楽しかったし、オペラを知ることができた。／大きな歌声にびっくりした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立竹山小学校＋横浜シティオペラ
オペラへの好奇心３

担当アーティスト	横浜シティオペラ
実施校	竹山小学校(緑区)
コーディネート	NPO 法人横浜シティオペラ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／オペラ／1・2 学年 4 学級 79 名
実施日程	2013 年 12 月 5 日(木)

授業のねらい

オペラ鑑賞を間近で体験し、その素晴らしさや楽しさを知ってほしい。また今後の音楽表現や人間関係を創るコミュニケーション能力の一助になってくれることを目的とする。

コーディネーターから

舞台とは音響的に異なる体育館での公演でしたが、機械ではなく生の音を聞いてもらうことによって、毎回明らかに子どもたちの音への好奇心が増し、演技へ集中しているのが感じられました。これをきっかけに子供達がオペラというジャンルに対して親近感を持ってくれることと思います。

アーティストから

鑑賞態度はとても良く、物語に興味を持ち、目を輝かせて観てくれていた。反応も良く出演者たちと共に喜び、共に笑ってくれた。とても熱心に鑑賞してくれた。低学年だけではなく、全校生徒に聴いてほしいと思いました。オペラの後に生徒全員と出演者とで合唱をした時にも元気よく、明るい子どもたちに大変感動した。

先生から

初めてのオペラということで子どもたちなりに得られたものがあったようです。数日前にオーケストラ鑑賞をしたり音楽会の練習期間中ということもあって、関心を持てたようです。出演された皆様も表現力豊かに演じていただき、とてもよかったです。今日の鑑賞を通して子どもたちに今後の音楽会に生かそうとする姿勢が見られました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立阿久和小学校＋よこはま音楽広場実行委員会
友だちと一緒に、自分だけの即興音楽

担当アーティスト	松尾香織(音楽療法士)、高田由利子(音楽療法士)
実施校	阿久和小学校(瀬谷区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／即興音楽／5 学年 1 学級 35 名
実施日程	2014 年 1 月 16(木)・24(金)・31(金)

授業のねらい

これまでにも自然をイメージした即興演奏や民族楽器を用いた即興の取り組みはあり、子どもたちはそれぞれに表現していたが、自分たちで考えることが苦手な傾向もあるため、今回は即興的要素を活かしたコミュニケーションの促進や、仲間と協力して主体的に表現する機会に繋がると良い。また、声や体、そして身近な楽器を使って、表現そのものが広がると良い。

アーティストから

「即興によるコミュニケーションの促進」と「声や体、楽器を使っての自由な表現」をテーマに伺った。担任の先生の日頃の取り組みのおかげで、子どもたちはボディーランゲージを用いて“聴く姿勢を自ら整えること”を身に着けており、終始スムーズにワークが展開できた。我々のパフォーマンスや即時的反応を通して、また、好きな素材を用いて思いのまま図形楽譜を作り自由に演奏することを通して、子どもたちは“どんな表現にも間違いはない”という大事な要素を受け取り、安心して表現を広げていった。世界の面白楽譜と並列して今皆で描き演奏したばかりの描画楽譜を紹介したところ、子どもたちから満足気な反応があり、彼らの肯定感を高められたと考える。

コーディネーターから

学校側の協力体制が強く、アーティストから出される要望の全てに対応して下さった。対面による打ち合わせを事前に２回行ったことは、ワークショップへの期待も高まり、学校側からも教育支援に関する内容への要望が出た。このことが結果として、アーティストに全てを委託されるという一方向の関係性ではなく、双方向から取り組むという姿勢が生まれたと思われる。

先生から

音楽の主題「音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくろう」で音楽つくりをしていただいた。前もって音楽の学習や本校の重点研の算数科についての実態をお話したところ授業の中に取り入れてくださった。また、予定の日以外にも来校し、サウンドスケープをしていかれた。それを授業に取り入れてくださり、子どもたちにとって音楽がより身近になったようだ。教師自身が研修してきたことや研究してきたことの再確認と有効性を感じ、さらに来年度の授業に生かしていけることを確信した。

子どもたちから

表現がうまくなった。／音楽の大切さやすごさを知った。／音楽には失敗はないということがわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立二つ橋小学校＋子どもに音楽を ヴァイオリンの音色

担当アーティスト	戸田弥生(ヴァイオリン)、竹内真紀(ピアノ)
実施校	二つ橋小学校(瀬谷区)
コーディネート	NPO 法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／クラシック／5 学年・個別支援級 105 名
実施日程	2013 年 11 月 18 日(月)

授業のねらい

担当の先生は学校内で教師、子どもたちとさまざまな演奏会を行っている熱心な先生でした。５年生 90 名、個別支援級 15 名の計 105 名を希望。人数が多いので２回に分けることにした。音楽を通して豊かな心を育むことを目的とする。

アーティストから

子どもたちの笑顔は何物にもかえ難い素晴らしい宝です！ありがとうございました。子どもたちのまっすぐな瞳に心が洗われました。

コーディネーターから

音楽担当の先生をはじめ校長先生もとても熱心で先生方の参加も多かった。子どもたちも含め予想以上の反応で気持ち良く活動することが出来た。子どもたちからの質問も多く、加えて拍手も多かったので、アンコールの曲を急遽お願いした。

先生から

子どもたちの感想の中に、自分の表現に活かしたいというものがあった。また次の音楽授業での表現が変化した。音をとるのが早くなり堂々と表現した。

子どもたちから

ヴァイオリンをテレビで聴くのと、生で聴くのは全然違い、新鮮でした。／ヴァイオリンとピアノの音色がとてもきれいで、目をつぶって聴いていると、その音楽に自分も入った感じがして、とてもいい授業を受けたなあと思いました。／ヴァイオリンが人が全身を使いながら演奏していたのが印象的だった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立上郷小学校＋横浜みなとみらいホール ジャズのアドリブを体感しよう！

担当アーティスト	松井イチロー(松井イチロー＆ＬＡ ＮＯＣＨＥ　代表)
実施校	上郷小学校(栄区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ジャズ／5・6 学年 6 学級 201 名
実施日程	2013 年 11 月 13 日(水)

授業のねらい

ジャズのアドリブを体験させるコーナーを 2 時間目～3 時間目を使って実施。また教科書にも載り、学芸会でも演奏しているルパンのテーマを合同で演奏出来るようにする。

コーディネーターから

ルパンのテーマの共演は先生からの強い要望でした。打楽器のジャンベ体験で心が開放された児童がルパンのテーマを授業ではやらないような猛スピードで演奏する様はジャズ特有のグルーブ感みたいなものを一瞬にして会得したようにも感じました。終了し給食の後に 5 時間目の授業を潰して、お礼をしたいとのことで、子どもが前に発表したことがあるミニ芝居を披露してもらいました。

先生から

鑑賞型での 1 日の実施だったが、コーディネーターとアーティストのご厚意でジャンベの演奏体験を入れていただいた。子どもの感想を見ると演奏を聴いたことよりも楽器に触れたことが印象に残っている子どもが多い(特に男子) ので、体を通した楽器だと思った。一人 8 小節のリレー式で細かいことを言わずに演奏させると楽しみながらだんだん工夫していく様子が見られた。また 2 周目になるとさらに工夫ができてよい手法だと思った。色々なリズムの曲やアドリブ的部分も聴かせていただいたが、さらにリズムのパターンや旋律の変奏を聴かせたり、体験させたい。

子どもたちから

もっと聴きたかった。／コンサートでは聴くだけだったのでもっと楽器に触りたかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立小山台小学校＋リリス
身体で演奏しよう！１

担当アーティスト	篠田浩美(打楽器奏者)、大家一将(打楽器奏者)
実施校	小山台小学校(栄区)
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／3・4 学年各 1 学級 55 名
実施日程	2014 年 1 月 10 日(金)・17 日(金)・24 日(金)

授業のねらい

音楽を全身で感じ取り、体を動かしたり、太鼓などの打楽器を演奏することで発信者となる喜びを感じるプログラムとする。普段あまり触れない珍しい打楽器の演奏やボディーパーカッションの体験などで、打楽器の演奏について学び、最終日のコンサートでアーティストとの共演を目指すワークショップを行う。また、自分が発信者となるにとどまらず、他の人の思いや願いを聴きとり、響き合う喜びを感じ取るものとする。

アーティストから

子どもたちの反応が良く、ワークショップもとても進めやすかったです。最終日のコンサートでも良く身体を動かし、自分を表現してくれました。打楽器は楽器はもちろん、声や体など、色々な音色、表現ができます。音楽を通して感情を表に出すという行為は、人生を豊かにしてくれます。これからもいろんな音楽に触れて、自分なりの"楽しみ"を見つけてもらえたらと思います。

コーディネーターから

小山台小学校でのワークショップは今年で 3 年目ということで、学校とのやり取りをとてもスムーズに進めることができた。このプログラムを進める上でアーティストはもちろん、学校との信頼関係もとても大切であると感じた。ワークショップの内容も、2 日間という短い時間ではあったが、アーティストの工夫もあって、身体を使って表現する楽しさを実感できるワークショップであった。全般的に充実した内容だったが、来年度以降も継続する場合はマンネリとならないように更に魅力的なワークショップを実施するように心がけたい。

先生から

学校にある楽器を別物のように美しく華麗に演奏していただいたことで子どもたちは音楽の不思議さ楽しさを感じていることがわかり、うれしかったです。レッスンを通じて友だちとあわせて演奏する喜びを感じている様子でした。アーティストの若さがリードに繋がっている感じがします。

子どもたちから

体のどこでも叩いて、楽器になるとは知らなかった。／同じものでも工夫すれば音がかわるのがおもしろかった。／恥ずかしがらずにできてよかった。／リズム感が身についた。／音楽の楽しさがわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立千秀小学校＋神奈川県立音楽堂 打楽器のリズムにのって

担当アーティスト	神田佳子(パーカッショニスト)
実施校	千秀小学校(栄区)
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／打楽器／全学年 200 名
実施日程	2013 年 11 月 8 日(金)

アーティストから

全員演奏参加型の演奏のご希望があり、１年生から６年生までを縦割りした学校独自のグループ分けを生かして、私たちの演奏に様々な形で参加していただきました。このように気軽に演奏が出来るのは打楽器の利点の１つかと思いますし、予想外の反応に、演奏する私たちも刺激を受けました。今回は全学年と大人数でしたので、もう少し人数が少ない場合には、音色やリズムについての体験も、生徒の反応に合わせて、もっと踏み込んだことが出来るかと思いました。

コーディネーターから

鑑賞のみでなく参加させるコーナーを作ることで、子どもたちが飽きずに楽しめるだけでなく、より深い理解につながると実感した。子どもたちがよく知っている「星に願いを」「さんぽ」、プロならではの技巧を披露する「剣の舞」、子どもも演奏に参加した「聖者の行進」など、さまざまな曲目を使い分けてパーカッションの様々な魅力を伝えることができた。対象校が全校児童数 200 人という小規模校であったことも手伝って、全員で打楽器の楽しさを体験できるひと時となり、先生たちにも好評であった。

先生から

プロの方の迫力のある演奏に感動しました。打楽器だけで音楽が成立し、楽しめるということを子どもたちが直接感じることができてとてもよかったです。体験するコーナーでは主に低学年の子が中心となりましたが、みんなで音を合わせる楽しさを味わいました。また、全校でのボディーパーカッションもとても楽しかったです。演奏している方々がみんな楽しそう！というのが伝わってきました。

授業のねらい

パーカッションを使った体験型演奏会。子どもたち全員が参加し楽しめる曲を盛り込むことでより親しめるものにし、楽器の魅力を伝える。

子どもたちから

３人の息があっていた。／音が響いていてきれいだった。／打楽器だけの演奏でもすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立豊田小学校＋リリス
身体で演奏しよう！２

担当アーティスト	篠田浩美(打楽器奏者)、大家一将(打楽器奏者)
実施校	豊田小学校(栄区)
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／4 学年 3 学級 103 名
実施日程	2013 年 10 月 18 日(金)、11 月 1 日(金)・25 日(月)

授業のねらい

音楽を楽しみながら体を動かすなど、音楽のリズムによる躍動感、一体感を感じるプログラムとする。普段あまり触れない珍しい打楽器の体験や、ボディーパーカッションなどのリズム体験、音楽と言葉の関係にフォーカスをあてた作曲のワークショップなどを行う。今回の体験を通して、自分の新たな音楽に対する感性や表現する楽しさを発見し、友だちと楽しさを共有し一緒に一つのものを作りあげる喜びを味わえるものとする。

アーティストから

子どもたちの反応がとても良く、こちらも楽しくワークショップをさせていただくことができました。楽器だけでなく、声や身体を使った曲も積極的に取り組んでくれました。打楽器を使ってイメージを音色・リズムで表現する項目は、時間が少し足りなかったです。こちらも色々と勉強させていただきました。全体を通して、とても充実した時間を過ごさせていただきました。音楽の楽しさが打楽器を通して少しでも伝わっていれば幸いです。

コーディネーターから

アーティストのやりたいことが明確にあり、学校の先生方がそれを理解し協力してくれたため、共通した一つの目標を目指して充実したワークショップを開催することが出来た。こうしたワークショップを開催するには、アーティストの熱意と学校の先生方の協力がとても重要だと改めて感じた。全般的に非常に充実した内容だっただけに、最終日に時間が足らなくなってしまったことは心残りであった。アーティストや先生と相談して上手く解決案を提供できれば良かったと思う。

先生から

連携をうまくしていただき、子どもたちとのスムーズな学習展開ができたように思います。時間配分もよく考えて下さっていたので充実した内容でした。お話をつくるところからでしたが、できればお話は同じものを使い、音作りに時間をとっていただいてもよかったかもしれません。

子どもたちから

音をみんなで鳴らした時、大きすぎてパニックになりました。／みんなで音を探してつくったり、合わせたりしたことが楽しかった。／アーティストの方の演奏がすごかった。／ボディーパーカッションもみんなで盛り上がった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立中和田南小学校＋テアトルフォンテ
いろんな音にふれながら遊ぶ、打楽器アンサンブル　！

担当アーティスト	富田真由香(打楽器奏者・音楽講師)、古川玄一郎(打楽器奏者・音楽講師)
実施校	中和田南小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／打楽器／3 学年 2 学級 51 名
実施日程	2013 年 10 月 21 日(月)・29 日(火)

授業のねらい

さまざまな打楽器と、その多彩な音を紹介していく演奏鑑賞コーナー、一緒にアンサンブルしていく体験コーナーの二本を柱に組み立てていきます。体験コーナーでは、グループごとに身近な物で「ふる」「こする」「たたく」などのテーマに沿った楽器を自作してもらい（当日までの宿題）、校歌などの身近な課題曲に合わせてリズム演奏します。音楽のもつ幅広い魅力に触れ、みんなで楽しむ時間にしたいと考えます。

アーティストから

小学３年生を対象に楽器作りの説明と演奏鑑賞会の授業をさせていただきました。授業の進め方として、私どものペースを保ちつつ、子どもの意見も聞きながらバランスを維持するのが難しく感じた点です。しかし、慣れてくるに従い円滑にコミュニケーションを取れたように思います。子どもは正直なもので、つまらないと感じれば素直に態度に出してきます。その中で、「面白い」の声が聞こえた時の喜びはひとしおでした。誰よりも厳しい観客は、やはり子どもだと痛感したひと時でした。

コーディネーターから

アウトリーチそのものの認識をすり合わせる所から始める必要があり、先生方とは丁寧な会話が必要だと感じました。プログラムが具体的になってくると、期待感を持って迎えていただけたと思います。自作の楽器には、子どもたちそれぞれのアイデアや工夫がたくさん感じられ、みんなに発表できて良かったと思います。アンサンブル体験には、細かな練習メニューの決定など、成果を実感してもらうための工夫が必要となりましたが、楽しく演奏ができて良かったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立東中田小学校＋テアトルフォンテ

うごいて、たたいて、つたえよう！～ボディーパーカッション～

担当アーティスト	峯崎圭輔(音楽家)
実施校	東中田小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／ボディパーカッション／4 学年 3 学級 88 名
実施日程	2013 年 11 月 19 日(火)、2014 年 1 月 23 日(木)、2 月 5 日(水)

授業のねらい

言語活動だけではなく、身体を使って気持ちを伝えることが出来れば言語表現の苦手な子にとって新たな体験となり豊かな気持ちを味わうことが出来る機会となる。1/2 成人式で（全体の場で）学んだことを発表できる内容を目指す。

アーティストから

音楽を通して、一人一人の責任感や協調性を学ぶと共に、自らが考えて創る力や、その中での発見、発想などを楽しく体感できる良い機会だと思います。今年は少し難易度を上げましたが、見事に仕上げてくれたと思います。先生方の参加にも感謝しています。また、子どもたちの意欲的な姿勢や、我々が思いもしない発想、そしてポテンシャルに毎度驚かされました。我々は教える側ではありますが、子どもと共に考えながら創作できたことや、あだ名で呼んでもらうことで、同じような目線に立てて、楽しく取り組んでもらえたことは非常に良かったのではないかと思います。

コーディネーターから

日常生活の主なコミュニケーション方法である言葉以外に、太古から変わらずに受け継がれている動く、叩く、言葉じゃない声などをフルに使い相手へ伝える事がしっかり実践されたと思います。アーティストや先生の献身的な指導と、こどもたちの豊かな発想力と行動力で毎回の宿題もしっかり発揮され、一丸となった３回目を終えることが出来ました。

先生から

本校では４年生の 1/2 成人式に合わせて取り組みを行いました。活動が３回､定期的に入ることでお互いのリズムを合わせたり、グループごとに話し合ってソロリズムを作ったりして協調性が育ってきたと思います。最後には保護者の前で１曲を発表することができ、達成感・充実感を持てました。

子どもたちから

ソロパートを自分たちで作って思い出に残った。／1/2 成人式で合わせるのが大変だったけど、頑張ってよかった。／みんなで協力すると笑顔になれた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立美しが丘小学校＋よこはま音楽広場実行委員会
即興表現を楽しもう

担当アーティスト	高田由利子(音楽療法士)
実施校	美しが丘小学校(青葉区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／即興表現アーツ／6 学年 2 学級 66 名
実施日程	2013 年 12 月 5 日(木)・12 日(木)・19 日(木)

授業のねらい

学年の特徴としては、元気がよくノリもいいが、既成概念にこだわる傾向もあるため、表現の自由さを感じてもらいたい。また、図形楽譜を今学年は体験していないので、創作プロセスに意図と即興性を合わせながら、仲間と協力して作り上げる機会を通して、表現の多様性を学んでもらいたい。

アーティストから

「主体的な表現への探求」という漠然としたテーマで初回を迎えたが、子どもたちは、ムーブメント、音、描画の融合に抵抗を示さず素直に反応していた。思春期の葛藤も表現に取り入れながら行ったワークショップだが、どの表現にも間違いはないという認識、人と同じでなくて大丈夫という安心感が、より表現を広げていったように感じられる。子どもたちを見守る先生方の態度もグループワークへのいい力動を生んだ。２回目の図形楽譜の制作過程において、子どもたちが自宅から持参した雑誌や布の切れ端、紙などが楽譜の重要なモチーフになっていったことで、オリジナリティは引き出された。図形楽譜を元に多彩な演奏が披露された。学校側とのラポール、また、アーティストたちの柔軟性や即時な反応が、子どもたちが瞬時に変化していく表現を支えていたと思われる。

コーディネーターから

今回は文化庁との連携事業とあり、遠方のアーティストや複数のアシスタントによる人的な充実さに加え、学校側もクラス単位における一回のワークショップに 90 分を確保していただくなどの協力体制があったことが、子どもたちがじっくりと表現する機会を得ることに繋がったと思われる。また、事前の打ち合わせを複数回行ったことで、アーティストと学校側の目標が明確になっていき、学校側にとっての本プログラムへの関与度も高まっていったと思われる。

先生から

音楽づくりは普段の授業でも行っていますが、限られた時間の中でダイナミックな活動がなかなかできないのが、悩みの種でした。今回の授業で体の動きや描画など、様々な表現方法を体験させたことで、子どもたちがより音に集中して意識を向けていたように思います。

子どもたちから

自由に表現できた。／楽器をたくさん触れた。／感じたことを絵や体で表現することは今までにやったことがなかった。／体を動かすことが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立荏子田小学校＋横浜みなとみらいホール リコーダーの響きを聴こう

担当アーティスト	江崎浩司(リコーダー奏者)
実施校	荏子田小学校(青葉区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／リコーダー／全学年 18 学級 400 名
実施日程	2014 年 2 月 18 日(火)

授業のねらい

体育館にて全学年を対象に子どもに馴染みのある曲目で鑑賞事業を実施する。子どもに馴染みの選曲にし、楽器の魅力を伝える。

アーティストから

体育館の寒さを感じさせない盛り上がりにとても楽しく演奏できました。ブラボーを多くの皆さんが言ってくださって、子どもも先生も、もちろん演奏者も一つになったと思います。300 年前の音楽からジブリ曲まで、音楽の幅広さを体感して、身近なリコーダーでの演奏に目を丸くして見ている子どもや、リズム楽しく身体を動かす子ども、吹いている私にあわせて一生懸命指を動かしている子ども等、色々な聴き方、感じ方が拝見できました。楽しいひとときでした。

コーディネーターから

先生からの強い要望で２本のリコーダーを操れるテレビでよく見かける奏者の人をということで江崎さんを紹介しました。また全員に聴かせたいとの学校からの強い要望で、全員対象のイベントとしました。距離感と音量の小ささから盛り上がりを心配しましたが、出演者の力量と MC で盛り上がったコンサートと

先生から

プロの演奏家の方を招いて 1 時間鑑賞会を行なったことが初めてだったので、低中学年の集中力が保てるかどうか心配でした。鑑賞という活動自体に慣れ、指導していく必要があると感じました。江崎さんが「ブラボー」と言っていいんだよ、と子どもをたちをのせてくださりましたが、感じたことを表現することもとても大事だと改めて感じました。とても美しく心地よい音色を聴く経験ができ、子どもたち・教師ともにうれしく思っています。

子どもたちから

色々な曲を聞けたから楽しかった。／楽器を知れたから楽しかった。／もっといろいろな曲を知りたいと思った。／自分でも吹いてみたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立荏田西小学校＋フィリアホール リコーダーの魅力

担当アーティスト	ミカラ・ペトリ(リコーダー)、ラース・ハンニバル(ギター)
実施校	荏田西小学校(青葉区)
コーディネート	青葉区民文化センターフィリアホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／リコーダー／6 学年 4 学級 123 名
実施日程	2013 年 11 月 28 日(木)

授業のねらい

鑑賞会を通して、表現力・感受性・集中力の育成をめざす。本物のアーティストによる音楽表現の多様性を知り、自分たちの演奏や日常生活での表現力を高める。音楽をじっくりと聴くことで集中力を高める。さらに音楽を形づくっている要素や面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさを理解する力を養う。

アーティストから

子どものうちにプロの演奏者の音楽を聞くことは、とても大切なことです。また、私たち自身も子どもと触れ合ったり、一緒に演奏することはとても刺激になり、学ぶことがたくさんあります。コンサートホールで行うコンサート中心に活動していますが、このような子どもたちとの音楽による触れ合いも同じくらい大事なことと考えています。リコーダーとギターというおなじみの楽器での演奏を通して音楽を楽しむこと感じ取っていただけたら。

コーディネーターから

世界的なリコーダー奏者のペトリさんのリコーダーの音色・技術に、子どもたちも拍手喝采でした。また一緒に演奏し、ペトリさんのアドバイスで演奏が変化したのにも驚きました。リコーダーは音楽の授業で、いつも演奏する身近な楽器でもあり、今後の音楽への取り組みの参考にもなったと思います。何より、音楽は世界共通の言語であると感じた時間でした。

先生から

世界的な演奏家がすぐそばで演奏してくれること、また楽器も自分たちが日頃使っている身近なものだったことで、自らの音楽指導にも刺激となる内容でした。演奏だけでなく、アーティストの人柄に触れることができたこともすばらしい体験となりました。今回は 1 学年のみの参加でしたが、できるだけ多くの子どもたち・教師が参加できれば良いと思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立北山田小学校＋Media Global 創作！！ミュージカルをつくろう

担当アーティスト	Rainbow　Jam(俳優)
実施校	北山田小学校(都筑区)
コーディネート	企業組合 Media Global
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／ミュージカル／5 学年 2 学級 80 名
実施日程	2013 年 11 月 7 日(木) ・12 日(火)・19 日(火)

授業のねらい

思い切って自分の声で表現する心地よさを味わい、自分の殻を破って精一杯表現する。心を開いて自分の思いを表現したり友だちの思いを受け取る体験。

アーティストから

自分の夢を一人ひとりが表現出来たことをとても嬉しく思います。徐々に子どもだちの緊張が解れ表情豊かに生き生きと表現する姿や、普段発信することが苦手だと伺っていた子どもだちがお互いにアイディアを出し合う姿を見ることができ、その素直な一生懸命さに感動しました。小さな彼等に宿る大きな可能性を感じたと同時に、我々も彼等の姿から学ばせていただきました。この機会が今後の彼等の未来への力となれれば幸いです。

コーディネーターから

今年度新規校でした。初日これからどんな授業が始まるのか期待と心配の入り混じった表情が、回を重ねるごとに、どんどん変化していくのが感じられる授業でした。今回の体験を通して自信をもって積極性に活動されることを期待します。

先生から

音楽で子どもたちに表現力をつけられる活動をということでコーディネーターの方に「ミュージカルのワンシーンをつくる」という内容でアーティストを選定していただきました。はじめはとまどったり照れたりしていた子どもたちも歌を覚え、セリフやダンスを習いステージでの動きを教えてもらい、だんだんミュージカルのステージが見えてくると夢中になって取り組むようになりました。子どもからポーズを決めたいとかダンスのステップをつけ加えたいという要望も出ました。歌やセリフ、ダンスがよりすてきになるためのアーティストの声かけはいつも『自分思い』に立ち返り、それを歌、言葉、動きに込めること。とても大切なことに自分も気づかされました。

子どもたちから

歌・ダンスが楽しく、みんなで力を合わせてできた。／夢をみんなで言えた。／踊りが難しい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立松本中学校＋子どもに音楽を
弦楽器のしらべ

担当アーティスト	向山佳絵子(チェロ)　早川りさこ(ハープ)
実施校	松本中学校(神奈川区)
コーディネート	ＮＰＯ法人子どもに音楽を
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／チェロ、ハープ／3 学年 5 学級 170 名
実施日程	2014 年 3 月 3 日(月)

授業のねらい

普段聴く機会がほとんどないチェロとハープに親しんでもらう。音楽を通して子どもたちの豊かな心を育むことを目的とする。

アーティストから

スタッフの方々の滞りない準備のお蔭でスムーズに本番を終わることが出来てホッとした。近い距離で生の演奏を聴く機会は生徒さんたちのとってとてもいいことだと思う。意外と素直に、真剣に聴いてくれた。卒業前のいい思い出になればとても嬉しい。

コーディネーターから

体育館が寒くリハーサルの時から大型の暖房器で暖めたが音が大きく、本番は普通の電気ストーブで対応した。ハープは当 NPO では初めてお願いした楽器だったがグランドハープの他小さいハープも持参くださった。歴史、構造の説明の他、生徒 4 名に楽器の体験をさせてくださった。横浜では初めての中学校での実施だったが、熱心に聴いてくれて質問や最後の代表の生徒さんの感想には深いものがあり、良かったと思う。

先生から

中学 3 年の卒業期にこのような機会をつくることは情操教育の観点からとてもいいと思う。今後ほとんどの生徒はプロの演奏にあれだけ近くで触れることはないと思うので、とてもよい体験となった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立鴨志田中学校＋横浜みなとみらいホール 合唱コンクールで勝負だ！

担当アーティスト	所谷直生（オペラ歌手）
実施校	鴨志田中学校(青葉区)
コーディネート	横浜みなとみらホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／歌唱／全学年 9 学級 275 名
実施日程	2013 年 9 月 24 日(火)、10 月 7 日(月)・23 日（水）

授業のねらい

学校内での学年別クラス対抗の合唱コンクールに向け、プロの指導により豊かな表現力を身につける。

アーティストから

合唱の指導という重責を担いながら、どんどんと歌唱力がついてくる生徒の気概を感じ、指導している側が指導されているような感想を持った。未知の力を持つ生徒たちに接し、歌の素晴らしさを改めて実感した。歌の好きな子、嫌いな子、様々なレベルの生徒たちを一度に教える難しさも感じた。

先生から

常に音楽科の教員が１人で歌唱・合唱指導しているので今回新たな風が吹いて一気に表現に幅ができたように感じました。また、男性と女性の２名のアーティストに指導いただいたことで、それぞれ男女の特性や発声法にも生徒は気づけ体で感じることができてとてもよかったです。

コーディネーターから

はじめのレベルから、毎回うまくなっていくのが如実にわかり、学校側もその見違えるレベルアップに感動しており、アウトリーチの意義があったと感じた。本物の歌手の指導などなかなか受けることができない環境であるのが実情であるが、それを可能にすれば、子どもはわれわれが予想するよりはるかに高いレベルのものを習得できることを実感した。

子どもたちから

いつもと違う授業でよかった。／合唱が上手になった感じがした。／ひとつひとつ丁寧に教えていただけたのでよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立盲特別支援学校＋かなっくホール 声の魅力、再発見！

担当アーティスト	COCORO*CO(ゴスペルグループ)
実施校	盲特別支援学校（神奈川区）
コーディネート	神奈川区民文化センターかなっくホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／ゴスペル／全学年 70 名
実施日程	2014 年 1 月 24 日(金)

授業のねらい

音楽の原点である人の「声」の魅力を再発見し、それらが重なり合うことで生まれるハーモニーの素晴らしさ、響きの美しさを体感する。その経験を通じ、誰もが持つ「声」の可能性に気付き、自分だけの楽器（個性）が重なり合って人との交わりや様々な表現が生まれ、多くの人の心もひとつに合わさることを覚える。また、障がいを持っていることで日頃からいい音楽に触れる機会が少ないため、その機会とする。

アーティストから

盲学校でのコンサートは初めてだった。目が不自由な分、聴覚が研ぎ澄まされていることだろうなぁと思い、どんなコンサートになるのかワクワクとドキドキが入り混じった気持ちで会場に到着。交流するのにちょうどいい広さの教室、リハをしていると楽しみで仕方なくなった。そして開演。
子どもたちは、体を揺らしたり、手拍子をしてくれたり、おまけに『切ないなー。涙が出ちゃう』と感想を漏らしてくれたり。その言葉を聞いて私の方がジーンとなり、『感動して私も涙が出ちゃうわ』と MC で返すと、『これこそココロコですね』と返してくる。あー、なんだか思い出しても、じーんとしてしまう。心がつながったなーと嬉しくなった。コール＆レスポンスで歌う歌などは、自然にハモってくれていたり、音感のよさにも感動した。また機会があれば是非訪れたいなと思った。思い出深いコンサートになりました。

コーディネーターから

盲学校の生徒さんたちの多くは、さまざまな複合的障がいをお持ちだということ、また対象が幼児から大人まで幅広いということ、そして「人の声が作り出すハーモニー」にフォーカスしたいという先生のご要望などを考え合わせ、ゴスペルのプログラムをご提案、実施しました。鑑賞だけでなく体験的要素も交えながら行ったミニ・コンサートは、生徒さんたちの身体の中に内包されていた音楽やリズムが、アーティストの音楽に触発されて自ずと引っ張り出され、そのエネルギーを受け止めたアーティストもまた揺さぶられ、突き動かされる。そんな生命の循環を感じさせる熱い時間になりました。当館と同じ神奈川区内にある横浜市唯一の公立盲学校との初めての協働プログラムは、私たちにとっても貴重な勉強の機会となり感謝でした。

先生から

まず音楽そのものを楽しみ、曲の動・静に応じた姿勢・態度が自然に出ていました。それからアーティストの方の心のメッセージを受け止め、心から共感している様子がありました。音楽で結びつき、励まし合おうという空気、まさにスピリチュアルな場であったと思います。

子どもたちから

声量があって迫力もあって本当にすごかった。／コンサートの中に参加できる部分があって楽しかった。／部屋がまるで一体化している気がした。／声の高さがすごかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立東俣野特別支援学校＋ＳＴスポット横浜 わたしの音を探す時間

担当アーティスト	西井夕紀子(作曲家・演奏家)
実施校	東俣野特別支援学校(戸塚区)
コーディネート	ＮＰＯ法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／音楽／小学部・中学部・高等部約 40 名
実施日程	2014 年 2 月 4 日(火)・6 日(木)・13 日(木)・28 日(金)

授業のねらい

実際に楽器に触れたり、身近で音を聞いたり、また、自分自身も演奏に参加したりする中で、子どもたちの興味・関心を引き出したい。作曲に焦点を当てオリジナルの曲を子どもたちと一緒に作曲し、生の音楽に触れつつ、子どもたちの興味・関心を引き出せるような取組。

アーティストから

子どもたちの感じていることを自分の憶測で結論づけてしまわないように、と自分に言い聞かせた見学の日でした。率直なやりとりを重ねて行けるよう、授業のほとんどの時間をセッションにあてることにしました。

一人ずつ音を出してみる時間、ある人は全身を使って、めいっぱいそれを「しよう」としています。力強い呼吸として応答してくれる人もいました。あるいは、普段の子どもたちの身体の動きが楽器に触れて、音に変換され現れているような場合もありました。

子どもたちの持っている時間の流れ、クラスの雰囲気、そこにあるもの全てが相まって漂う空気になり、エネルギーを持った音のかたまりとして動きだした時、生徒たち、先生方、私たちは同じ震えの中にいて、それは素直に、よろこびという感情を私の中から引き出してくれました。

今回私たちは、蓄積された音楽の作り方、コミュニケーションについてもう一度、本当にそうだろうか、と考えさせていただく機会をいただいたように思います。子どもたちにとってはどんな時間だったのでしょうか。完成された素晴らしい音楽を鑑賞する時間ではなかったかもしれません。しかし、子どもたち自身にもともとあった力をもって、音楽の発端のようなものにそれぞれがなり、音を編みはじめるスタートに立ったところから、少しばかり一緒に歩んでみた 4 日間だったのではないかと思っています。

コーディネーターから

重度重複障害のある子どもたちとの取組みは、先生方のご協力いただくことがとても重要で、子どもたちの微細な表出・表現をくみ取って、手伝いというよりは子どもたちと一緒に音楽を楽しんでもらうことが大切だと思います。今回、子どもたちはもちろん、先生方も一緒になって音楽を楽しんでもらう時間を作り、その場にいる全員が音楽を楽しむ空間を作り、それぞれの「わたしの音」を探し出すことができたと思います。

先生から

子どもたちにとって耳なじみのない雰囲気の音楽だったと思います。しかし、聴いているうちに「なんだろう？不思議な音がするな」という気づきにつながったり、「自分も音を出してみようかな」という表出につながったりしていたと思います。また、「自分の音」を通して改めて友だちや自己を意識するコミュニケーションの場となったと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立日野中央高等特別支援学校＋ＳＴスポット横浜 アコーディオンを楽しむ

担当アーティスト	田ノ岡三郎(アコーディオン奏者・作曲家)
実施校	日野中央高等特別支援学校(港南区)
コーディネート	ＮＰＯ法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／アコーディオン／全学年 240 名
実施日程	2013 年 12 月 11 日(水)

授業のねらい

生の演奏、普段触れることの少ない分野の音楽を鑑賞することにより、生徒の興味関心の幅をひろげる。

アーティストから

事前打合せで学校に伺わせていただいた時から、職場さながらの実践的授業、取り組む生徒そして先生方の真摯な姿勢に感銘を受けておりました。ステージ上で演奏させていただいている間、本当に真剣に聴いて下さっているのが伝わってきて、アップテンポで賑やかな曲だけでなく、繊細な楽曲もじっくり楽しんでいただけたこと、とても嬉しく感じました。この日の音楽体験が、これから社会にはばたく皆さんの元気になったなら、感無量です！

コーディネーターから

アコーディオンという中々プロの演奏を聴く機会がない楽器の音色を楽しんでいただけたようでした。途中でアーティストの方には、ステージから降りて子どもたちの近くまで寄っていただき、子どもと同じ目線で演奏していただくことで、子どもたちはより身近にアコーディオンを楽しんでいました。馴染みある曲から子どもたちがあまり聴いたことのない曲まで幅広いプログラムを組んでいただき、音楽の楽しさが広がりました。

先生から

楽器の特性を生かしながら、日頃触れる機会が少ない音色を聞くことができたのはとてもよかったです。内容も演奏家ご自身が積極的に考えていただき、助かりました。改めて、生の演奏を聴かせることの大切さが実感できたひとときでした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「音楽」

横浜市立本郷特別支援学校＋リリス
音楽を楽しもう！

担当アーティスト	りぽあのぴっち＋(アンサンブルユニット)
実施校	本郷特別支援学校(栄区)
コーディネート	栄区民文化センターリリス
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／アンサンブル／中学部 9 学級 63 名
実施日程	2013 年 9 月 20 日(金)

授業のねらい

普段の生活ではなかなか触れることのない、プロの演奏家の演奏を観たり聴いたりすることで、音楽への興味・関心を深めることのできるプログラムとする。また、曲目は童謡や唱歌、アニメの歌などを中心に構成し、生徒がより親しみを持って鑑賞できる内容とする。さらに、出演者の歌やダンスに自由なかたちで参加してもらい、表現活動への興味・関心を深め、豊かな感性を養うことのできるプログラムとする。

アーティストから

生徒さんたちが音楽のテンポやリズム、表現に敏感に反応している様子がうかがえて嬉しく思います。高い演奏技術を必要とする曲になると、真剣な顔つきに変わる瞬間があり、本格的な曲を聴いていただくことの必要性を感じました。また、手作り楽器も見せていただき、その出来映えは素晴らしいものでした。参加型の「幸せなら手をたたこう」では、想定していたテンポよりも軽快に、一体となって楽しむことが出来ました。こうしてみると普段から音楽に触れる機会が多いのだと感じました。

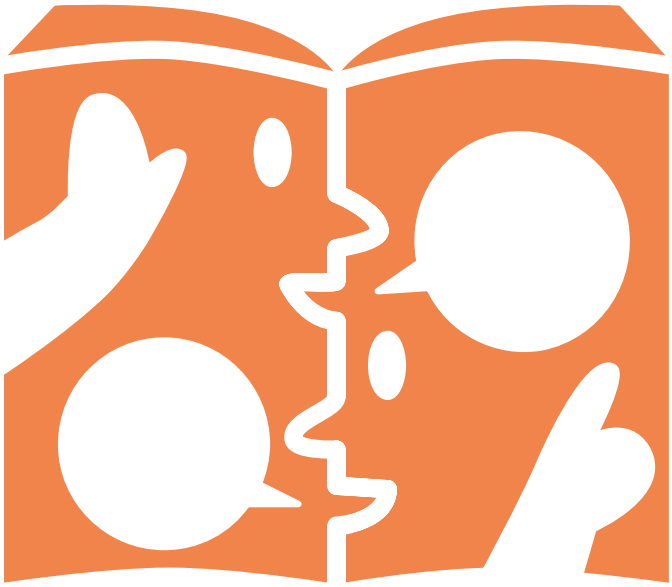
コーディネーターから

昨年度に引き続き同校を担当させていただきましたが、今回は楽器に歌と踊りが加わった特殊な編成のアーティストに演奏を依頼しました。歌は子どもたちに直接的に表現を伝えることができ、さらに踊りが入ることにより、視覚的にも働きかけることができたと思います。手拍子や体を動かしたりして楽しそうに参加していた子どもたちの姿が印象的でした。子どもたちにとって生の演奏を聴いて観て感じることは、とても貴重なことだと思います。

先生から

生徒の実体上、様々な要望や配慮をお願いすることがありましたが、コーディネーターの方には円滑に進めていただきました。今回はプロのダンスを交えての演奏でしたが、普段なかなかダンスを見る機会はなく、好評でした。事前に曲名を見て「あまり知っている曲がない」と言っていた生徒も、終了後には大満足の笑顔で教室に帰っていきました。教員も生徒も楽しいひとときを過ごすことができました。

演劇分野の取り組み



自分のからだを使って演じる「表現」と、相手の思いを受け止める「コミュニケーション」の二軸をもとにした活動です。
学習発表会などと連携して、学校の中にちいさな演劇空間を協力してつくりあげていきます。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立川島小学校＋Media Global

身体でおしゃべり！！パントマイムで学ぶコミニュケーション力

担当アーティスト	カンジヤマ・マイム B(パントマイミスト)
実施校	川島小学校(保土ヶ谷区)
コーディネート	企業組合 Media Global
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／パントマイム／2 学年 2 学級 59 名
実施日程	2013 年 11 月 18 日(月)・29 日(金)

授業のねらい

身体で表現することの楽しさを体験する。身体を動かしながら友だちと関わることで、言葉だけに頼らない表現力・コミュニケーション能力を育てる。

アーティストから

今回、カンジヤママイムの『感じる』心が『山もり』になったパントマイムを短い時間でしたが体験していただきました。初めてパントマイムを習う子どもがほとんどだったと思いますが、みんな自由な発想で即興の課題も個性があり、先生方も新しい発見があったのではないかと思います。今後はこの経験を生かして、もっともっと身体を使って友だちと先生と身体でコミュニケーションをとって、楽しい学校生活を送っていただきたいと思います。

コーディネーターから

今年度統合された小学校で、少し恥ずかしがり屋さんと伺っていましたが、元気な２年生でした。新しい環境で新しい友達とコミュニケーションをとることをテーマにしました。クラスメートの表現に拍手を送る子どもたちに、気持ちを伝えるのは言葉だけじゃないと体感してもらえたかなと思います。

先生から

実際に見て体験することで、表現することの面白さを感じることができた。また、子ども一人一人の表現の仕方に個性が表れていて、新たな一面を知ることができた。自分がやってみると思った以上に難しかった。

子どもたちから

パントマイムのやり方がわかった。／パントマイムが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立屏風浦小学校＋象の鼻テラス 日常から演劇を

担当アーティスト	柴幸男(劇作家・演出家)
実施校	屏風浦小学校(磯子区)
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／演劇／４学年３学級 90 名
実施日程	2013 年 12 月 4 日(水)・11 日(水)

授業のねらい

グループで意見を出し合い相談し、相手の意見を聞きながら、日常の中から「演劇を作る」「みんなの前で発表する」という作業をする。

アーティストから

クラスでの創作と発表を目標にワークショップをはじめました。が、初日の彼らの積極的な取り組みから班単位での演劇創作と発表へと軌道修正をしました。重要なのは発表ではなく、創作中に生まれる意見のすり合わせであり、それこそが演劇の要だと再認識したからです。短時間ながら意見を出し、まとめ、役割を振り分け、発表まで行うという課題に四苦八苦しながら、しかし楽しみながら取り組む彼らの姿は、目の前で成長する草花のように輝かしくたくましく見えました。

コーディネーターから

「演劇」を通じて、会話すること、相談すること、話し合いながら決めること、相手の意見に耳を傾けることなど多くのことを学ぶことができるのだと、素直に全力で取り組む子どもたちを前に私自身も改めて気づかされました。やる/見るの関係だけが演劇ではないことが感じてもらえたらと思います。

先生から

意欲的にグループごとに劇のせりふや役割を決め、ほとんど練習時間はなかったにも関わらず、決めたことをとても上手に演じていたのに正直驚きました。たくさんの方が来てくださり、子どもたちと丁寧に関わってくださった成果だと思います。演出家や演劇をされている方と話したり関わったりする機会はほとんどないのでその点もよかったと思います。

子どもたちから

演劇はすごく難しそうなイメージがあったが、ごく身近なことから劇が生まれることがとてもおもしろかった。／自分の作ったセリフや演技にみんなが笑ってくれたりして自信になった。／授業の前ははずかしいとか難しそうとか思っていたが、すごく楽しかったし、チームで協力し合って作っていくものだということがわかった。／緊張したけど発表のあとは充実したあたたかい気持ちになった。／「演劇は真実からウソを入れていく」というところが心に残った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立八景小学校＋急な坂スタジオ コトバの世界で遊んでみる

担当アーティスト	藤原ちから(批評家・編集者)
実施校	八景小学校(金沢区)
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／演劇／6 学年 2 学級 57 名
実施日程	2013 年 11 月 18 日(月)・20 日(水)・21 日(木)

授業のねらい

ふだん使っている言葉を日常生活から切り離し、「コトバ」として捉え直す（遊ぶ）ことによって、自分の中に眠っている記憶や衝動を表現する（形にする）感覚を体感する。また、他のクラスメイトの意外な顔を知り、未知の存在として感じ、その物語を読む・聴くことの面白さを知る。

アーティストから

「言葉」の世界の奥深さに触れてほしい。そのためにまず異質な大人として彼らの前に登場し、不思議な問いに答えを書いてもらって「なぜそう思う？」と赤入れしたり、写真にキャプションや物語を貼り付けるという「遊び」をしたり、悪くない「嘘」をついてもらったり。３分間の沈黙も経験してもらった。次第に子どもたちの記憶、想像力、物語への感覚が掘り起こされていく手応えがあり、どんな子どもにも眠れる感性（可能性）はあるのだと思った。

コーディネーターから

演劇の取り組みでしたが、言葉に特化し、演出家・脚本家・俳優ではなく編集者にお願いしました。普段ぼんやりと考えていること、なんとなく感じていること、また思い出や想像について自分の言葉でどこまで掘り下げることができるか。６年生という卒業を間近に控えた子どもたちに挑戦してもらいました。まだ整理することはできなくても自分について自覚するとっかかりになってもらえたのではないかと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立平戸台小学校＋横浜こどものひろば 額に柿の木

担当アーティスト	望月純吉(演出家)
実施校	平戸台小学校(戸塚区)
コーディネート	ＮＰＯ法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	国語、総合的学習の時間
実施概要	体験型／身体表現／４学年２学級 53 名
実施日程	2014 年 1 月 30 日(木)、2 月 3 日(月)・14 日(金)・25 日(火)、3 月 3 日(月)・4 日(火)

授業のねらい

先生と生徒たちで演劇を作ることを基本に置き、そのためにアーティスト･コーディネーターは出来る限りのサポートをする。教科書に掲載されている「額に柿の木」は登場人物が少ないが、望月氏が台本を担当して人数分の役を用意する。２クラス合同の「劇団」として、配役は先生と子どもたちで決める。

アーティストから

配役された人物の気持ちを皆で楽しく表現する雰囲気づくりが上手くいき、子ども一人一人が観客の反応に期待をもち発表できたことが嬉しい。練習は先生方が言葉のニュアンスへの多さに気付き、生徒と共に考える時間を多く取ることで成果が出ていた。1/2 成人式のなかで行われた発表だったので、前後の催し物などが多くあり、もう少し余裕を持った発表予定が良かったのではと思う。内容としては、気持ちを探し表現するという意図を達成できた。４年生の与えられたことに向かっていく姿勢は素晴らしいと思う。参加者の今後への応用を期待せずにはいられない時間であった。

コーディネーターから

「みんなでやり遂げた時に味わえる喜び」「そのことが、自分にも、まわりの人たちにも訪れていることを感じ合う喜び」「その一瞬を人生の素材として生きて欲しい」と。演出家の言葉や身振り手振りの投げかけに、すぐ様反応を返してくる子どもたちへの尊敬として望月氏が語っていた。ある子どもは「大げさだなと思ったけれど、望月さんに教わってそうなんだと思い、家に帰ってからも考えて、納得できたから演れた」と語ってくれた。子どもの中に飛び込み「子どもたちが何を面白がるかを探りながら表現する楽しさを一緒に見つけに行った」と語られた望月氏の言葉につきた６日間でした。

先生から

子どもをこちらに引きつける声のかけ方にも私たちも学ばせていただきました。劇という経験を通して役になりきって演じるだけでなく、学年全員で１つの物を作り上げる協調性や達成感というものを感じ取れたのではないかと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立深谷小学校＋アートの時間
身体で表現！「三年峠」

担当アーティスト	とみやまあゆみ(俳優)
実施校	深谷小学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	国語
実施概要	体験型／身体表現／3 学年 2 学級 45 名
実施日程	2014 年 1 月 17 日(金)・24 日(金)、2 月 3 日(月)

授業のねらい

表現の幅を広げる。自分の思いや願いをのびのびと表現できる楽しさ、面白さを体験する。

アーティストから

今年度の３年生は体も大きく落ち着いた印象があった。身体で物の形や動きを表現することに抵抗を感じるかとも思ったが、すんなり受け入れチームで相談・協力・工夫することなどを楽しんでいた。回を重ねる毎に色々な表情を見せるようになり、楽しいことも上手くいかないこともそれぞれ取り組んでいたように思う。理解してもらえるかという不安から発表に対して尻込みする場面もあったが最後にはそれぞれの演劇を見せてくれた。

コーディネーターから

「総合の時間の発表をどうするか話し合っているときに、この身体表現で習ったやり方でやってみようと言い出した子がいて、自分がまずやって見せたんです」と先生。今回は国語の教科書にある『三年峠』の題材で取り組んだが、このプログラムの手法は何にでも応用できるし、子どもたちの表現あるいはコミュニケーションツールとしても成立する。そのことを子どもたちが自ら発見し、実践してくれたことに驚きと喜びを感じた。

先生から

子どもたちに動作について指導する際にとても困っていたが今回の授業を受けダイナミックに表現すること、遊びの中でそれを自然に学ぶことができていて勉強になりました。教師の立場として子どもたちに普段言えないストレートな言い方が子どもたちの心に響いていた。子どもたちとの関わり方がとても勉強になりました。

子どもから

他の発表の時にも使えた。／表現の仕方を学べた。／とても楽しかったので、またやりたい。／アーティストの方にもう 1 回会いたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立港南台第一小学校＋横浜にぎわい座
落語を作ってみる！

担当アーティスト	春風亭笑松(落語家)
実施校	港南台第一小学校(港南区)
コーディネート	横浜にぎわい座
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／落語／6 学年 3 学級 112 名
実施日程	2013 年 11 月 8 日(金)・13 日(水)・22 日(金)

授業のねらい

古典芸能である「落語」に親しみながら、落語家の表現手法を通じて、話し方を中心とした即興的な表現を体験していく。実際の口演を聴き、「落語」の楽しと「芸」に触れたうえで、自分でもそれを練習・発表と体験する。

アーティストから

人前で話すことは大変緊張したと思います。楽しかったと思った人も、もう二度としたくないと思った人もいるかもしれません。けれどこの経験はきっと何かの役に立つと思います。人と話す時は思い出して欲しいです。相手が聞きやすいように話すということを。友だちや先生、家族やみんなとイッパイお喋り楽しんでください。

コーディネーターから

多くの小学生にとって、「落語家」というアーティストは、他のジャンルのアーティスト以上に未知な部分(着物や高座の設え、噺の中の江戸風俗などなど) もあったようでしたが、「笑い」を起点として、自分でも発表するという過程を体験することで、「落語の世界」を身近に感じてもらえたと考えます。

先生から

国語科や社会科で古典芸能にふれても、知識としてのみであまり興味をもつことができなかった。今回の授業で落語のみでなく能や音楽などにも幅広く興味を持つ子どもが多くなったと感じる。今後としては友だちとのコミュニケーションの一部として表現力を豊かにする一つとしてくれればよいと感じる。

子どもたちから

発表したときみんなが笑ってくれてうれしかった。／今度観に行きたい。／貴重な経験ができてよかった。／やさしく教えてもらえてうれしかった。／家族の前でやったら喜んでくれてうれしかった。春風亭さんの動きやしゃべり方がとてもおもしろかった。／人前でやるのがどれだけ緊張するかがわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立鴨居小学校＋みどりアートパーク 観る、聴く、話す

担当アーティスト	間下邦彦(役者・歌い手)
実施校	鴨居小学校(緑区)
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／演劇鑑賞／2 学年 2 学級 65 名
実施日程	2013 年 11 月 20 日(水)

授業のねらい

『鑑賞型だが参加して一緒に出来るプログラム』を通し、なかなか自分を表現できない子どもたちが自由に発想し表現するキッカケとなることが目標。そしてお互いに認め合い楽しむことができることが望ましい。

アーティストから

夢見るジャンプの歌の「大きくなりたくて精一杯ジャンプする、あなたの姿とても輝いている」の歌詞を、自由で明るい大きな声で歌う子どもたちの姿に心から感動しました。ピーマン大王のおはなしでは、王様を一生懸命応援する子どもたちの優しさにも触れることができました。楽しい時間を一緒に過ごすことができ幸せな気持ちにさせてくれた公演でした。

コーディネーターから

小学校との６月の初めての打ち合わせの時、子どもたちを一番よく知っている先生方から「なかなか自分を表現できない子どもたちに積極的に他の人と関わるキッカケとなるような体験をさせたい。未知の世界をみせたい。」と伺い、その言葉に後押しされるように、話し合いを重ね今回の「邦さんのおはなしげきじょう」という演目にたどりつきました。アーティストの選んだ物語や詩の中には人としての生き方、何を大切に生きて欲しいのかというメッセージが込められていて、感動します。大好きな歌「夢見るジャンプ」を歌った時の子どもたちの生き生きとした歌声は本当に素晴らしく、この歌の歌詞のように「大きくなりたくて精一杯ジャンプする」彼らは、この何か月の間に確実に成長したのであろうこと、そして、このタイミングで「邦さん～」と出逢ったことが、もう一つ大きなジャンプにつながるであろうことを確信させてくれました。

先生から

コーディネーターの方が事前に何度か打ち合わせに来られ、私たちのこういう力を子どもたちに身につけさせたいという思いをしっかりと聞いて下さったおかげで非常に満足のいく内容でした。アーティストの方は歌もギターも語りも非常に上手で子どもたちの心をしっかりとつかんでいました。参観しに来られた保護者の方々も「とてもよかった！」と感動していました。本当にすばらしかったです。

子どもたちから

ピーマン大王のお話が面白かった。／指遊びが楽しかった。／邦さんのギターで「夢見るジャンプ」が思い出に残った。／また来てほしい。／歌を一緒に歌いたい。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇」

横浜市立都田小学校＋横浜こどものひろば はばたけ つだの子発表会「成長期～最後の仲間～」

担当アーティスト	望月純吉(演出家)
実施校	都田小学校(都筑区)
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／身体表現／6 学年 3 学級 80 名
実施日程	2013 年 10 月 2 日(水)・28 日(月)、11 月 11 日(月)・25 日(月)・30 日(土)

授業のねらい

都田小学校校歌をダンス音楽（ヒップホップ系）に編曲、校歌を歌い踊る中に１年生から６年生まで過ごした都田小学校での思い出をクイズ方式なども取り入れながら発表する。

アーティストから

皆とともに創る。相談し、決め、練習するということへの集中が良く出来ていたと思う。校歌をダンスにするという初めての試みの本番は、どの学年にも分かり易く、また、卒業する６年生たちの学校への思いが楽しく、力強く表出した形となった。私のアドバイスをメモし的確に直し、相談して創り上げる姿にこちらも触発された。子どもたちを導く先生の力があり、成果を収めることが出来たと思う。先生と子どもが信頼し合いバランスのとれた良い学校だった。

コーディネーターから

「自分たちが分かっているということと、人に伝わるということは違うことです」という演出の望月さんの言葉から何かつかもうとする子どもたちの心の動きに、見ていて胸熱くなる思いがしました。今回の発表会のための実行委員会が各クラスの子どもさんたちによって組まれました。自分たちで作ろう、集中しようという思いが行動に現れていて、もっと内容を面白くしようと望月さんにアドバイスを求めている様子は、実行委員さんを筆頭にした主体的な姿として印象的でした。休み時間や給食の時間を利用して歌ったり踊ったりの練習を重ねたそうですが、次第に発表する楽しさやワクワク感が広がっていったのではないかと感じました。

先生から

プロの方に教えていただいたことはとても有意義でした。アーティストの方の来校日が決まっていたので、それに合わせた活動ができたので、よかったです。教えてもらったことを表そうとしている子どもの姿があったのがうれしく感じました。学習発表会での自分たちの発表を見てくれる観客の喜ぶ姿により達成感を感じていました。舞台での表現の仕方が勉強になりました。

子どもたちから

みんなで協力して発表することができて楽しかった。／わかりやすくアドバイスをくれて楽しく表現できた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「演劇・音楽」

横浜市立浦舟特別支援学校＋ST スポット横浜 みんなで創る、歌と詩

担当アーティスト	即興からめーる団(音楽家)、柏木陽(演劇家)
実施校	浦舟特別支援学校(南区)
コーディネート	ＮＰＯ法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／創作／小・中学生 15 名
実施日程	2013 年 10 月 10 日(木)・18 日(金)、11 月 8 日(金)・15 日(金)

授業のねらい

感じたことを伝えたり、表現したりする活動。形にできて全員で共有ができるものを創る。子どもたちが安心して自分らしさを出していけるようにする。

アーティストから

ゆっくりと歩いていくように言葉をつなげていった歌詞作りと、楽器の活動に入ってから一気に駆け抜けるように進行したメロディー作りの対比が印象的でした。また、創作の過程で普段学級で行われていることとのコラボレーションも出来たのが良かったです。そして、発表でのアンコールの演奏はとても一体感があり演奏の喜びに溢れていて、私も思わず胸が熱くなりました！（即興からめーる団）

２回目はハロウィンだった。３回目は酉の市だった。毎年あるけどやっぱりにぎわいがあるのは楽しい。おなじみの日常にはほんの少しの変化が必要だ。人が変わればやることが変わる。そんな当たり前のことが許されないことが多い。取り替えのきく誰かが仕事を担わなければ毎日のことは止まってしまう。この学校は交換不可能な個人をじっくりゆっくり見つめている。だから変わることにも変わらないことにも停滞することにも進むことにも寛容だ。楽しい時間は大事だ。普段毎年あるものは大事だ。今回教えてもらったこと。一緒に楽しいことをやると仲良くなる。（柏木陽）

コーディネーターから

引っ込み思案な子が多い中、子どもたちから出てきたものを丁寧につなげて、それぞれ作品を創ることができた。子どもたちの反応を大切にすることで、子どもたちが自分らしさを少しずつだが出せていけたように思う。

先生から

子どもたちが出た言葉を紡いで「仲良くなるための詩」「仲が悪くなるための詩」を作っていった。身体を使って一つのテーマと仲間と協力して作る活動を行った。言語表現よりも身体表現の方が本校の児童と生徒にはあっていたように思う。コミュニケーションに課題がある子どもの課題点がいっそう明らかになった。子どもたちは皆笑顔で体験を楽しんでいた。

子どもたちから

みんなと仲良くなれた。／苦手なことにチャレンジできた。／みんなで出し合った言葉が曲になって演奏して楽しかった。

ダンス分野の取り組み

言葉や文字にならない何かをからだで表現するダンス。
自分のいる空間をしっかり把握して、まずはからだをうごかしてみるところからはじめます。五感を研ぎ澄ませて、身体感覚の大切さを体験します。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立西寺尾小学校＋Offsite Dance Project 世界にひとつの自分だけのダンス

担当アーティスト	伊藤知奈美(Co.山田うんダンサー)
実施校	西寺尾小学校(神奈川区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／6 学年 2 学級 67 名
実施日程	2013 年 7 月 4 日(木)・10 日(水)、9 月 9 日(月)

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。ダンスの表現運動を通して、一人一人が個性を出すこと、自己を表現することができるように、また他者を認め合えるような体験型のワークショップを３日間実施する。

アーティストから

６年生２クラスとも、それぞれ明るく元気いっぱいのクラスでした。自己紹介から、準備体操のような真似っこをすることからはじめました。ストレッチだけでなく、バランス力、筋力なども使い徐々に身体の色々な部位を動かしていきました。また、声を出すことで身体と気持ちをよりスムーズに開くことができたように思います。音楽をかけてからは音に合わせて踊ったり自由に踊ったり、２人組でできる動き、グループワークなどな事に取り組みました。子どもたちからその場でその瞬間に生まれる動き、アイデアには驚かされ、とても感動しました。体育祭のダンスのようにみんなで振付を踊ることとはまた違う、一人一人違って良い、正解のないダンスの体験になっていれば良いなと思います。

コーディネーターから

昨年度も学校プログラムを実施しており、学校とアーティストとの良好な関係のもとで授業ができました。今回は６年生のため各クラス２時限を３日でプログラムを組みました。アーティストは高学年の子どもたちの授業体験は少なく当初不安を感じていたようでしたが、Co. 山田うんの３名による授業はエネルギーにあふれ、子どもたちにも伝染して、ダンスの渦に巻き込まれていくようでした。ダンスは生きること！というメッセージが体験を通して子どもたちに刻まれていく様子が印象に残っています。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立平沼小学校＋ST スポット横浜 「感・全・協・竜」オリジナルダンス作り

担当アーティスト	21 世紀ゲバゲバ舞踊団（入手杏奈／振付家・ダンサー）
実施校	平沼小学校(西区)
コーディネート	NPO 法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／4 年生 3 学級 105 名
実施日程	2013 年 12 月 12 日(木)、2014 年 1 月 17 日(金)・30 日(木)、2 月 10 日（月）

授業のねらい

自分の体を使って表現したり、友だちとのコミュニケーションを図ったりする力を養えるような取組。行事を振り返り、その中での気づき・成長を感じられるような取組。言葉を取り入れた身体表現。2 月の 10 才(テンサイ)パーティで発表する作品づくりをする。

アーティストから

子どもたちにとって、私たちは「よくわからないことを言ったりしたりする人たち」であると思います。日常生活では恐らくまだ出会ったことのない、よくわからない変な大人たち。しかし子供達の中には、そのようなよくわからないものに対する興味がそれぞれの度合いであって、それに気付くきっかけを与えるのが我々の役割である、と感じました。普段の学校生活では、子供達なりに我慢していることや、疑問に思っていることがたくさんあると思います。その蓋を少しでも開けることができればと、今回の WS では、自分の好きなことに注視して、動きも好きなように自由にやってみることをテーマに、皆に動きを作ってもらったりしました。10 才パーティーの発表の創作では、やったことのない動きや表現方法もたくさんあったと思いますが、皆段々とその面白さに気付いていって少しずつ自由になっていく姿は、とてもいきいきとしていて心動くものがありました。こんなのもありなんだな、とか、この感じおもしろい、とか、心に引っ掛かる瞬間がおそらくそれぞれにあったのではないかと思います。子供達自身も、周りの大人達も、その感覚をないがしろにせず、肯定的に育てていって欲しい、と思います。それが踊りというかたちに限らずとも、皆のやりたいことや、好きなことへの関心、疑問、興味を深め追求していくことへの力になると、確信しています。

コーディネーターから

10 才パーティという一つの目標に向けて、子どもたち・アーティスト・先生・コーディネーターが一丸となってオリジナリティ溢れる作品ができたと思います。子どもたちはもちろん、先生も触れたことのない、“コンテンポラリーダンス” というジャンルで、はじめは戸惑いはありつつも、子どもたちはダンスを通して、時間がたつほど自由な身体表現を楽しんでいるようでした。

先生から

まず 4 回という少ない機会の中でもアーティストの方と親密な関係を築けたところがよかった。子どもの思いを大事に考えてくださったので一緒にひとつの作品を作り上げることができた達成感を味わえた。10 才パーティー当日もわざわざ見に来てくださり、子どもたちもとても喜んでいた。その気持ちが本当にありがたかった。また打合わせも時間のない中で丁寧に応じてくださり、たくさんのアイデアをいただけたのもよかった。

子どもたちから

校歌ダンスがたくさん踊れた。／みんなでやって楽しかった。10 才パーティーでランドセルの劇をみんなが笑ってくれてうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立本町小学校＋Offsite Dance Project 気づいたらダンス！

担当アーティスト	梶本はるか(ダンサー・振付家)、松岡綾葉(ダンサー・振付家・大学非常勤講師)
実施校	本町小学校(中区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／2 学年 4 学級 120 名
実施日程	2013 年 9 月 17 日(火)～19 日(木)

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。ダンスの表現運動を通して、一人一人が個性を出すこと、自己を表現することができるように、また他者を認め合えるような体験型のワークショップを３日間実施する。

コーディネーターから

当校では昨年度 KIDS DANCE THEATER を実施しており、アシスタントを務めた若手アーティストが主体になって授業づくりを行いました。学年や実施クラス数は異なるものの、馴染みのある環境での授業実施は学校・アーティスト双方に有効だと思いました。講師を務めた 2 人は昨年度プラットフォーム事業で多数の現場経験を踏んでおり、多様な手法を生かして、子どもたちがダンスを楽しめるようにプログラムを工夫していました。ダンスのすばらしさを伝えたいという強い想いが子どもたちにも伝わり、子どもたちが集中し、積極的に取り組む非常に良い内容だったと思います。

アーティストから

ダンスはどこにでもありいつでも楽しめるものであることを伝えたいと思い、授業に臨みました。いきいきと踊るたくさんの身体が授業の中で立ち現れました。その瞬間に出会えたことは、アーティストとして喜びであり、そこに学校で授業をする意味を見出せました。初日の授業ではばらばらだと感じたクラスも、最終日にはダンスを通してまとまりができたように感じました。

先生から

コンテンポラリーダンスというジャンルが小学校教育の趣旨にとてもかなっていると感じた。良いものに触れただけにほかの活動のとのリンクを図りたかったが、時期や時数との絡み、また 2 学年だったということもあり単発になってしまったのが残念であった。せっかくの機会を日々の教育活動に位置付けていくことは今後の課題である。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立間門小学校＋Offsite Dance Project 身体でお習字

担当アーティスト	岩渕貞太(振付家・ダンサー)、 関かおり(振付家・ダンサー)
実施校	横浜市立間門小学校(中区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 2 学級 77 名
実施日程	2013 年 9 月 24 日～26 日(木)

授業のねらい

身体で表現する機会が少ない中で、コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。身体で遊ぶ時間、身体を動かす発想を重視し、子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。

アーティストから

３日間のワークショップを行いました。振付を覚えて踊るのではなく自分で動きを考える授業にしました。身体の様々な部位を使って文字を書く「からだでお習字」というワークをしました。思い切りのいい子、もじもじやる子、さまざまでしたが、そのこと自体がすでに身体が何かを表現しているということを伝えました。動きをつくる時にこちら側は少しのアドバイスにとどめて子どもたちを刺激するだけでどんどん自分たちで発想を発展させていきました。正解を当てるのではなく、自分で考え身体から発見していく楽しみを感じてもらえたのではないかと思います。子どもたちのそんな姿を見ながら何か「希望」というようなものを見せてもらったと感じました。

コーディネーターから

３年生の授業としては正直難しいのではと当初考えていましたが、子どもたちはのびのびと、自由に自分たちなりの発想を身体で表現しようと試みていました。講師がビジョンを明確にしクラス運営を行っていたことで、子どもたちは３日間の授業でどこに向っていくのかが理解できたと思います。先生にも授業の方向性を理解していただき、後押しもあって、非常に充実した内容になりました。本事業がきっかけとなって、地域の劇場へのおでかけプログラム「KIDS DANCE THETER vol.2」にも繋がり、大きな成果がありました。プラットフォームがきっかけとなり、さらに発展していくような取り組みを今後も行っていきたいと思っています。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立山王台小学校＋横浜市芸術文化振興財団 ステップアップダンス

担当アーティスト	KAZUYA(ダンサー)
実施校	山王台小学校（磯子区）
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	クラブ活動
実施概要	体験型／ダンス／4～6 学年 20 名
実施日程	2013 年 10 月 17 日（木）・24 日（木）、11 月 14 日（木）、1 月 16 日（土）

授業のねらい

自分を表現すること、音楽を自分の身体を使って表現すること、協力してダンスを創りあげること、踊ることの楽しさを実感する。

アーティストから

今回初めてこのプログラムの講師をさせていただいたのですが、通常行っているダンスレッスンと違い回数が少なかったので簡単なプログラムにするか、難しいプログラムにチャレンジするか迷いました。コーディネーターと話した結果、子どもたちにチャレンジを恐れないを精神と成果を得る難しさを知って欲しいと思い、難しい内容にチャレンジをしました。レッスン中は常に笑顔が絶えないクラスでこちらもパワーをいただきました。発表会では誰一人諦めないで最後まで踊れたと思います。子どもたちのキラキラした目が印象に残ってます。彼女たちが夢を持ち、それをいつしか目標に変えて結果を出せる人になる。一瞬でもそこに立ち会えたことに感謝します。

コーディネーターから

１回の実施時間が 40 分間と短い中でどこまで出来るのか、アーティストと探りながらの進行となりましたが、最後の発表会では堂々とダンスを踊ることができました。子どもたち自身が、「もっと上手に踊りたい！チャレンジしたい！」という気持ちを持って１回１回の練習に真剣に取り組んでいたこと、各々が自主練習をするなどの努力が結果に結びついたと感じています。子どもやダンスと向き合うアーティストの姿勢から、アーティストの思いが子どもたちに伝わり、短い時間でも内容の濃いプログラム実施となりました。

先生から

ダンスクラブではダンス経験のない子どもが多く、アーティストに来ていただく前の発表会ではできる子に教わる受動的な姿が多かった。アーティストに教えていただいてからは様々なステップがわかり、自分たちでダンスを作りだそうとする姿が見られた。子どもたちの変化、成長を見て、今回学んだことをこれからの指導に役立てていきたいと感じた。

子どもたちから

ダンスクラブのみんなと協力して絆を深めたし、ダンスもとてもできるようになりました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立相武山小学校＋吉野町市民プラザ 身体で表現してみよう

担当アーティスト	東野祥子(振付家・ダンサー)
実施校	相武山小学校(港南区)
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 3 学級 105 名
実施日程	2013 年 8 月 29 日(木)・30 日(金)、9 月 4 日(水)

授業のねらい

言葉を使わない表現芸術であるコンテンポラリーダンス。まずはアーティストのダンスを身近に観て、本物の芸術に触れ、表現の多様さを発見し、言葉に頼らない表現の素晴らしさを実感してもらいます。自分で考えたこと、感じたイメージを身体で表現することの楽しさを味わい、一人一人が積極的に自己表現できるようになることを目指します。また、グループで小さな作品を作り、仲間で協力して創造することにより生まれる広がりや喜びを知って、お互いを認め合い、自分らしさを表現することの大切さを学ぶ機会とします。

アーティストから

３年生の感受性はとても良く、素直で恥ずかしがらず、こちらの言葉を理解した上で、非常に楽しんで身体で表現してくれていました。集中力もあり、みんなの顔、目がきちんとこちらを向いて、授業に真摯に取り組んでくれました。各クラスの特徴も良い方向に反映され、それぞれの３日間の成果がみえたと思います。来年、継続していけるのであれば、今後は家族や違う学年に向けて発表の場をつくることも検討し、隣接する幼稚園との合同授業にも取り組んでみたいと思います。この授業がきっかけとなり、今後もコンテンポラリーダンスを観ること、音楽に合わせて自由に身体を動かすこと、その素敵な想像力を自分自身の表現として探求していってくれることを期待しています。

コーディネーターから

最初は戸惑いもあり、表情も動きも固かった子どもたちが、３日間を通して本当に生き生きと楽しそうに動くようになりました。東野祥子さんへの興味が尊敬に変わっていくのが目に見えるようでした。45 分というコマの中でのプログラム作りも素晴らしく、そのため子どもたちも集中力が途切れず行うことが出来たのだと思います。校長先生をはじめ学校全体が受け入れ態勢を整えてくださり、大変理解してくださっていることが本当にありがたく、それがこの授業を受ける子どもたちにも良い相乗効果をもたらしているのだと感じました。

先生から

表現運動を行うとき、大きくしっかり動くことができるようになってきた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立永野小学校＋吉野町市民プラザ 校歌でダンス！

担当アーティスト	遠田誠(振付家・ダンサー)
実施校	永野小学校(港南区)
コーディネート	吉野町市民プラザ
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 3 学級 92 名
実施日程	2013 年 7 月 10 日(水)～12 日(金)

授業のねらい

自由に体を動かして表現するコンテンポラリーダンスで、表現の方法は１つではないということを体験してもらいます。自由に自分の体を使ってできる表現をたくさん見つけ、ひとりひとりが積極的に自己表現をし、他の人々の動きや表現を見て相手を受け入れられることの大切さを実感できる機会となることを目指します。

アーティストから

昨年末は完全なる冷蔵庫状態だった体育館が今回は一転、蒸し風呂状態。どうもこの学校にはガマン大会がつきものらしい。もっとも騒いでいたのは大人たちだけで、暑かろうが寒かろうが子どもにはさして問題ないみたいだが。３年生３クラスを相手に３日間のワークショップ。基本の骨子は前回同様“校歌で踊る！” ちょうど歌詞が３番まであるので、１組１番、２組は２番という具合に振付ける。最終日に合同発表するまでは他のクラスがどんな動きをするのか分からないのがミソ。あるクラスは当初まとまりに不安があったが、発表では実にイキイキと歌い踊ってくれた。負けじと自主練し始めるクラスも現れ、その意外な自発性に驚かされた。「今年の３年はイイですよぉ～」という前評判はダテではなかった！ 一方で､先生から度々受ける注意を警戒(？)する余り、なかなか日常モードから抜け出せないクラスも存在した。本ワークショップの根幹は、発表する踊りの精度を上げるところにはない。多少ハチャメチャな流れの中でいつもとは違う価値観を発見することにあり、それを生業とする大人の存在を知ることにある。ある意味ダンスは治外法権。そこに絶対的な正解は存在しないように、モノゴトの基準も１つではない。故にワーク中に起こる大概のことには口出しをせず見守っていて欲しい…といったコンセンサスを事前に取っておかなかったのは大いなる反省点だ。先生方も一体何が起こるのか分からぬまま、手探り状態で参加されている。肝心なところを見失うなよ、と子どもたちに教えられてしまった。

コーディネーターから

とても積極的に取り組む永野小学校の３年生。子どもたちは遠田誠さんの動きに合わせて身体を使って表現する楽しみを感じることができました｡また子どもたちが自発的にダンスを考え、遠田さんがそのダンスを取り入れてくださるなど、創造する楽しみも発見することができたと思います｡遠田さん振付けの“校歌でダンス！”発表会では先生が作成した校歌伴奏をバックに子どもたちがダンスをするなど、アーティスト、子ども、学校で作り上げたコンテンポラリーダンスができあがりました。

先生から

プロのダンサーによるいろいろな身体での表現を教えていただいて子どもたちは本物の動きに刺激を受け、とても豊かに表現し､楽しい時間に過ごすことができました｡ちょうど体育の「体つくり運動」とつながっており、みんなで関わり合いながら心と体をほぐしたり、身体のバランスや多様な動きをつくる運動ができたりしてよかったです。また、子どもたちに身近な校歌に振り付けをしてダンスをし、クラスごとに発表してみんなで１つのものを創り上げた体験が子どもたちの自信や新たなことに挑戦する意欲につながりました。

子どもたちから

アーティストたちがおもしろかった。／いろいろなダンスができた。／できないことができるようになった。／みんなとできて楽しかった。／校歌に合わせてダンスをして楽しかった。／難しいところがあった。／いろいろな食べ物を体で表現するのがおもしろかった。／クラスごとに練習をし、発表ではそれぞれのクラスのいいところが見せられてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立日野南小学校＋ひまわりの郷
ヒップホップのリズムにのって

担当アーティスト	堀江治喜(ヒップホップダンサー)、野口大輔(ヒップホップダンサー)
実施校	日野南小学校(港南区)
コーディネート	港南区民文化センターひまわりの郷
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／ヒップホップ／5 学年 2 学級 73 名
実施日程	2013 年 10 月 25 日(金)、11 月 1 日(金)・8 日(金)

授業のねらい

一人一人が主体的に取り組み、自信を持って「表現する力」や「コミュニケーションの力」を育てる。成功体験や達成感を味あわせることで、表現することの苦手意識を払拭し、表現する喜びを実感させる。自分ひとりでは出来なかったことも「仲間と一緒に取り組んだことで成し得た」という達成感を持たせ、協力する良さに気付かせるとともに､「自分の役割を果たしたことで成功した」いう自己有用感を育てる。

アーティストから

子どもたちが積極的な態度で真剣に楽しそうにステップを覚える姿に感心した。音楽のリズムに合わせて身体全体で表現することの素晴らしさを多くの子どもに感じてもらえればうれしい。短い時間ではあるがいくつものステップを組み合わせて、振り付けを覚えていくのにも感心した。学校の先生たちがダンスを教えるのはなかなか難しいこどだと思うので、機会があればこのようなプログラムに積極的に協力したい。

コーディネーターから

今回初めて「プラットフォーム事業」に参加し、我々のプログラム（ヒップホップダンス）が小学校の授業という中で、どのように受け止められるか、という若干の不安はあったが、初回から子どもたちがアーティストの話に耳を傾け、楽しそうにステップを踏んでいる姿を見て、まず安心した。ダンス系は端から見るとアンダーグラウンドなイメージで見られる場合もあるが、ダンスは身体だけではなく、次のステップをどうするのか等、一瞬で頭で考えながら表現していくという心と身体のバランスがとても重要なことだいうことも体験してもらえた思う。担当の先生をはじめ、校長先生、見学に来た保護者からも良い体験だったとの感想をいただいた。

先生から

いろいろな分野の専門家の話や指導を生で受けられるのは子どもたちの経験を増やす上で貴重なことだと感じました。子どもたちのパフォーマンスの１つの表現方法として生かしていきたいと思います。

子どもたちから

リズムをとりながら踊った。／ランニングマンやブルックリンという動きが楽しかった。／アーティストの先生が楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立瀬谷さくら小学校＋Offsite Dance Project ワクワク！オリジナルダンス！

担当アーティスト	伊藤知奈美(Co.山田うん ダンサー)
実施校	瀬谷さくら小学校(瀬谷区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年 2 学級 62 名
実施日程	2013 年 9 月 3 日(火)・5 日(木)・6 日(金)

授業のねらい

コンテンポラリーダンスの体験を通して、子どもたちのコミュニケーション力や表現力、創造力を高めることを目指す。子どもたちが自由な発想で自分を表現する楽しさを体験する機会、先生が子どもたちの表現の力を引き出し／伸ばすための方法論を学ぶ機会を提供する。一人一人が自信をもって表現できるようになる活動。友だちとの差異を認めたり、同じ動きを楽しんだりできるような活動を行う。

アーティストから

授業をはじめる前から好奇心旺盛で、準備体操の真似っこダンスを大きな声で元気にはじめられました。集中力も高く、みんなで一つの輪っかになることもスムーズにできました。身体でトンネルをつくった時も創作トンネルができたり、発想も豊かでした。自由なダンスタイムの場所の使い方や、友だちとのグループのなり方、ほどけ方には驚かされ、音楽をかけて踊りたい人から踊ってみようという声かけに全員が立ち上がってしまった時には感激してしまいました。暑い時期の体育館でしたが時間いっぱい身体を使えていました。学校、先生方、子どもたちののびのびとした雰囲気は宝物だと思います。

コーディネーターから

初日から最終日まで、一貫してダンスの楽しさを伝える授業が行なわれました。子どもたちはどのワークに対しても生き生きと取り組んでおり、次の授業が楽しみで仕方がないという様子でした。また、アーティストと先生との関係も良好で、先生方も積極的に授業に参加していただけました。そのことでさらに素晴らしい授業を展開することができたと思います。

先生から

授業で表現運動が楽しめず、固まっている子が何人かいたのでその子たちの対応・支援に悩んでいた。そんな中で今回の授業を通して「音楽」の大切さ、「表現させたいもの」の選択、教師の雰囲気(テンション)などの重要性に気づくことができ、今後の学習へ生かしていくポイントを学ぶことができた。

子どもたちから

アーティストの方たちの動きを真似するのがおもしろかった。／自由に身体を動かせるのが楽しかった。／友だちとペアを組んで動くのが楽しかった。／自分の思ったことを動きで表すことを初めて知った。／鉛筆などの“もの”になりきる動きをすると何かおもしろい。／初めは恥かしかったけど、みんなと一緒にやると恥ずかしさがなくなった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立山田小学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館
イメージする力～色々な動きでダンスをつくってみよう

担当アーティスト	笠井瑞丈(振付家・ダンサー)
実施校	山田小学校(都筑区)
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／5 学年 3 学級 93 名
実施日程	2013 年 11 月 25 日(月)・27 日(水)・29 日(金)

授業のねらい

のびのびとして素直な子どもが多い中、コミュニケーションをとったり、創造的な活動を進んでおこなうのが苦手な子どもも多い。今回の授業では、自分の考えやイメージを言葉だけではなく、身体を使って自由に表現できる場を多くつくり、自ら表現する楽しさ、そして、他の人の表現の違いを発見し、互いの動きを活かして作品を作る面白さを実感できる機会をつくる。

アーティストから

今回は５年生を３クラス担当させてもらった。いつも思うことだが担任の先生によって､クラスの色が違うというのを感じた。ワークショップの内容は、いつもやっている大人のクラスと変わらない内容をやった。イメージから湧いてくるものを身体の動きに置き換えるというもの。大人のクラスでは出てこない発想がたくさん出てきた、子どもの発想というものにはなにも規制がない、そんな規制のないところから生まれた動きはとても自由だと感じた。今回のワークショップを通して僕らも新しい発見が出来、子どもたちにも新しい発見を伝えられたと思う。

コーディネーターから

今回担当した山田小学校はダンス授業の経験がない学校でしたので、まずはコンテンポラリーダンスってなんだろう？ということを知ってもらるようなプログラムをアーティストに実施していただきました。各クラス１回ずつの授業という短い時間でしたが、自分の想像力をはたからせて自由にダンスを作れるコンテンポラリーダンスの面白さを少しでも感じてもらえたのではないかと思っています。

先生から

ふだんの授業の中で子どもの興味や関心を引き出すために教師は各教科・領域の中で教材を開発したり教材のよさを知ったりする。その様な中で今回の授業を拝見して感じたことはアーティストさん達が(身体を使って表現するためと考えが)「表現」とは何かということをよく理解されているということ。私たちもさらにアーティストさんから学んだことを生かして授業に取り組んでいきたい。

子どもたちから

みんなで楽しく作っていったところがとても面白かった。／クラブ活動で使えそう。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立老松中学校＋急な坂スタジオ ダンスを体で感じる

担当アーティスト	京極朋彦(ダンサー・振付家)
実施校	老松中学校(西区)
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	総合
実施概要	鑑賞型／コンテンポラリーダンス／3 学年 4 学級 154 名
実施日程	2014 年 3 月 4 日(火)・5 日(水)

授業のねらい

ダンス作品『カイロー』(約 30 分) 鑑賞とコミュニケーションのワークショップ（約 30 分）を急な坂スタジオのホールにて実施する。ダンスを「非言語のコミュニケーションツール」として捉え、それらを鑑賞、体験することでコミュニケーションの多様性を知る。

アーティストから

今回は鑑賞と体験、両方をしてもらうことで、より作品が子どもたちに届いた気がます。子どもたちの反応が素直で、上演中に感想が飛び交ったのが印象的でした。無音の作品ということもあり、合間合間に聴こえてくる素直な感想や、段々と口数が減らして集中していくさまがダンスに影響し、相互に刺激を与え合えたのではないかと思います。体験ワークショップでは普段、使うのを忘れがちな感覚を呼び起こすことで得られる感動を、子どもたちが素直に喜んでくれている姿が印象的でした。

コーディネーターから

日ごろから交流のあるご近所の中学校ですので、急な坂スタジオがどんな場所であるか知ってもらおうとお越しいただきました。「ダンス」と聞いて想像するものとは少し違った作品を観て、実際に動いてもらうことで、卒業を目前に控え、これから社会に出ていく中学 3 年生に、自分たちが知らない世界や自由な表現があることを感じてもらえたのではないかと思います。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立泉が丘中学校＋横浜赤レンガ倉庫１号館 何が見えるだろう

担当アーティスト	じゅんじゅん(振付家・ダンサー)
実施校	泉が丘中学校(泉区)
コーディネート	横浜赤レンガ倉庫１号館
実施科目・教科名	体育
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／1 学年 4 学級 148 名
実施日程	2013 年 12 月 17 日(火)・18 日(水)

授業のねらい

皆で身体を動かす表現活動を通して、自分の思いや考えを恥ずかしがらずに伝達することができるようになるきっかけをつくる。身近な「身体」で表現方法や個々の資質や創造性をむりなく発揮する機会を創ることをめざす。

アーティストから

中学校のワークショップはとりわけ難しい部類にはいる。受け手の生徒は多感な時期で人と一緒に動いたり触れたりする等はとても冷静にできるものではないらしく、騒がしい雰囲気になり、本来のねらいに届かないことも多い。
今回様々なマイムやダンスをとにかく体験してみる、というところから入ったがそれぞれが人に見られる状態になってしまうと途端にやらなくなるので､それを避けるような構成を考えた。一列で順番にやるよりペアでそれぞれやらせたり、わかりやすく「やってみたい」と強い興味を引くような課題を用意する（壁、鞄等のマイムのテクニック）などである。ワーク中盤くらいから集中も高まり動くことに抵抗が少なくなりいい時間になったように思う。ほめることも重要でやはり嬉しいらしく適宜みんなの前でコメントすることもいい集中に繋がったようだ。

コーディネーターから

事前にアーティストと学校に訪問した際、担当の先生から学年全体の様子をヒヤリングできたことは実際に授業をおこなうにあたり有益だったように思います。今回は、視覚や触覚、イメージをフルに使いながら約２時間のプログラムをアーティストとともに実施させていただきました。自我が芽生えはじめる中学生にとって、自他の良さを認め、創造する楽しさを感じることができる時間になったのではないかと思います。

先生から

身体を動かす表現活動は、自我の強くなる中学生は抵抗が強く自分の考えや思いを恥ずかしがらずに伝達できるような体験が出来て良かったと思います。また、仲間と協力して活動できる要素もあり、さらに仲間との関わり方、相互理解をすすめることにつながったと思います。パントマイムはコンテンポラリーダンスより見て、楽しめて実際にやってみてもすぐにできる動きもあり、楽しみながら動くことができたので、良かったと思います。伴奏音楽をもう少しつけて動けるとより楽しくイメージできると思いました。

子どもたちから

動き方の説明で修学旅行をイメージするのが楽しかった。／みんなでできる内容が多かったから楽しめた。／ヒップホップやチア系のダンスがやりたかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス・音楽」

横浜市立上菅田特別支援学校＋ＳＴスポット横浜
それぞれの音、身体、時間

担当アーティスト	上村なおか(ダンサー・振付家)、生形三郎(音楽家)
実施校	上菅田特別支援学校(保土ケ谷区)
コーディネート	ＮＰＯ法人 ST スポット横浜
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス・音楽／高等部 19 名
実施日程	2014 年 1 月 14 日(火)・21 日(火)・28 日(火)、2 月 18 日(火)

授業のねらい

音楽をベースにして、身体の感覚にせまるような内容。個人の持つ音、身体を引き出す。

アーティストから

４回に渡って授業ができたこと、生形さんとともにやれた事が貴重だった。回を重ねるうちに生徒それぞれの個が見えてきて、それはダンスと音楽に分けられるものでもなかった。カラダに耳を澄まし、音を見るような体験だった。先生方やスタッフのサポートとともに、まだ見ぬダンスを見つける喜びがそこにはあったと感じる。言葉にはならないけれど確かに存在するコミュニケーションの力の可能性を実感する場でもあった。ありがとうございました。（上村なおか）

今回の授業は、「人間が音を受容する」ということそのものを強く考えさせられる機会だった。作曲を行ったり、空間を伴う電子音響音楽を制作する自身にとって、後者の様な未知の音（光、身体表現も含む）を体験した生徒が示す豊かな反応や、個人ごとに異なる、音に対する明瞭な嗜好性の差異も興味深かった。また、授業の回数を重ねるごとに、生徒や先生との連携が深まり、より発展的な交感の発生も強く実感し、学校という場で芸術家が行うワークショップ活動の意義や価値を再認識した。（生形三郎）

コーディネーターから

濃密な空間を先生、子どもたち、アーティストの三者で作りだすことができた。一人一人が音を感じ、身体で対話することで言葉を越えたコミュニケーションが存在していたように思う。回を重ねるごとにどんどん“個”が見えるようになってきて、それぞれの表情、表現があふれていた。それをアーティストが丁寧に汲み取っていけたことがとてもよかった。

先生から

アーティストが用意してくださったものだけでなく、教室にある物を使ってくださったのでこんな使い方もできるのだという発見があり、今後の授業にいかせると思いました。ふだんヒップホップなどリズミカルなダンスを楽しんでいる生徒がゆるやかな動きをするダンサーに注目し目で追っているのが印象的でした。強い刺激でなくても感性を働かせて受け入れていることがわかりました。４回もきていただけるという贅沢な授業で１回毎にふりかえりをすることができありがたく思いました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「ダンス」

横浜市立二つ橋高等特別支援学校＋急な坂スタジオ
踊りで空気を動かしてみよう―大きく、ときに静かに―

担当アーティスト	酒井幸菜(振付家・ダンサー)
実施校	二つ橋高等特別支援学校(瀬谷区)
コーディネート	急な坂スタジオ
実施科目・教科名	自立活動
実施概要	体験型／コンテンポラリーダンス／3 学年選択授業 18 名(最終日 150 名)
実施日程	2013 年 12 月 10 日(火)、2014 年 1 月 21 日(火)、2 月 5 日(水)・7 日(金)

授業のねらい

体育を選択科目としている生徒たちと、月に１回３ヶ月間かけてコンテンポラリーダンス作品づくりに挑戦します。リズムに合わせて大きくダイナミックに踊ることも、静かにそこにたたずむこともダンス作品の重要なピースとなることを理解し、味わい、楽しむ機会とします。15 分程度のダンス作品を制作し、学習発表会で全校生徒の前で発表を行います。

アーティストから

３ヶ月間で２つのダンスに取り組み、全校生徒を前にしての発表は連日の練習の成果が存分に発揮された素晴らしいものでした。とても集中し楽しんで踊っている彼らの姿に、私も励まされ胸が熱くなりました。最初はどう動いていいか戸惑っていた彼らでしたが、私の意図を丁寧にキャッチして指導してくださった先生の熱意もあり、一人一人の成長には毎回目を見張るものがありました。このような形で出会い、ダンスに触れ、練習に打ち込んだ日々、そして発表という経験が、これからの彼らにとって自信のひとつになればと願っています。

コーディネーターから

先生の日々のご指導の賜物で、少ない授業回数にも関わらず、一人ひとりがしっかり踊りこんでいて、自信を持って本番に臨む姿が印象的でした。酒井さんの構成・振付を受けて、生き生きと、そして心から表現を楽しむ彼らの姿に全校生徒、先生方、保護者の皆様にも少なからず伝わるものがあったと思います。卒業前の彼らと酒井さん、また、ダンスとの実りある出会いが生まれた取り組みとなりました。

先生から

押しつけのダンスレッスンではなく、生徒主体の内容で授業展開にしてくれてよかった。わかりやすい指導ができるように情報機器を活用してくださりました。アーティストの方の魅力(ダンスや指導)があり、生徒のモチベーション向上に大変繋がった。今後の参考にしたい。

美術分野の取り組み

自分で考えて、自分でつくってみる。その面白さと難しさを体験します。のびのびと創作することを通じて、イメージや感覚をとらえ、表現する面白さを深めます。自分や友だちの多様な表現に触れる機会となります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立市立末吉小学校＋サルビアホール オリジナル絵の具を作ろう

担当アーティスト	アトリエアリス（松岡真記子、鈴木美貴子、新美博子）
実施校	末吉小学校(鶴見区)
コーディネート	鶴見区民文化センターサルビアホール
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／美術／5 学年 5 学級 174 名
実施日程	2013 年 10 月 25 日(金)・28 日(火)・29 日(水)

授業のねらい

粉末状の顔料に糊を混ぜて練り、３原色の絵の具を作る。３原色の絵の具を混ぜてたくさんの色を作り、絵を描いてもらう。チューブの絵の具しか使ったことのない子が多いので、顔料に糊という意外な組み合わせで絵の具が作れることや、３色から様々な色を作ることが出来るなど､普段使っている絵の具を｢作る｣という過程を楽しんでもらいたい。

アーティストから

１クラスずつ２時間を５クラス分行うのは、準備も当日のワークショップも大変ではあるが、楽しく良い経験となった。「この絵の具、一生使わないで取っておく。」という子どものコメントが、とても嬉しく、「報われた！」と思いました。同じワークショップでもクラスが変わると全く雰囲気が変わるところがおもしろい。３原色から色相環を作る作業では、白や水を混ぜてペールトーン、濁り気味のダルトーンを作る子たちもいて、個々の色彩のセンスが伺えるところが楽しかった。

コーディネーターから

本物さながらの絵の具を作ったら楽しいかも。ということで、アーティストの方でチューブからラベルまで準備され、また絵の具を容器に詰めるオリジナル道具も考えてくださった。細かな作業が得意ではない子どもも簡単に作業できる工夫、効率よく進行するための工夫など、子どもを理解しているワークショップの組み立て方が秀逸だと思った。チューブになる前の絵の具を作るのは初めてだと思う。みんな楽しそうに作業しており、良い経験になったようだ。家にある粉で作ってみたい。という子どもの声が嬉しかった。

先生から

友だちと協力して４色の絵の具を作る活動にグループで協力して取り組んでいた。また３原色から色を混ぜていろいろな色を作ることを通して、想像力がついたと思う。

子どもたちから

絵の具作りが楽しかった。／絵の具の粉が楽しかった。／絵の具の作り方をはじめて知った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立大道小学校＋横浜こどものひろば アニメーションをつくろう

担当アーティスト	ドゥイ(造形作家)
実施校	大道小学校(金沢区)
コーディネート	NPO 法人横浜こどものひろば
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／6 学年 2 学級 43 名
実施日程	2013 年 9 月 12 日(木)・18 日(水)・26 日(木)

授業のねらい

一緒に作る楽しさを味わう。創立 70 周年にあわせた動きを作る。

アーティストから

先生方が非常に協力的で、準備や打ち合わせにもとことんつきあっていただき、大変助かりました。先生方と相談して、普段の授業ではできないこと、感覚的で答えがないようなもの、というのを考慮して、コマ撮りをすることになりました。作業自体は根気がいりますが、簡単なので子どもたちもすんなりはじめられたと思います。大人数を相手にするので細かいところまで目が行き届かない所もあったと思いますが、「楽しかった」「5.6 時間目もつづきやりたい」との声を頂いて嬉しかったです。楽しい３日間を過ごさせて頂きました。

コーディネーターから

この授業で「どんなことが起きたら良いのか、どのような変化を求めているか」について、先生方の授業に向かう気持ちが明確で、コーディネーターとしては提案を絞り込むことが容易に出来ました。造形作家のドゥイさん２名は子どもたちと気持ちが通じ合うようで、子どもたちも気持よく参加していたと感じました。アニメーション作品を作ってみるという初めての体験にも関わらず、目の前で作り出したコマ撮りの写真がその場で見られる楽しさと、元に戻ってやり直す事が出来、もうひと工夫作品を向上させるクオリティーを生み出す楽しさも味わえたと思いました。

先生から

自分で見つけた身近素材を動かす楽しさを想像し、友だちと協力しながら作品にしていくことの喜びを子どもたちは感じ取っていました。作りながら考え、表現していくこと、失敗することのない安心感もあり、回を重ねるたびに生き生きと表現する力が伸びてきました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立大曽根小学校＋芸術家と子どもたち せんたくばさみ 30,000 コの時間

担当アーティスト	山添ｊｏｓｅｐｈ勇(美術家)
実施校	大曽根小学校(港北区)
コーディネート	NPO 法人芸術家と子どもたち
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／2 学年 5 学級 157 名
実施日程	2013 年 9 月 25 日(水)～27 日(金)

授業のねらい

普段過ごしている教室という日常空間の中で、30,000 個のせんたくばさみを使って自分で何かをつくってみることの面白さと難しさを経験する。
また、１つの素材ととことん向き合い、新たな表現方法に出会うことで､つくりだす喜びや新たな自分と出会うことを目指す。
ワークショップの最後にはすべて片づけを行い、日常の教室に戻すことで、アートの時間を一人一人の記憶に鮮明に残るようにする。

アーティストから

せんたくばさみ 30,000 個（100 種類）を用意し、それでみんなは何をつくるのか？どんな時間になるのか？緊張しながらの実施でしたが、５クラスすべてで「意外性」のある素敵な活動の時間となりました。せんたくばさみを持ってきていただくことなど、事前に子どもの気持ちへの対応も先生にしていただいており、リラックスして集中するものづくりの時間（子どもにとってのアートの時間）を作る事ができ「ホッ」としました。

コーディネーターから

教室と 30,000 個のせんたくばさみという同じ状況の中でもクラスそれぞれにカラーが出るワークショップとなりました。友だちと協力しながら珍しいせんたくばさみを集めてつなげる子ども、自分が着ている服につけて装飾する子ども、動物など具体的な形をつくる子どもなど、せんたくばさみという１つの素材に、様々なアプローチを用いることで、造形活動の得意不得意に関わらず、各々の楽しみ方で取り組めたのではないかと思います。「普段目にしているものもこんな使い方ができるんだ」「１つの素材でいろいろなことができるんだ」といった子どもたちの感想からは、自分で考えてつくってみることの面白さを体感できたのではないかと感じています。

先生から

アーティストの方々が出す特別な空気は私たち教師にはなかなか出すことができない。子どもたちを引きつける力も素晴らしい。私たち教師は授業をするとき一人ひとりの子どもの特性を考えるが、このようなアーティストの授業はほとんど全員を一律に引きつけるのがよい。毎日は無理だが年に数回あれば子どもたちを学校生活が楽しくなると思う。

子どもたちから

せんたくばさみでいろいろなものをつくることができた。／あんなにたくさんのせんたくばさみは普通ではないので楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立品濃小学校＋アートの時間
仮面パレード

担当アーティスト	深澤純子(アートファシリテーター)
実施校	品濃小学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／5 学年 3 学級 94 名
実施日程	2013 年 11 月 18 日(月)・25 日(月)

授業のねらい

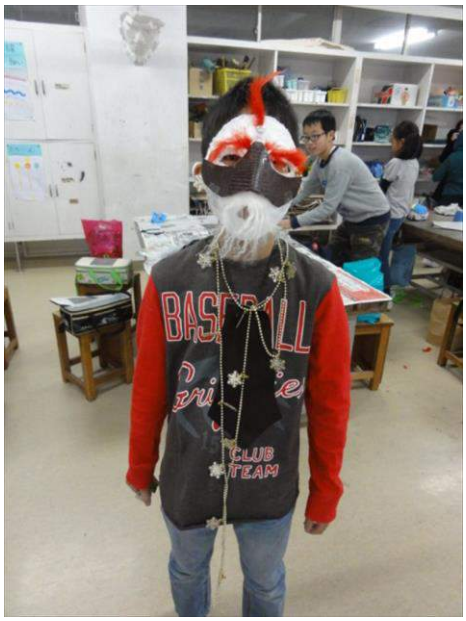
普段の授業では扱わない素材や題材に触れることで、子どもたちの表現の幅を広げる。図工に対する興味・関心を広げる。共同作業の中で、コミュニケーション能力を養い、互いを信頼する心を育てる。

アーティストから

「日常と非日常の往復」品濃小学校での仮面パレードワークショップも５年目になる。低学年の時に、上級生が仮面をかぶって、教室に不意に入ってきたことを覚えている子どもも半数近くいた。５年生になったら、仮面を作ってかぶり、扮装してみんなを驚かしにいく。これが「品濃小の伝統」になっているとしたら、まるで、ホンモノの祭りではないか！マスクを作りながら子どもたちは日常から非日常へとゆっくりと知らぬ間に移行していく。教室に乱入していくときの興奮状態も、祭りそのものだ。終わってしまえば、またゆっくりと日常の意識に帰ってくる。彼ら／彼女らの日常の何かが変わっていくのだろうか。

コーディネーターから

「３人１組をどう作るか、結構悩みました」という先生のお話に、あらためてこのプログラムの持つ意味をふり返る。普段仲の良い者同士という組でもないのに、自分のプランを他の２人に説明し、制作を委ね、結果を受け入れなければならない。この過程は私たちが想像する以上に子どもたちを成長させているのではないか。誰の作品とも言い難い仮面にユニークな装飾を施し、確実に自分のものにしていく彼らは実にたくましく見えた。



先生から

３人１組で行うので、友だちを思いやる気持ちなどがとても成長したのではないかと思った。マスクの型や飾りつけなど自分の想像力を活かして、取り組む姿があった。すごくこだわっている子もいたので、意外な一面を見ることができた。

子どもたちから

アートの先生がとても丁寧に教えてくれたので、きれいにでき、うれしかった。／ベルストンを貼るときが楽しかった。／非日常を体験できて楽しかった。／友達と仮面を見せあったことが心に残った。／初めての体験だったので、とても新鮮でした。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立名瀬小学校＋アートの時間
夢じまん宇宙船の旅 in 名瀬小

担当アーティスト	新生呉羽(美術家・舞踏家)
実施校	名瀬小学校(戸塚区)
コーディネート	アートの時間
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／美術／個別支援級 14 名
実施日程	2013 年 9 月 2 日(月)・9 日(月)・13 日(金)

授業のねらい

表現の幅を広げる。外部講師との関わりから体験の幅を広げる。

アーティストから

「夢じまん宇宙船の旅」は、誰もが表現することの自由を味わい、行動したり発表したりする勇気を持つことができたらいいなというテーマから生まれました。話しやすい「こんな夢を見たよ」という導入で、最後には校庭でも立派な存在感を放っていた宇宙船を完成させました。たくさんの美しい出来事や心が弾む瞬間を見せてくれたクラスの全員、先生もスタッフも誰ひとり欠けても、この素敵な時間芸術は成立しなかったでしょう。

コーディネーターから

全員が自分なりの距離感で宇宙船の完成に関わり、乗り込む喜びを味わっていた。そこにいる誰もが互いの存在をよく感じ合っていた。思いを言葉という手段で補わない分、受け取る側の五感がよく働く。会話ではないコミュニケーションのあり方を教えられた。最後に外で宇宙船と子どもたちの写真を撮りたいと言い出したのは先生方。そこに子どもたちに対する愛情と未来への思いを強く感じた。

先生から

宇宙船がふくらんだ時、子どもたちがとても嬉しそうでした。私たちだけでは、企画できなかったアイデアでよかったです。アーティストの方が個別級の子どもたちに理解があってよかったです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立南戸塚小学校＋さくらプラザ おり紙クルージング

担当アーティスト	佐藤未来(美術家) 中島佑太(現代芸術家)
実施校	南戸塚小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／美術／2 学年 4 学級 109 名
実施日程	2013 年 10 月 21 日(月)～23 日(水)

授業のねらい

馴染みのあるコピー紙とおり紙という組み合わせを用い、日常の中から新しいアイデアや創造が生まれる、という発見や、自分がいってみたい場所を考え、チケットを実際につくってみることで想像力を養う。また同じ材料や折り方であっても、同じものは絶対にできることはなく、選んだ紙の大きさによっても違うため、自分と周囲との個性の違いに気づき、自己表現する方法を自分の舟に見出す。最後に、ひとつひとつ違う舟を一つの「巨大な舟」として集めることで全体感を意識でき、また大きな舟を作る過程では、分担作業を交えながらチームワークや児童間のコミュニケーションを促すことを目指す。

アーティストから

今回のワークショップでは、チケット作り、船作り、クルージングという段階を経て、子どもたちと一緒にひとつの作品を作れたように感じています。小学２年生ですので、難しいことはまだ理解できないとは思いますが、それぞれの段階を楽しんで体験してくれましたし、最後の段階では普段の授業には無い驚きを提供できたように思います。私にとっても今後の活動につながるワークショップとなり、参加できたことに感謝しています。(佐藤未来)

ワークショップの中である子どもから「めんどくさい」と言われたことが、引っかかっています。子どもたちは「めんどくさい」という感覚をいつどのように覚え、感じるようになるのでしょうか。思うに、無駄のない効率を求められる社会の中で無駄だと思われている芸術は、容易には生み出せない「めんどくさい」ものでしょう。でも、無駄で「めんどくさい」ことにさえ価値を見いだせる能力が、これからの時代の新しい社会を作っていくんだと思っています。(中島佑太)

コーディネーターから

学校側にとって初めての取り組みということもあり、当初は具体的イメージがあまりなかったがアーティストの発想を足がかりに、徐々に明確なテーマを見据えることができた。

佐藤さん・中島さんは、現場での問題や変更にも臨機応変に対応し、「アーティストがやる意味」をそれぞれが考え、また子どもと一緒に自らの「作品」を制作することを意識しており、その時の最善を常に目指してくれた。子どもたちも、船作りのプロセスからステージでのプロジェクションまでを通し、インパクトのある体験になった。

先生から

普段経験できないことに取り組み、学年全体として１つのことに取り組む満足感を得ることができた。ちょうど学年でスイミーの学年音楽に取り組んでいた時だったので、タイムリーな課題だった。演出のセンスが光っていて、学校をひらく週間で来校していた保護者も喜んでいた。何度も来校し、リハーサルをしてくださったり、子どもたちのためによりよいものを求めてくださったり、私たちも改めて授業を見つめ直す機会になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立希望ヶ丘小学校＋ART LAB OVA 100 人でアクションペインティング！

担当アーティスト	今井紀彰(写真家・アーティスト)
実施校	希望ヶ丘小学校(旭区)
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／現代美術／5 学年 3 学級 98 名
実施日程	2013 年 10 月 28 日(月)、11 月 7 日(木)・8 日(金)

授業のねらい

汚れるのが嫌いで、大人のいうことを聞く「良い子」が多い。失敗を恐れず、自由に表現をする機会を持ちたい。

アーティストから

1 日目に体育館で開催した「100 人でアクションペインティング」で、子どもたちを写真撮影しました。緊張気味だった子どもたちが体育館を右回り左回りに走るゲームで一気にリラックスしました。アクションペインティングになると大きな紙の上で踊るように絵の具を垂らす子、わくわくして順番を待つ子、皆キラキラした表情だったことが印象的でした。

コーディネーターから

小学校高学年で汚れるのが苦手ということで少し不安だったが、「広い体育館でみんないっしょに」という状況もあり、想像以上にすぐに絵の具に慣れ、「手や足で描いてもいいですか？」と積極的に提案してくる子も多かった。また授業の第一目標に「失敗」を掲げたことで、子どもたちは生き生きと大胆に行動していた。1 枚の紙を、1 日目にみんなで描き、2 日目に個々人で描き、それをまたつなげて大きな作品として展示したことで、描くことの可能性を体感してもらえたと思う。

先生から

今回の授業では(1)失敗を恐れる多くの子どもたちの心を解放してほしいこと(2)身体中を使った感覚遊びの延長のようなプログラムにしてほしいこと…の 2 点をお願いした。(1)では日頃、「失敗を恐れない」と指導しているが、「失敗する」「へんてこ」「へなちょこ」を目当てにすると子どもは安心して失敗できることを教えていただいた。また、普段の授業では行えないからこそ、この時間に焦点をあてたプログラムは非日常で効果的、満足度も高いと思った。

子どもたちから

失敗してもいいんだと分かった。／失敗の本当の意味が分かった。／芸術に興味をもてた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立都岡小学校＋サンハート 木炭画で似顔絵を描く１

担当アーティスト	黒田晃弘(木炭画家)
実施校	都岡小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／木炭画／6 学年 3 学級 82 名
実施日程	2013 年 11 月 19 日(火)・29 日(金)

授業のねらい

１．似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高める。また集中力を補い、情緒の安定を促進する。
２．友だちの絵を描くことで、相手の友だちそして自分自身のことを考えるきっかけを提供する。
３．創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成熟感を感じる機会を提供する。

アーティストから

今回似顔絵ワークショップをさせていただいた、都岡小学校の６年生。クラスごとの個性があり、それぞれの担任の先生との関わりの深さを感じました。子どもたち同士の関係にバランスがあり、相手をいたわる気持ちが感じられました。授業では、とても集中力があり、私の話を聞く姿勢がよく、全員のまなざしが痛く感じられるほどでした。そのため、一人ひとりが私の指導を元に、木炭の使い方など、自分らしく工夫をしていました。完成した作品も大変個性あふれる出来栄えでした。大変優秀な学年であったと思います。

先生から

黒田先生による木炭画の授業はここ数年続けて行ってきました。(プログラムができない年度も黒田先生の授業を真似て担当教諭がやっていました。)友だちの似顔絵を描くことば“相手のことを知ること”から始まるという黒田先生の考え方とそのために描く人と描かれる人が対話しながら描く方法は子どもたち同士の心と心の通い合う様子が見られ、とてもよかったなと思います。また、顔を描くときに子どもたちが迷いがちな目の書き方などのコツも教えていただき参考になりました。

コーディネーターから

６年生だったこともあり、１日目と２日目の間があいたにもかかわらず、１日目に教わったこともよく覚えていて落ち着いて絵を描いていました。全員が絵を完成することができ、私たちも嬉しく感じました。また、描くことを通じて相手を知る、自分を知ることの大切さを多少なりとも感じとってもらえたら幸いです。

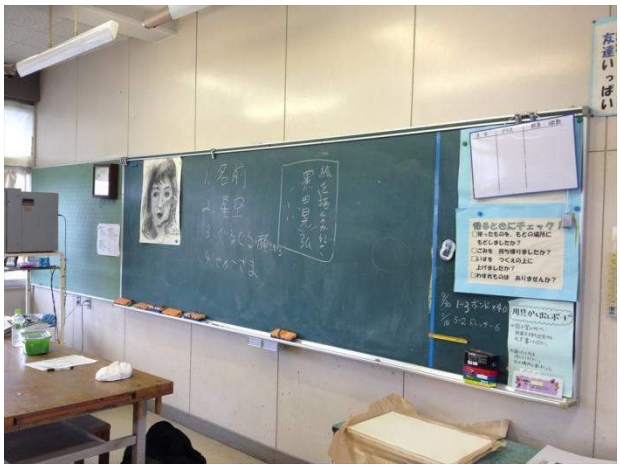
子どもたちから

友だち同士の絵を見て楽しめた。／うまくかけた。／炭で描くのが初めてで楽しかった。／説明がわかりやすかった。／普段できないことができた。／最初は楽しかったけどうまく描けなかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立二俣川小学校＋サンハート 木炭画で似顔絵を描く２

担当アーティスト	黒田晃弘(木炭画家)
実施校	二俣川小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／木炭画／4 学年 3 学級 117 名
実施日程	2013 年 10 月 22 日(火)・25 日(金)



授業のねらい

１．似顔絵を描くという表現活動を通じて、想像力や感性を高める。また集中力を補い、情緒の安定を促進する。
２．友だちの絵を描くことで、相手の友だちそして自分自身のことを考えるきっかけを提供する。
３．創作に取り組むことで、成し遂げた時の達成感、成熟感を感じる機会を提供する。

コーディネーターから

素直な子どもたちが多かったように思います。アーティストのお話にもびっくりするぐらいのリアクションを見せてくれたり、また、ふとした拍子にクラス全員での合唱が始まったりとクラスの中の結びつきの強さも感じることができました。授業の様子を見学に来られた父兄の中には「私も木炭画がやってみたい！」と仰る方もおられました。

アーティストから

今年の４年生は、とても元気が良くこちらの話にも良く反応してくれました。絵を描くことにも積極的で、２日間とも３クラス全員が時間内に絵を完成させてくれたのには驚きました。

先生から

アーティストの方の人柄がにじみ出るすてきな木炭画の作品と空気感が授業全体をつつみこみ、子どもたちを絵の世界へと引き込んでいってくださいました。木炭で何度も直せるという安心感と明暗の変化がつけやすいところなど魅力ある取り組みやすい題材が子どもたちにとてもあっていて活動しやすかった。絵を上達させたいという子の欲求にもこたえてくれるところもよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立いぶき野小学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野 ダンボールの活動

担当アーティスト	うめぐみ(ワークショップアーティスト)
実施校	いぶき野小学校(緑区)
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	体験型／造形／6 学年 4 学級 132 名
実施日程	2013 年 10 月 2 日(水)・7 日(月)

授業のねらい

一人一人の表現を大事に活動し、学校の作品展に展示する。友だちと協力しながら作品創作を行うことで達成感を味わう活動を目指す。

アーティストから

活動自体は低学年や幼児でもできる内容ですが、複雑な形を切り取るなど 6 年生ならではの活動ができました。とくに、切り取った形をモビールにする過程では、大いに迷いながら自分の納得する形を作ることができたと思います。

コーディネーターから

ダンボールを思い思いの形に切り取り、モビールにする活動は、6 年生ならではのものができたと思います。人数の多い学校でしたが、1 クラスずつ活動できたこともあり、一人一人の表現ができました。担任の先生のお話では、入学当初から「真面目でいい子の学年」で、「自分らしく」「自由に」というのは少し苦手な学年ということでしたので、自分が「いい！」と思うものを決める活動はよい選択だったと思います。

子どもたちから

協力して作品を作るのはたのしいんだなと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立伊勢山小学校＋テアトルフォンテ 読めない絵本

担当アーティスト	斎藤眞紀(美術家)
実施校	伊勢山小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	図画工作
実施概要	鑑賞型／造形／2 学年 2 学級 51 名
実施日程	2013 年 10 月 29 日(火)

授業のねらい

あえて下書きをせずに自由に紙を切り、その結果として偶然性や恣意性で出来上がってくる形の面白さや配色の面白さを感じて、創造／想像の幅を広げてもらう。多様な表現方法を学び、それを生かした作品を友だちと鑑賞することで互いの発想性を共有し合うことを感じとってほしい。

アーティストから

子どもたちがこちらの意図を良く汲み取り、その上で柔軟に自分たちの発想を『読めない絵本』の中へ取り入れ、こちらが想定していた以上の作品を作り上げていたと思います。何よりも子どもたちが楽しそうに製作をしていたことと、出来上がった自分の絵本にオリジナルのストーリーをしっかり持っていたことがとても印象的でした。一昨年から続けて実施させていただいているお陰で、伊勢山小学校との間で、造形の授業を行う際の、考え方の共有がなされつつあることも大きいかと思います。

コーディネーターから

アーティストが実施したいカリキュラムをお伝えするうえで、先生方が的確にそれを理解し、把握していただけたお陰で、アウトリーチ自体の進行がとてもスムーズになったと思います。ただ、造形美術のカリキュラムに関しては 1 日 1 クラス単位で実施することがアーティストと子どもたちへの負担が少ない、じっくりと取り組むために必要な日程が確保できることが望ましいと感じました。

先生から

紙を切り取る様子から創り出すことができるようになったと感じた。出来上がった作品を見ながら、絵を作っている子どもが見られた。

子どもたちから

みんなとみせあって楽しかった。／また家で作ってみたい。／本の作り方がわかった。／切るところなどがちょっと難しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立汐見台中学校＋横浜美術館
横浜美術館収蔵作家の彫刻制作

担当アーティスト	大島康幸(彫刻家・美術講師)
実施校	汐見台中学校(磯子区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／木彫／1 学年 4 学級 140 名
実施日程	2013 年 12 月 19 日(木)・20 日(金)

授業のねらい

現役の彫刻家で横浜美術館の収蔵作家でもある大島康幸氏を講師に迎え、中学生を対象に彫刻（木彫関係）の制作方法や、実際の道具について教えていただく。実際の体験談、作家の考え方に触れ、横浜美術館の収蔵作品や彫刻家の創作について学ぶ機会をつくります。

アーティストから

昨年に引き続き２回目の授業ということで、作品のバリエーションを多めにして鑑賞してもらいました。50 分の授業が果たして適当であったかは分かりませんが前回と同様に生徒たちの素晴らしい鑑賞態度と素直な好奇心に後押しされ、ついつい一生懸命になっている自分を感じました。２日間気持ちよく授業ができたことは汐見台中学校の島津先生、横浜美術館の応援があってのことと感謝しています。

コーディネーターから

昨年同様、生徒が直接、横浜美術館の収蔵作家である彫刻家の考え方を聞き、本格的な彫刻作品（収蔵作品とは異なり、昨年の作品とも違う作品）を学校へ搬入し、鑑賞や、デッサン、道具、制作方法等に触れることができたのは、とても有意義な時間だったと思います。担当教員の準備、学校側、他の先生方のご協力、美術館スタッフ、作家の力量が生かされて大変内容のある授業だったと思います。

先生から

汐見台中の教育課程は 3 年間のマカに「粘土で作る」「立体で作る」を 1 年。2 年で「石を彫る」と彫刻がしっかり位置づけられている。年度の授業は大島先生の授業を受けてこれから意欲的に取り組めると思われる。また、昨年大島先生の授業を受けた子たちは「彫る」ことを大変楽しみにしている。これから 3 年生に彫刻題材を位置づけ、生徒たちの力を一層伸ばしていきたい。

子どもたちから

木を彫って作ることに興味を持つことができた。／色々な作品を間近で見て、触らせてもらえた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立小田中学校＋横浜美術館
日本画の魅力

担当アーティスト	藤井聡子(日本画家)
実施校	小田小学校(金沢区)
コーディネート	横浜美術館
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／日本画／3 学年 4 学級 140 名
実施日程	2013 年 12 月 10 日(火)・11 日(水)

授業のねらい

日本画についてデモンストレーションを交えながらレクチャーを行う。伝統的な絵画技法でありながら、一般的にはあまり知られていない日本画独特の技法や材料を紹介することによりその魅力を伝える。また、今回の授業を通して日本画を身近に感じてもらい、幅広い見識から作品鑑賞ができるようつなげていくことを目的とする。横浜美術館で開催される「下村観山展」の紹介なども盛り込み美術館と学校教育との連携を探る。

アーティストから

今回、小田中学校にて日本画の授業をさせていただきました。限られた時間でしたが、日本画の説明と実演を行い、実際に絵具を溶いて筆で扱う等、絵を描く体験もしてもらいました。子どもたちは見慣れない材料や技法に戸惑いつつも、これが自国の文化であり伝統だよと語りかけると、目を見開いてうなずき、思いのほか興味を持ってくれていたように感じました。日本画は専門的な技術を習得しない限り、教育の現場で扱うことは難しい題材だと思いますが、このような機会であれば日本画の理解・普及につながるとの実感を得、改めて横浜市の本取り組みが意義深いものであると感じました。普段は専ら大学生を中心とした大人に日本画を教えることが多いのですが、兼ねてから子どもたちへの日本画教育の普及または日本画の裾野を広げるための取り組みができないものだろうかと考えていたため、有り難い機会となりました。

コーディネーターから

中学校の美術教育では、ほとんど触れることのない日本画について、実物の材料用具を前にしてのデモンストレーションは、子どもたちの日本画に対する興味を充分にひきつけるものでした。日本画の絵具を使用しての制作体験では、見聞きだけでは感じることのできない感覚やその新鮮な魅力を自身の身体を通して感じ取っていただけたようです。これも、講師の藤井氏と担当中学校の先生の熱意の賜物であると感じています。今後、今回の体験が伝統的な日本美術鑑賞の一助となることを期待します。

先生から

まず専門家に学校に来ていただき、本物を見せることの素晴らしさとその大切さを改めて実感しました。日本画の技法について学び、体験させていただく授業でしたがアーティストが、使用される本格的な道具や日本がの奥深い表現の世界に生徒の目が輝いていました。私自身、日本美術を学校で教えたり、鑑賞する上でも大変勉強になりました。横浜美術館のコーディネートも素晴らしく、本番の授業でいかに中学生にわかりやすく授業の内容を伝えられるかと、事前に打ち合わせ、準備をしていただきました。

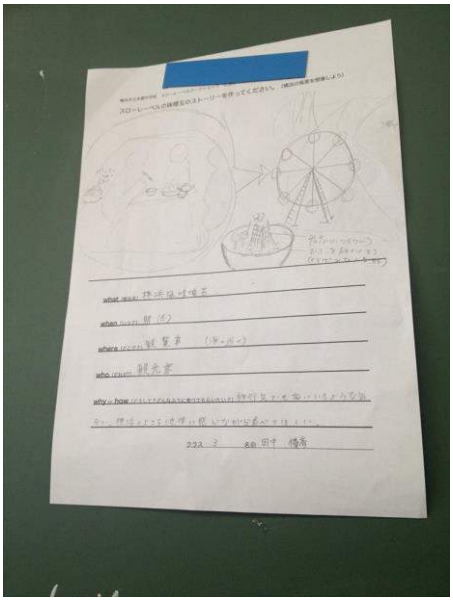
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立本郷中学校＋象の鼻テラス 社会の中のアート　SLOW LABEL 商品企画開発体験

担当アーティスト	栗栖良依(SLOW　LABEL ディレクター)、中山晴奈(フードデザイナー)
実施校	本郷中学校(栄区)
コーディネート	象の鼻テラス
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／デザイン／2 学年 5 学級 180 名
実施日程	2013 年 10 月 7 日(月)・8 日(火)

授業のねらい

中学生にとって美術やアートは、学校の教室で習うもの、美術館で見るものと捉えられがちである。それだけではなく、新しい発想を生み出すこと、ものごとを普段とは違った視点で見ることであることを、アートを社会の中に活かし、新しいものづくりの取り組みをしている「SLOW LABEL」の紹介を通して感じてもらう。また、横浜の市民・漁港・障害者施設などを巻き込んで開発していたみそ汁の企画について、商品開発を体験してもらう。



アーティストから

普段のプレゼンテーションでは 30 分以上は取り組み紹介をすることが多いので、15 分以上は聞いてくれないという先生のアドバイスに基づいて準備をした。ワークショップの中では短い時間ながらさまざまなアイディアが出た。また、終了後もワークショップのアイデアを絵に仕上げてもらえ、象の鼻テラスで行う展覧会でも展示にもっていけた。

コーディネーターから

熱意と理解のある先生で、いわゆる「美術」という枠組みにとどまらない内容だったため生徒たちに伝えづらいところもあったと思うが、こちらとアーティスト、ディレクターの意見を尊重していただいた。授業を行ったあとにも時間を取っていただき、ワークショップのアイデアを絵として完成させるところまでご尽力いただいた。

先生から

今回の学習では「社会の中のアート」というテーマを掲げて「横浜市民による横浜市民のための味噌玉」を企画する段階で生徒たちはアイデアを考えさせ、既存のアートの概念を壊し、自分にとってのアート、社会とつながるアートについて生徒が思考できる内容でした。普段の学校教育の美術とは異なった視点からのアプローチはとても素晴らしかったです。私自身も刺激を受けました。

子どもたちから

色々な面からアートを見ることができた。／アートの見方がかわった。／まだ発売されていない商品にみんなでアイデアを出し合うことが楽しかった。／みそ汁と美術という組み合わせがおもしろい。／どんな人でもいろいろなものがつくれることが分かった。／生活や社会でのアートを知った。／人のあたたかみが商品に出ていた。／自分が何かできないかと思うようになった。／食べ物や人に対する考えが変わった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立市ヶ尾中学校＋横浜市民ギャラリーあざみ野
社会に役立つアートの仕事

担当アーティスト	小林巌生(インフォメーションアーキテクト)
実施校	市ヶ尾中学校(青葉区)
コーディネート	横浜市民ギャラリーあざみ野
実施科目・教科名	美術
実施概要	鑑賞型／ウェブデザイン／3 学年 6 学級 219 名
実施日程	2014 年 2 月 21 日(金)

授業のねらい

ウェブのデザインや情報活用(ビジュアル化) の技術などの紹介を通して、子どもたち自身と社会とのつながりや、情報とのかかわり方について学ぶ。

アーティストから

ウェブの世界は、とても自由で年齢も国籍もあまり関係ない。社会がより便利で、楽しくなるコンテンツを自分で考えられるということを分かってほしい。グループワークでは、思ったより生徒の反応があった。面白い発表もあり、子どもたちの柔らかさを実感した。

コーディネーターから

一般的な「アート」とは異なる内容でしたが、今後社会で生きていく子どもたちが情報やウェブとどのように関わっていくのか意識するきっかけにはなったと思います。個人と情報との距離がどんどん近くなる社会では、個人が自由に情報をデザインし発信できるという点はアートの表現ととても近いものを感じました。その一方、プライバシーの侵害や情報によって人や自分を傷つけることもあるということが、子どもたちには伝わったらよいです。

先生から

WEB 関係は生徒にも身近な事柄なので興味関心を高くもって取り組んでいる姿が見られ、こういうことにも私自身がもっと学んでついていかないといけないと思いました。アプリを考える WS では生徒のイメージ力を十分に引き出すことができていました。普段の授業の中でも生徒が自由に発言し、お互いに刺激をうけられるような仕組みを考えていかなきゃいけないと思い、自分の今までの授業の仕方をふりかえるきっかけになりました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「美術」

横浜市立中村特別支援学校＋ART LAB OVA
なかむらの特別なアートなビデオをつくる

担当アーティスト	大森彩子（ダンサー）、村井啓哲（美術家）、来島友幸（美術家）、中村剛彦（詩人） 今井紀彰（アーティスト・写真家）、スズキクリ（音楽家）、公門美佳(ダンサー)、ART LAB OVA
実施校	中村特別支援学校(南区)
コーディネート	ART LAB OVA
実施科目・教科名	美術
実施概要	体験型／美術／小・中・高 68 名
実施日程	2014 年 1 月 27 日(月)～ 29 日(水)

授業のねらい

外出など、さまざまな経験をしたり、いろいろな人に出会ったりする機会の少ない子どもたちなので、ふだん学校では体験できないことを体験させたい。特に五感に訴えるような試みを考える。今年は特に、制作の緊張感を味わう。

アーティストから

ダンスを担当した。リアルタイムで映し出される映像、音の中で踊る。子どもや先生が傍観者にならないように、「全員が出演者」、「本番の緊張感」を共通の意識とした。子どもたちは光や音、ダンサーの動きに反応して、手を伸ばしたり、体をゆすったり、また大きな動きがなくても、その空間に存在することを楽しんでいるようで、普段はじっとしていられない子が感覚を研ぎ澄ませていたことに先生も驚いていた。【公門美佳】

ダンスの威力は感覚神経への刺激に加え、自らの心身を解放できることである。今回ダンス担当として「素材としての身体」「身体同士の交流」「非日常の空間」を意識した。子どもたちは目や存在感だけで生き生きとした感情を出したり、動く身体の上で居心地良さそうにしたり、激しく身体を揺すったり、持ち上げられ回転することに浸るなどの反応がみられ、各人の心や個性の豊かさを探求できるアートならではの時間となった。【大森彩子】

サウンドを担当した。２つの調理用ボールを用意し、一方には水その他、他方にはビー玉などを入れて先生とこどもたちに演奏をしてもらった。我々はその音を加工変調し４つのスピーカーで会場に流したのだが、そのうち２つはボディソニック・ユニットを使い、直接手を触れて音の振動が楽しめるようにした。演奏を先生と子ども側に委ねたことで、イベントの受動的な観衆ではなく積極的主体として関与してくれた。【村井啓哲】

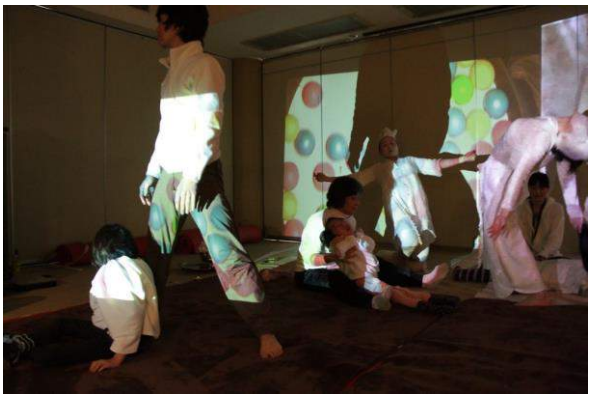
ダンス映像作品を創るという目的を設けることで、空間に緊張感と集中力を高めることができた。その中で身体、視覚、音が相互に関係していく感覚を個々のスタンスで体験していた。空間にいる人全員が制作者とすることで、子どもたちとの関係の発見にもつながった。【スズキクリ】

映像を担当した。初日は子どもも先生も、受動的に用意された音、アート、ダンスそれぞれの「作品体験」をしていたに過ぎなかったが、最終日ではアーティストらとともに一つのアート空間を主体的に作り上げることに成功した。一人一人の身体がカメラに「パフォーマー」として映り込み、映像は単なる「記録」を超えて「アートビデオ」になった。【中村剛彦】

今回、映像を担当しました。映像は記録でもあるのですが、ダンス・アート・サウンドに触れ合う子どもたち、先生方の反応を含め、会場全体を通したひとつの映像作品になるようこころがけました。あるがままの反応をあるがままに撮るようにするに　は、やはり仕掛け仕組みが必要で時間を要するものです。今回の試みを通じて、いわゆるエンターテイメント、子どもたちにただ喜んでもらう以上の展開ができたと思います。【来島友幸】

コーディネーターから

この学校に関わるのが３年度目ということで、今年は、「体験」することから、「制作」することへと内容を大きく変えた。当初は、それでも、どうしても受身になってしまう状態に苦慮したが、渉外担当の先生が、わたしたちの活動をよく理解して、補足してくださったり、相談にのってくださったことで、少しずつ緊張感のある時間と空間になっていった。今回の試みを通じて、改めて特別支援学校での活動の可能性を強く感じています。



先生から

子どもたちが小さな音、弱い光などの微細な変化や音の増幅・変調といった音響空間の中で、感覚をひらき、体感しながら興味関心を拡げていきました。またダンスのプログラムによって子どもたちがダンサーの存在を音や気配でたどりながら空間の中で自由に意識を巡らせ、新しい身体感覚、新しいコミュニケーションの形を感じ取っていました。

伝統芸能分野の取り組み

古くから伝わる楽器が織りなす音楽や、歴史を体現している
伝統芸能特有のしぐさや身体表現、話芸の鑑賞や体験など、
ふだん触れる機会の少ない伝統芸能の世界を感じてみます。
知らない世界と出会う楽しさがひろがります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立岸谷小学校＋久良岐能舞台
狂言を体験しよう！１

担当アーティスト	善竹富太郎(大蔵流狂言師)、前田侑太郎(大蔵流狂言師)
実施校	岸谷小学校(鶴見区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 2 学級 52 名
実施日程	2013 年 12 月 2 日(月)

授業のねらい

実際の狂言を鑑賞し、その動きに触れ、伝統芸能を身近に感じる。

アーティストから

思ったより騒がしくなく、むしろ少し内弁慶な感じがしました。放送委員の子が後で控室を訪ねてきてくれたり、興味を持ってくれたことは良かったと思いました。

コーディネーターから

子どもたちの印象としては、アーティストも述べておりますが、少しシャイな面を感じずには居られませんでした。しかし、好奇心は人一倍あるようで、「おっかなびっくり」な感じでとてもかわいらしい子どもたちでした。もっと前に出てきてくれたら、うれしかったなと思います。また、機会があればお邪魔したい学校です。

先生から

狂言に関する知識が私自身にあまりなく、子どもとともに楽しませていただきました。国語の学習ですでに学んでいたことで子どもたちの理解は深まりました。学習内容と入れ替えてプログラムに合わせてもよかったとの話があがりました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浦島小学校＋よこはま音楽広場実行員会
箏のしらべ

担当アーティスト	吉原佐知子(箏奏者)
実施校	浦島小学校(神奈川区)
コーディネート	よこはま音楽広場実行委員会
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 3 学級 84 名
実施日程	2013 年 7 月 10 日(水)・11 日(木)

授業のねらい

昨年度の邦楽演奏と鑑賞体験が子どもたちにとって大きな学びとなったため、今年度も実施したい。学校に箏があるため、この機会を活用し、日本の伝統楽器に触れることで西洋とは異なる楽器の特徴を学んでもらいたい。また、既存の曲を演奏するだけでなく、自分らしい表現の在り方についても探求できるといい。

アーティストから

授業内容は、１日目は基本奏法を主目的とし、日本古謡の「さくら」のメロディの練習をしました。２日目はさくらのメロディの復習の後、メロディを弾かない子どもたちが１弦から５弦までを使って独自の伴奏を自由に作ってもらい、メロディと合わせてみました。普通は 4 コマ計画くらいでやる内容なのですが、サポートの方や学校の先生方がたくさん助けてくださり、また、子どももとても意欲的に取り組んでくれて、予想以上の成果が得られました。箏のメロディだけでなく、簡単なパターンを合わせることで、普段楽器が苦手な子どももパターンづくりでは楽しく活動してくれたと思います。今回、箏を体験した皆様が「箏は楽しい、またやりたい！」と思っていただければとても嬉しいです。

コーディネーターから

今回で２回目の琴体験授業となったが、学校に箏が８面あることと、外部から８面の箏をレンタルしたことで、生徒２人で１面を使用できたこと、練習も十分に出来たことで、演奏達成度にも影響していたと思われる。また、主旋律に対して伴奏を自由につけることについては､伸び伸びと表現する生徒もいれば、自由な表現に対して具体的な方法が分からずに戸惑う子どもたちもいた。各担任が熱心に箏の練習に取り組んでいた姿は子どもたちにもよいモデリングとなり、印象的だった。

先生から

今年度、音楽専科になったばかりで自分自身が箏に触れることが初めてでした｡今回アーティストの方に直接教えていただき、教師も一緒に体験させていただくことで、改めて音楽の楽しさや箏という楽器、歴史について学ぶことができました。子どもたちは初めて目の前にする箏やアーティストの方に対し、真剣なまなざしで見つめ、音色に耳を傾け、音楽を創造し、心から楽しんでいました。こちらから簡単に指導し、体験させることはできますが、生の演奏を聴かせることは難しいことが多いため､このようなプログラムは今後も続けてほしいと思いました。

子どもたちから

初めての箏体験で普段では味わえない楽しさを体験できた。／最初は難しかったけれど、だんだんできるようになり楽しかった。／他の曲も弾いてみたい。／音がきれいだった。／たくさんの奏法でアレンジすることが楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立浅間台小学校＋横浜市芸術文化振興財団 和太鼓の魅力

担当アーティスト	岡村竜司(和太鼓奏者)、佐久間崇(和太鼓奏者)、上野由人(和太鼓奏者)
実施校	浅間台小学校(西区)
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	総合
実施概要	鑑賞型／和太鼓／1～3 学年 6 学級 153 名
実施日程	2013 年 12 月 18 日（水）

授業のねらい

和太鼓の演奏を通じて、感受性を磨き創造力・表現の幅を広げる。

アーティストから

今回の内容は、和太鼓演奏と和太鼓の説明（太鼓の種類、材質、お祭りで演奏されている奏法など）子どもたちの代表による和太鼓体験を行いました。また途中に、手拍子や足拍子での遊びを取り入れ、太鼓の音に合わせて全員参加で音を楽しみました。子どもたちの反応や表情から和太鼓への興味を窺い知ることが出来、これを機に和太鼓に触れる機会が増えれば幸いです。

コーディネーターから

ご近所のお祭りで和太鼓を見たり聞いたりする子どもたちが多いという先生の言葉通り、演奏者の「和太鼓を見たことがある人！」という質問にほとんどの子どもが手をあげていました。そのため、子どもたちは最初から最後まで興味深々に演奏を聴いている様子でした。体に振動が伝わるほど迫力のある和太鼓演奏に体を揺らしたり、手を叩いたり、また全員でリズム遊びを体験したり、まさに体全体で和太鼓を感じる 1 時間となりました。

先生から

太鼓の演奏に合わせて、身体でリズムをとっていた。太鼓の迫力に微動だにせず、聞き入っていた。地域のお囃子に参加している子どもが多く、興味を持って参加できた。本校の特色にあったプログラムであった。途中で手足を使ってリズムあそびをしたことにより、飽きずに集中して鑑賞できた。参加型のプログラムで子どもたちの惹きつけ方が上手であった。

子どもたちから

心を合わせることが大切だと分かった。／太鼓の種類やたたき方が分かった。／お囃子に活かせる。／将来の夢が増えた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立本牧南小学校＋Offsite Dance Project 狂言の魅力にせまる

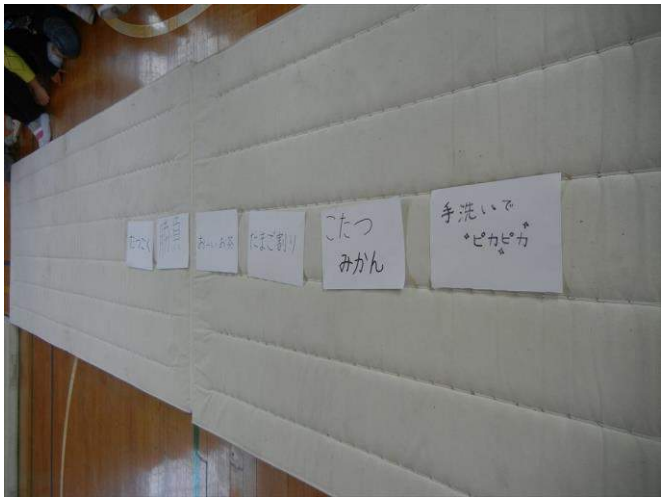
担当アーティスト	川野誠一(大蔵流狂言方)
実施校	本牧南小学校(中区)
コーディネート	NPO 法人 Offsite Dance Project
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 2 学級 60 名
実施日程	2013 年 12 月 10 日(火)

授業のねらい

「狂言を巡る二つのカラダ」をテーマに、前半は国語の教科書で取り上げられている狂言「柿山伏」の鑑賞・体験。後半は現代生活における型を発見し、それをいかに変容できるかを考えて形にしてみる。日頃接する機会の少ない狂言を通して、現代につながる古典芸能のすばらしさと可能性をともに体験する機会にする。

アーティストから

学ぶは、真似ぶ。先ずは狂言「柿山伏」 を見てもらい、狂言ある「型」を体験してもらうところからスタートしました。身体の構え、発声、感情表現、動作表現、動物の鳴き真似など、短い時間で盛りだくさんの体験になりましたが、子どもたちの興味がだんだんと高まって来るのが分かり、集中も増して来たように感じました。古典の型を体験したところで、現代の生活の中にある行動を、オリジナルの「型」にしょうと創作を始めましたが、蛇口をひねり手を洗う、勝負をつける、炬燵でみかんを争奪、など子どもらしい遊び心ある型の完成にこちらが驚かされました。またオノマトペ（擬音）の使い方も上手で、動作音（蛇口をキュッキュッとひねる、など）だけでなく、イメージ音（手が清潔になりキラキラ、など）まで、擬音化して楽しんでいました。最終的には、それぞれグループに分かれ、集団で型を発表してもらいましたが、これが創作ダンスのようでまた面白かったです。「型」を複数同時に行うことで見えて来る、また違った「型」の味わいがあることをこちらが気付かされました。「型」の定義として「たくさんの人が見てそれと分かる動作」と始めましたが、子どもたちは良く理解をして創作を楽しんでくれたと思います。



コーディネーターから

古典芸能に対する学校の取り組みは大変熱心で、教科書のみならず、ビデオを使用した独自の学習なども行われている中での狂言の鑑賞事業。当初２時間枠が、現代にも繋がる体験にしたいという講師の提案で、３時間枠での実施となりました。子どもたちは熱心に取り組み、古典の型が普段の生活からも見つけ出し、それらを用いて創造するという新たな試みにも積極的に取り組んでいました。古典芸能を生き生きとした日常の中にいかに浸透させていくか、講師と学校・コーディネーターが一緒になって授業づくりを行った貴重な機会でした。最後に、講師が語った「型」とは他者に想いを伝える身体表現であるとの言葉は、子どもたちにもしっかりと届いたと感じました。

先生から

授業で取り上げた柿山伏を実際に目の前で演じてもらったことで狂言がとても身近に感じるようになりました。

子どもたちから

グループにわかれて自分たちで動作を考えることがおもしろかった。／最初は照れ臭かったけど、誰にでもできるから「楽しい」と思った。／私たちも次の世代に日本の歴史を伝えていかなくてはとわかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立藤の木小学校＋横浜市芸術文化振興財団
箏の体験～邦楽器の魅力を感じる～

担当アーティスト	４plus（佐藤亜美、木村麻耶、日原暢子、町田光）
実施校	藤の木小学校(南区)
コーディネート	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 4 学級 130 名
実施日程	2013 年 10 月 25 日（金）・30 日（水）

授業のねらい

日本の伝統楽器である箏の魅力を感じることで、芸術文化を愛する豊かな心が芽生える。

アーティストから

1 クラス 28 人に対して箏が 7 面という状況で、楽器に向かわない時間のある子どもたちが出てしまうことが心配だったが、短時間ではあったが本気で対峙し、その結果、予想以上に積極的に箏に取り組む姿勢がみられ、グループ内で助け合う姿があり、その空気感から今回のプログラムを通して音楽だけでなく‘何か’を感じてくれたのではないかと思った。ミニコンサートでも、キラキラ輝く子どもたちの真剣な眼差しが印象に残っている。伝える・表現する者として、発する音の、立ち居振る舞いの重要性・責任を強く感じた。世の中がどんどん便利になっていく中、失われたものも多いように感じる。今回にとどまることなく、もっと多くの子どもたちに箏を通し、少しでも音楽や日本人の重んじてきた文化、姿勢を伝えなければと強く感じた。

コーディネーターから

箏に触れたことのない子どもたちが多い中、最初に箏に触れる際はおっかなびっくりだった子どもたちが、アーティストのレクチャーや声かけで段々自身を持って音を出せるようになりました。体験で取り扱った曲は「さくらさくら」。それぞれの子どもたちが必ず１回はさくらさくらの曲を自分で演奏し、最後の音を弾き終えた時それまで緊張していた表情が笑顔に変わりました。アーティストのアドバイスで、より力強く通る音色を奏でられるよう工夫する様子もありました。

先生から

教えてくださった方々の演奏がとても素晴らしく、いつもならそんなに集中してない子たちでも目の前で演奏していただいたり知っている曲なども耳にして言葉を失い、聴き入っていました。皆喜んで「感動した！」と言ってました。音楽科の「我が国や諸外国の音楽の特徴を感じ取ろう」の主題で、今回の箏の演奏体験と鑑賞をお願いしましたが、アーティストによる素晴らしい演奏と細かいご指導で本当によかったと思っています。コーディネーターの方々も、子どもの人数にあわせて琴をたくさん用意してくださったり、毛氈を持ってきていただいて座奏をさせていただいたり、学校だけではできない指導を子どもたちに提供してくださいました。

子どもたちから

あまり身近にないことをすることができてよかった。／箏の音色がとても美しかった／４プラスの方々の演奏の中で、特に 17 弦の響く低い音が印象的でした。／感動しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立今井小学校＋岩間市民プラザ 邦楽の魅力～和楽器のひびき～

担当アーティスト	米澤浩（尺八）、熊沢栄利子（箏）
実施校	今井小学校(保土ヶ谷区)
コーディネート	岩間町市民プラザ
実施科目・教科名	総合
実施概要	鑑賞型／邦楽／6 学年 2 学級 59 名
実施日程	2013 年 12 月 11 日（水）

授業のねらい

子どもたちはお互いに自分の考えをしっかりと持ってはいるが、それを自分の言葉で相手に的確に伝えることがなかなか出来ていない。学校でも研究課題として取り組んではいるが、各教科の中でのコミュニケーション技術を持たせることが難しく、本校の課題である。相手に共感し、協調性を持って行動活動できる子どもも多いが、相手がそう考えて行動していることに気づかず、その行為や活動を無視してしまう子どもも散見する。感受性豊かに他人に共感できる子どもにしていきたい。

アーティストから

子どもたちは、とても静かに尺八と箏の音色に耳を傾けてくれました。箏の指使いを見たい時には、後列に座っている子どもたちは、進んで膝立ちになるなど、積極的に鑑賞してくれました。教育プログラムは４時限目に行い、その後給食を一緒にいただきました。子どもが音楽室から、自分たちの教室へと迎えに来てくれました。一緒に楽しく食べることができました。学校の先生方も、大変協力的で円滑にプログラムを行うことが出来ました。

コーディネーターから

岩間市民プラザでは初の取組であり、プラットフォーム事務局作成の手引きを参考に慎重に準備しました。クラス担任ではなく副校長先生が窓口で連絡は取り易かったです。プリントを作り、出演者と打合せ、その後、学校と打合せをしました。音楽室は広く、子どもたちも集中して鑑賞しました。担任の先生方の事前指導があったようです。小規模学校で、6 年生 59 人、日頃の指導もよく行き届いているようでした。校長先生にも授業を最初から最後まで熱心に聞いていただきました。アーティストは､学校プログラムの経験が何回かあり､教材の用意もあり、円滑に実施されました。ＪＲ東戸塚駅からバス約 10 分と、アクセスが余り良くありませんが、学校側の道案内もあり、当日来訪に支障ありませんでした。

先生から

音楽科の学習指導で鑑賞の際にリアリティをもって聴かせることができるいい機会になりました。お話を伺って箏という楽器を成立させるために長い年月とたくさんの苦労や努力があることを知りました。何事も人に訴えかけるものをつくるには簡単にはできないことなのだとわかりました。また、その楽器を世に知らしめるための曲があることを知り、曲の目的や意味を考えながら味わうという視点が自分の中に定まりました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立藤塚小学校＋久良岐能舞台
狂言を体験しよう！２

担当アーティスト	善竹富太郎(大蔵流狂言師)、前田侑太郎(大蔵流狂言師)
実施校	藤塚小学校(保土ヶ谷区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 2 学級 70 名
実施日程	2013 年 10 月 7 日(月)

授業のねらい

鑑賞型だが体験できる要素を多めにしてほしい。子どもたちの伝統文化へのイメージや敷居の高さを下げて親しみをもてるようにする。

アーティストから

今回の取り組みをきっかけに少しでも日本の伝統文化の世界に敷居の高さを感じずに気軽に関心を持ってもらえるようになれば…と感じました。

コーディネーターから

初めは固くてノリもあまり良くなかったのが、狂言師の話術でみるみる解けて行き、ワークショップ＆トークショーでは終了予定が 15 分近く遅れてしまいました。「給食を一緒に」というリクエストで狂言師は各クラスへ行ったのですが、狂言師を呼びに来てくれた子どもたちはまるで近所のお兄さんに接するように「とみちゃ～ん、好きなアニメ何?」と気軽に声をかけてくれていました。子供達、先生方、アーティスト、確実にこの 1 時間と少しは win-win-win の関係が構築できたと感じました。

先生から

子どもたちに本物に出会わせることの大切さを改めて感じました。私自身、狂言に対してとても興味がわきました。

子どもたちから

狂言は見た目より大変なことが体験してよく分かった。／体験が楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立小机小学校＋荒馬座 中山太鼓を叩こう

担当アーティスト	民族歌舞団荒馬座
実施校	小机小学校(港北区)
コーディネート	民族歌舞団荒馬座
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／和太鼓／5 学年 3 学級 114 名
実施日程	2013 年 10 月 24 日(木)29(月)

授業のねらい

日頃から元気な子どもたちが、身体をいっぱい動かしてみんなで表現する楽しさを体験させたい。

アーティストから

元気な子どもたちで、みな口伝を言いながら元気に跳ねて思い切り太鼓を叩いていた。身体の動かし方や口伝で、体に馴染みにくい部分もあったようだが、クラス毎や学年全体で大きな輪を作って「まわり打ち」を行ない、子どもたちは汗をかきながら大いに楽しんで発散していたり、講師の叩く姿をまねて勢いよく叩こうとする男の子がいたりと中山太鼓を通して太鼓の楽しさや表現することの楽しさを感じてもらえたのではないかと思う。

コーディネーターから

中山太鼓は大きな輪をつくって叩く太鼓なので、クラスの一体感や学年全体の一体感が感じられる太鼓としてとても良かった。若干、体の動きと口伝が合わさったときの混乱はあったようでしたが、細かいことにとらわれず思いっきり叩くことと小太鼓や篠笛に体と気持ちを乗せて太鼓を打ち込む楽しさを感じていたようだった。

先生から

本物の迫力を感じました。間近で見ることができた演奏でもそう感じましたが、給食や休憩中での子どもたちとの関わりの中でも感じることができました。子どもたちが外部の大人、それも一生懸命取り組める活動を見いだしている大人と接する機会をもつことの大切さを実感しました。和太鼓の演奏についても、ただ叩くだけでなく、踊りを交えて取り組めるものだったので、活動量も十分でした。

子どもたちから

ゲームとは違っておもしろくてリズムも楽しかった。／踊りながらたたくのが楽しかった。／太鼓の音が気持ちよかった。／また受けて続きをやりたい。／給食を一緒に食べられてうれしかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立新吉田第二小学校＋Media Global 日本の素敵な音楽

担当アーティスト	村山二朗グループ（村山二朗・長谷川友二・市川義久／篠笛）
実施校	新吉田第二小学校(港北区)
コーディネート	企業組合 Media Global
実施科目・教科名	音楽
実施概要	鑑賞型／邦楽／6 学年 2 学級 57 名
実施日程	2014 年 1 月 24 日(金)

授業のねらい

本物の楽器に触れることで子どもたちの感性を育てたい。

アーティストから

私自身、子ども時分に見たプロ演奏家による学校公演に感銘を受け現在の職業としている身としては子どもの間近に接することは大切な時間となりました。校長先生、教頭先生、担当の音楽教諭の皆さんは誠意あふれる応対をしてくださいました。時間配分に留意してプログラムを用意しましたので、もう少し児童のみなさんと触れ合う時間が多ければ、よかったと思いました。時限毎にチャイムを鳴らさない方針による影響ではと考えさせられました。

コーディネーターから

邦楽で子どもたちに本物に触れてほしいという先生方のご希望で、篠笛グループの演奏を鑑賞のあと午後体験を組みました。聴くだけでなく体験することで少しだけ邦楽を身近に感じてもらえたと思います。先生方から全校で鑑賞したかったというコメントをいただきました。

先生から

5 年生の教科書教材として篠笛が扱われており、進学する中学校の音楽科でも個人購入をして学習することになっている。そのため初めての楽器との出会いがこのプログラムのように魅了的なアーティストの方々の演奏となって本当によかったと思う。ただ 6 年生だけで終わらせるよりも中規模、小規模校であれば 5,6 年あるいは全校での鑑賞の時間にしてもよかったと思う。せっかくの機会なのでできるだけたくさんの児童に聴かせたかったです。

子どもたちから

知っている曲やオリジナル曲などすばらしい演奏を聴いて心も体も元気になった。／実際に楽器の演奏を体験することができたから。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立東品濃小学校＋さくらプラザ 茂山狂言会～「柿山伏」「附子」～

担当アーティスト	茂山茂(大蔵流狂言師)、茂山逸平(大蔵流狂言師)、松本薫(大蔵流狂言師)、山下守之(大蔵流狂言師)
実施校	東品濃小学校（戸塚区）
コーディネート	戸塚区民文化センターさくらプラザ
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 88 名
実施日程	2013 年 12 月 12 日(木)

授業のねらい

今年度より、国語の教材にもなっている「柿山伏」を鑑賞し、古典芸能についての内容理解をより深めたい。なかなか見に行く機会が少ない狂言を、学校でありながら「本物」の舞台として子どもたちへ届ける。

アーティストから

12 月の午前中、冷えきった体育館を会場としての学校行事で、どれほどリラックスして見ていただけるか。多少の不安を抱えながらの訪問でしたが、その不安は見事に裏切られました。冒頭の解説中、こちらからの問いかけに対し初めのうちは小さかった子どもの声も、次第に活気を帯び、狂言の「笑い」の練習では溢れるほどの笑い声になりました。先生方の表情が終始穏やかで、率先して声を出していただけたことが、子どもたちの伸びやかな姿勢を支えて下さったのだと感謝しています。

コーディネーターから

先生からのお話で文化芸術に関心の高い家庭が多い地域であると伺っていたが当日は保護者の参加も多く、150 名近い観客になった。子どもたちは真面目で大人しい子が多い学年のようで、導入は難しかったが公演が始まると自然と笑い声が聞こえた。当代一流の狂言師たちによる本物の狂言とレクチャーにより、教材の理解と伝統芸能への関心をより深めることが出来た。

先生から

本物の狂言に生でふれることができ、とても感動しました。子どもたちも感激していてあとまで狂言の言い回しや口真似をしている姿がありました。説明、体験すべて適当な時間配分であっという間に過ぎました。DVD などより目の前で鑑賞することの素晴らしさを実感しました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立日下小学校＋久良岐能舞台 狂言を体験しよう！３

担当アーティスト	善竹富太郎(大蔵流狂言師)、前田侑太郎(大蔵流狂言師)
実施校	日下小学校(港南区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／6 学年 3 学級 88 名
実施日程	2013 年 10 月 21 日(月)

授業のねらい

実際の狂言を鑑賞し、その動きに触れ、伝統芸能を身近に感じる。

アーティストから

当初はおとなしかった子どもたちがどんどん前に出て来るようになった。本当はもっとコミュニケーションの時間を取りたかったが、1 時間では少し物足りなかったように思う。だが、その分、1 時間に詰め込めるモノは全て入れた。今日の日が子供達の良い思い出になると良い。と思った。

コーディネーターから

昨年、学校の周年記念行事で能に触れた子どもたちとのことなので、これで、能と狂言、双方に触れた子たちとなる。先生方も仕事以上に心からこの空間を楽しんでくださっていた様子だったので、良かったと思いました。

先生から

とてもとても楽しかったです。アーティストの方の熱心さや子どもたちへの伝え方がとても精錬されていてわかりやすくリズムよく子どもたちの関心をひきつけていてすごかったです。古典芸能といえども今を生きる人たちと何ら変わらない“人の性”みたいなおもしろさが伝わり子ども達も大満足でした。

子どもたちから

教科書にも書いてある文字が生き生きと動きになってわかりやすかった。／実際のものを見て、狂言に興味を持てた。／「百聞は一見に如かず」だと思った。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立万騎が原小学校＋サンハート
落語で笑おう！

担当アーティスト	三笑亭 可女次(落語家)、三遊亭遊かり(落語家)
実施校	万騎が原小学校(旭区)
コーディネート	旭区民文化センターサンハート
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／落語／4 学年 2 学級 48 名
実施日程	2013 年 11 月 6 日(水)

授業のねらい

普段耳にすることの少ない落語を生で鑑賞し、日本の伝統芸能に対する知識を深める。落語観賞と同時に、高座体験や落語のネタの練習等も行い、伝統芸能を身近に感じ、その面白さを発見させる。

アーティストから

万騎が原小学校のみなさん。自然が近くにあるからなのか、とても素直な子ばかりで、しっかり話も聞いてくれ、逆にこちらが助けられました。（三笑亭可女次）
万騎が原小学校の皆さんは、元気に笑ってくれて喋っていてとても楽しかったです。（三遊亭遊かり）

コーディネーターから

万騎が原小学校の子どもたちは、とても素直で明るく元気の良かったです。お話も良く聞き、高座体験などにもとても積極的に参加して小噺を披露するなど、出演者を含めこちらも大いに楽しませていただきました。また、地域の方々の支援を受けて米作り体験を全学年で取り組まれているなどのお話も伺うことができ、貴重な時間となりました。

先生から

落語家の話に真剣に耳を傾けていました。話のオチの場面では椅子から転げ落ちて笑う子どもが何人かいました。いろいろと想像力を働かせていることがよくわかりました。また実際に子どもが落語にチャレンジする時間もあり、表現力を磨けたと思います。

子どもたちから

「じゅげむ」の意味がわかってうれしい。／ネタがおもしろかった。／落語の体験ができてよかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立上山小学校＋荒馬座
和太鼓を体験しよう

担当アーティスト	民族歌舞団 荒馬座
実施校	上山小学校(緑区)
コーディネート	民族歌舞団 荒馬座
実施科目・教科名	総合
実施概要	体験型／和太鼓／3・4 学年 4 学級 132 名
実施日程	2013 年 12 月 4 日(水)・13 日(金)

授業のねらい

体を動かしたり、楽しいことが好きな子どもたちが和太鼓体験を通して思いっきり発散し、友だちとの共通体験でお互いを認め合ったり、表現することの楽しさを体験する。

アーティストから

元気な子どもたちで、体をいっぱい動かしながら声も出し一生懸命取り組んでくれた。ペアで叩く部分とグループで構成をつけて動く部分がある中で、それぞれ工夫しながらどうやったらうまくいくかを考えながら能動的に参加している様子がみられたのが嬉しかった。最後に見合う場面では緊張感もありながらみんなで最後まで叩ききる意気込みが感じられとても良い時間になった。

コーディネーターから

2 日目を 2 学年合同の練習にし、お互いを見合う時間を作れたことで緊張しながらも笑顔で一生懸命叩く姿を共有できたことが良かった。支援学級の子どもたちも加わってフォロー仕合ながら叩く姿にも心を打たれた。両日とも学校担当者から事前の準備・確認の連絡をいただき、滞りなく当日を迎えることができた。

先生から

思い切り太鼓を叩く姿を見て、子どもたちはいろんな表現をしていいということに気づいていました。また地域のお祭りに太鼓がよくあるので、親しみはもっていたと思います。苗や太鼓の音色が心地よかったと思います。

子どもたちから

太鼓のたたき方を教えてくれたり、荒馬座の人たちが演奏してくれてとてもいい経験になった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立十日市場小学校＋みどりアートパーク「春の海」を弾こう！箏の魅力を体験

担当アーティスト	外山香(箏演奏家)
実施校	十日市場小学校(緑区)
コーディネート	緑区民文化センターみどりアートパーク
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／箏／6 学年 4 学級 127 名
実施日程	2013 年 12 月 10 日(火)・11 日(水)

授業のねらい

教科書に掲載している「春の海」を教材に、日本に昔からある楽器を、実際に触れて演奏することによって、身近に感じ、伝統芸能や音楽に親しむ。

アーティストから

今回の２日間の体験授業を通して､子どもたち(今回は６年生)の無限の可能性を感じることが出来ました。今まで一度も楽器に触れたことのない子どもたちが、限られた時間内で集中し、楽しみながら「さくらさくら」を習得し合奏できるようになりました。グローバル社会において今後世界に羽ばたく子どもたちが、日本人として、箏だけでなく自国の文化を世界に紹介できるように身に付けて欲しいと思います。

コーディネーターから

五線譜でなく琴譜で教わる「さくらさくら」を 90 分でほぼ全員の子どもが習得し驚きました。２～３人で１つの箏体験を行いましたが、体験している生徒の夢中さもさることながら、待機している子どもも積極的に教えたり、楽譜を読み上げたり、素直で協力的な十日市場小学校の子どもたちの特徴とも相成り、吸収率の高い授業だったと感じました。

先生から

視聴覚室に 13 面の箏を用意していただき､2,3 人の児童で１面の箏を使うことができ､たっぷりと体験することができました。最初に「春の海」を箏と尺八で聴き、その後の現代の箏曲も聴かせていただきました。次に箏についての説明を聞いた後、みんなで交代しながら「さくらさくら」を演奏することができました。１クラス２時間ずつで行ったので、達成感をもつことができた子どもも多くいたように感じました。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立いちょう小学校＋久良岐能舞台 狂言を体験しよう！４

担当アーティスト	善竹富太郎(大蔵流狂言師)、前田侑太郎(大蔵流狂言師)
実施校	いちょう小学校(泉区)
コーディネート	久良岐能舞台
実施科目・教科名	国語
実施概要	鑑賞型／狂言／全学年 6 学級 165 名
実施日程	2013 年 11 月 11 日(月)

授業のねらい

外国籍等の児童が多いのでＭＣ等は短めのセンテンスで平易な言葉を使用して集中を切らさず楽しめるようにする。低学年の子どもの為に用語集の作成をする。ワークショップ要素を多めにすることでより親しんでもらう。

アーティストから

子どもたちの反応と元気の良さは凄かったと思う。全校生徒参加ということで多様な世代の子供達と一度に対峙するというのは、非常に刺激的であった。

コーディネーターから

今年度で閉校になる学校。でも、お掃除が行き届いていて、「ここはきちんと愛されているんだな」と感じる場所での実施でした。多文化共生と言う言葉がとても身近にある学校だが、それはこの場では特別なことでなく、いつものこと。だから、子どもたちはこれまで行ってきた学校のどんな子たちよりも素直に自分の思いを表に出すことを知っているように思いました。小規模校だからこその経験できることがこの小学校にたくさんあるように、実施を通して感じました。

先生から

国語の学習で古典や伝統芸能に親しむという内容が取り入れられているが、正直自分自身、敷居が高く感じていた。しかし、善竹先生のわかりやすい説明と親しみやすいお人柄によって、とても楽しく鑑賞することができた。また、教科書に載っている方もビデオの方も年配の方だったので、思っていたよりもお若いアーティストがいらしてくださって少し身近に感じることができるようになりました。

子どもたちから

動物の鳴き声やものまねがおもしろかった。／声の出し方や姿勢ができるようになった

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立中田小学校＋テアトルフォンテ「いろはに邦楽®」

担当アーティスト	渡辺峨山(邦楽演奏家)、大久保智子(邦楽演奏家)、渡部祐子(邦楽演奏家)
実施校	中田小学校(泉区)
コーディネート	泉区民文化センターテアトルフォンテ
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年 4 学級 120 名
実施日程	2013 年 9 月 19 日(木)・20 日(金)

授業のねらい

邦楽に用いられる楽器を目にすることはあっても、実際にその音を聞いたり演奏する機会は少ない。そういった楽器の歴史・演奏法を学び、体験することによって、日本の音楽・楽器に興味を持つ土台を提供する。

アーティストから

「いろはに邦楽」をはじめて、今年で 17 年目になります。その間、出身大学のある愛知県を中心に活動してきましたが、この度初めて横浜で実施させていただきました。今回特に感じたことは、中田小が古くからの住宅地にあるのだろうということでした。おじいちゃんが尺八を吹いているとか、おばあちゃんが三味線を弾いているなど、日頃から邦楽器に親しんでいる子どもたちも多く見受けられました。子どもたちの目が徐々に邦楽器に対して興味を持ちはじめる姿、最後の体験の時間では、興味を持って一心に楽器に取り組む姿、とても頼もしく感じられました。これを機に日本の楽器に興味を持っていただき、日本の文化もしっかり理解できる人に育っていただければと切に思う次第です。

コーディネーターから

アウトリーチ経験が豊富な一流演奏家の方々にご協力いただけたことが、今回の邦楽体験教室の成功につながったと思います。長年のご経験の中で作り上げられたプログラムは、内容はもちろん、進行のスムーズさまでもが練り上げられており、コーディネーターとしては非常に「楽」をさせていただきました。また、中田小学校の関係者の皆さまには様々な面で柔軟にご対応いただきました。

先生から

普段聴きなれていない音を聴き、あまりしない正座で楽器を演奏することによって日本の良さを知ろうとし、礼など日本の心を学ぶことができた。本物の楽器、音をより身近に感じることができ、どこかで邦楽の音を聴けば、「あ、体験したことのある音だ」と、子どもたちが少し自慢に思えるような体験ができました。

子どもたちから

日本の伝統文化がよく知ることができた。／普段体験できない楽器を体験できた。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立青葉台小学校＋横浜みなとみらいホール 雅楽を体験しよう！

担当アーティスト	石川高(笙演奏家)
実施校	青葉台小学校(青葉区)
コーディネート	横浜みなとみらいホール
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年 2 学級 78 名
実施日程	2013 年 11 月 7 日(木)・8 日(金)

授業のねらい

西洋楽器には土地柄、体験する機会が多いので、馴染みのうすい雅楽での実施となった。「越天楽」を鑑賞し体験させることで、伝統芸能に親しめる機会とする。

アーティストから

青葉台小学校では大変に御世話になりました。私たちにとっても、大勢の子ども達の楽器体験は未知の領域でしたがおかげさまで、とても充実した内容にすることができました。

コーディネーターから

当館としては必ずしも得意としないジャンルではあったけれども、神奈川県立音楽堂からのアドバイスなどもあり、充実した２日間の雅楽プログラムを実施することが出来ました。楽器によっては鳴らしにくい楽器(龍笛)もあり、全ての子どもたちに公平にという様子ではないかもしれませんが、日本の楽器を紹介するプログラムは今後とも必要と思いますし、継続して取り組みたいと思っています。

先生から

馴染みのない楽器を演奏でき、とてもいい体験ができました。さらにアーティストの素晴らしい演奏を目の前で鑑賞でき、自分達の拙い音と比べられ、「プロのすごさ」を感じることができ、子どもたちにとって貴重な体験になりました。少ない時間で子どもたちが音が出せるようになり、演奏でだけでなく指導もやさしくて丁寧でありがたく思いました。

子どもたちから

今までやったことのない楽器ができ、音が出たのが楽しかった。／昔の楽器のことがわかったからよかった。／みんなで音を合わせて出したのは楽しかった。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム「伝統芸能」

横浜市立美しが丘東小学校＋神奈川県立音楽堂
響け、届け、おことの音

担当アーティスト	丸田美紀(箏曲演奏家)、磯貝真紀(箏曲演奏家)、上田弘子(箏曲演奏家)
実施校	美しが丘東小学校(青葉区)
コーディネート	神奈川県立音楽堂
実施科目・教科名	音楽
実施概要	体験型／邦楽／6 学年 3 学級 93 名
実施日程	2013 年 12 月 11 日(水)～13 日(金)

授業のねらい

伝統楽器・箏による音楽授業。体験的な内容を織り込む。単に伝統音楽を学ぶということではなく、伝統楽器を使った創作的な面を体験してもらう。

アーティストから

今回は何より“伝統にとらわれず楽器に触れて音を感じる”を課題に授業を行いました。最初に音が出た瞬間、「きれい！」「うわぁ」と自然と言葉が発せられ、目や耳で音を体感し、先生方の心配もよそに、びっくりするほどの集中力とともに、指の痛みも忘れて音遊びに夢中になり、予定をこなしていく。そして笑顔。私もその瞬間を共有できる楽しさとあわせて“実体験する、させること”の必要性を再度深く感じ、記憶に残る授業を目指すこと、その大切さ”を指導者として再確認させていただいた有意義な３日間でした。

コーディネーターから

箏の歴史（もともとは盲人の社会参加だった、宮城道雄とベートーベンの対比など）を伝えながら、日本の伝統楽器の楽しさを伝える事業だった。３日間それぞれのグループが試行錯誤しながら、発表会に向けてとても一生懸命練習していた。子どもたちがよく知っている「さくらさくら」だが、奏法を工夫することでまったく別の聴こえ方になり、新たな魅力を楽しみながら発見している様子だった。発表会での講師模範演奏では、前衛的な現代曲・しっとりとした古典曲と箏の幅広い魅力を伝えることができたと感じる。

先生から

アーティストの方の言葉がけや進め方で子どもたちが音楽にのっていく雰囲気を感じた。同じ曲でなく違う曲(クラスの数)の方が比べることなくたくさんの曲に出会えたのではないかと思った。子どもたちの発表に時間をもっと使っていただけたら更によかったと思った。

子どもたちから

箏の音がきれいだった。／自分が演奏するとき少し失敗してしまったけど、楽しかった。

【アーティストプロフィール】

■アーティストプロフィール

担当したアーティストのプロフィールは、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

ART LAB OVA

『ART LAB OVA』は、制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、アートを通じた交流ができる場をつくっている非営利のグループとして1996 年から活動をしています。横浜唯一の独立系映画館「シネマ・ジャック＆ベティ」1 階の横浜パラダイス会館を拠点に、映画館やスナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトを展開しています。

アトリエアリス

松岡真記子：東京芸術大学大学院美術研究科油画修了。鈴木美貴子：創形美術学校研究科絵画造形修了。新美博子：蔵野美術短期大学空間演出デザイン卒。アーティストとして、自身の作品に取り組みながら、アトリエアリスこども美術教室の講師として、子供たちに基礎的な造形力をつけると共に、創ることの楽しさを伝える指導をしている。

新居由佳梨

ピアノ。東京藝術大学音楽学部器楽科、及び同大学大学院修士課程音楽研究科を経て、スイス国立ジュネーヴ音楽院を修了、ソリストディプロム取得。第7回イタリア・モノポリ国際ピアノコンクール第 3 位、併せてアジア人賞受賞。第69回日本音楽コンクール入選ほか、国内外のコンクールでの受賞多数。オーケストラとの共演の他、パリでのショパン・フェスティヴァル、フランス、スイスでのピアノフェスティヴァルやリサイタルシリーズに出演。シャネル㈱「Pygmalion Days」シリーズ2007年度アーティスト。著名な弦楽器・管楽器奏者との共演やレコーディングも多く、2009年3月には伝説のヴァイオリニスト、イダ・ヘンデルとの共演 CD をリリース。第76回（2007年）および第79回（2010年）日本音楽コンクールにおいて、ヴァイオリン部門のピアノパートナーとしてコンクール委員会特別賞（共演賞）受賞。ピアノを上野敬子、田中修二、渡辺健二、故 ハリーナ・チェルニー=ステファンスカ、ドミニク・メルレの各氏に、室内楽を漆原啓子、本荘玲子の各氏に師事。2007年度より3年間東京藝術大学弦楽器科伴奏助手を務める。現在、東京藝術大学管楽器科伴奏助手および洗足学園音楽大学ピアノ科非常勤講師。スタインウェイ・アーティスト。

石川高

笙。演奏家。伶楽舎（れいがくしゃ）所属。1963 年東京生まれ。笙を宮田まゆみ、豊英秋両氏に師事、雅楽合奏を芝祐靖氏に師事する。雅楽団体「伶楽舎（れいがくしゃ）」に所属。国立劇場公演をはじめとし、世界各地の音楽祭に参加。雅楽古典曲のみならず、現代作品や自主作品の演奏も数多い。2006 年には Berlin で開催された Maerzmusik Festival にて演奏のほか、Mexico の作曲家 Julio Estrada 氏の新作 opera「Murmullus del Paramo」に参加し、Madrid、Stuttgart、Mexico、Venice で演奏。2007 年には Huddersfield Contemporary Music Festival に参加。2008 年には、Washington D.C.での Japan / Culture + Hyper Culture にて演奏した。

岩渕貞太

振付家・ダンサー。ダンサーとして APE・ニブロール・伊藤キム＋ 輝く未来・Co.山田うん・Ko & Edge.Co 等での活動を経て、2005 年より“身体の構造”や“空間や音楽と身体の相互作用”に着目した振付作品を劇場や美術館等で発表。関かおりとの共同振付作品『Hetero』で、横浜ダンスコレクション EX2012「若手振付家の ための在日フランス大使館賞」を受賞。

上村なおか

ダンサー・振付家。石川県金沢市生まれ。5 才よりバレエを始める。1991 年お茶の水女子大学舞踊教育学科卒業。在学中の 89 年より木佐貫邦子に師事。91 年木佐貫主宰のダンスグループ「neó」の創立メンバーに参加。以降、数多くの木佐貫作品に出演する。98 年より笠井叡に師事、笠井演出・振付の、99 年「青空（seikuu）」シリーズ、2000 年「Spinning Spiral Shaking Strobe」（作：木佐貫共）、06 年「透明迷宮」等に出演。01 年より自主企画ソロダンス公演をスタート、たったひとつの身体が持つ隠された可能性を追求し、これまでに 5 作を発表。国内外で公演を行う。詩人、写真家、音楽家、ファッションデザイナー、美術家など他のジャンルのアーティストとの活動やダンサーとしてのオペラへの出演など精力的に展開している。とりわけ照明の岩村原太との「ひがな一日」シリーズや笠井瑞丈とのデュオ活動は継続的に行っている。身体表現教室やダンスクラス、各地での様々な世代へのワークショップを通して、身体の発見と冒険を実践中。身体の力とイメージの力を目覚めさせるべく奮闘している。近年では振付家としても活動の幅を広げている。02 年度、文化庁新進芸術家国内研修制度研修員。04年度、第36回舞踊批評家協会新人賞を受賞。05 年度より桜美林大学総合文化学群にて非常勤講師を勤める。http://www.naoka.jp/

生形三郎

作曲家／音楽家。東京都世田谷区出身。昭和音大作曲科を首席卒業、東京藝術大学大学院修了。大学在学中に CCMC2004 最優秀作品賞や海外での作曲賞を受賞し、2006 年には協同作品が文化庁メディア芸術祭審査委員推薦作品に選定される。電子音響機器を使い 30 回以上のコンサートを開催したほか、海外の芸術祭等への作品発表、ダンス・コラボレーション、録音書籍の出版や音楽雑誌への寄稿等、多面的に活動。難解な電子音響芸術をより広い聴衆に向け、「感覚的」に聴取できる表現に取り組み、成功を収めている。最近では、電子音響や録音技術のワークショップも開催。http://saburo-ubukata.com/

うめぐみ

ワークショップアーティスト。うめぐみは廣島佐映子、遠山和美、川崎 信の3人のユニット。横浜美術館子どものアトリエでの指導補助の経験を活かした子どもが自ら描きつくる気持ちを大切にした指導をする。

江崎浩司

リコーダー奏者。1971 年札幌生まれ。幼少の頃からリコーダーを始め、小学 3 年生から 6 年生の間に全日本リコーダーコンクールアンサンブル部門で最優秀賞 2 回、優秀賞 1 回に輝く。その後、中学 3 年時に全日本リコーダーコンテストで金賞に、高校 2 年時に銀賞受賞。STV 音楽コンクールでも STV 賞を受賞。1990 年桐朋学園大学古楽器科入学。リコーダーを花岡和生、バロックオーボエを本間正史、バロックファゴットを堂阪清高の各氏に師事。1995 年同大学を卒業。第 10 回（'96 年）古楽コンクールにて第 2 位受賞。第 11 回（1997 年）同コンクール、アンサンブル部門でアンサンブル「ラ・フォンテーヌ」のメンバーとして最高位受賞。2000 年同アンサンブルのメンバーとしてブリュージュ国際コンクール・アンサンブル部門第 2 位及び聴衆賞を獲得している。「バッハ・コレギウム・ジャパン」のメンバーとして 2003 年まで録音や多くの海外ツアーに参加。また、ジャズサックスを早坂紗知氏に師事し活動を広げはじめる。

遠田誠

ダンサー。1995 年、「伊藤キム＋輝く未来」に旗揚げより参加。2001 年、様々な物事のハザマに立ち、表現行為の越境を試みる部活「まことクラヴ」を結成。劇場空間はもとより美術館、博物館、商店街などで脱領域型の活動を展開。美術のフェスティバルにも多数招聘され、ジャンルとしての越境を試みる。2011 年、「D-BOYS STAGE 2011 ヴェニスの商人」（主催：ワタナベエンターテイメント/ネルケプランニング）にステージングとして参加、「ヨコハマトリエンナーレ 2011」PR キャラバン隊長に就任。また 2008 年度より東京造形大学にて非常勤講師も勤める。2005 年東京コンペ #2 ダンスバザール大賞受賞、2006 年トヨタコレオグラフィーアワード 2006 オーディエンス賞受賞、2007 年第 1 回日本ダンスフォーラム賞受賞。

大石将紀

サックス奏者、ピアニスト大石将紀：東京藝術大学院修士課程修了後、2001年渡仏しパリ国立高等音楽院に入学。サクソフォン科、室内楽科、即興演奏科を全て最優秀の成績で卒業後、さらに大学院課程室内楽科に進み2007年に修了。文化庁派遣芸術家海外研修員、明治安田生命クオリティオブライフ財団奨学生として研鑽を積む。フランス国内のコンクールで入賞後2008年に日本に帰国。東京オペラシティ文化財団主催「B→C 100」に出演し、朝日新聞などの批評欄で高い評価を得た。その後は故ピナ・バウシュプロデュースの国際ダンスフェスティバル NRW2008（ドイツ）への招待出演、地域想像おんかつ登録アーティストとして全国各地でのワークショップ、リサイタルの開催、また NHK-BS「クラシック倶楽部」で「ガーデン・オブ・ラブ大石将紀スタジオコンサート」が放映されるなど活躍の場を広げている。東邦音楽大学、洗足学園音楽大学非常勤講師。

大久保智子

邦楽演奏家。幼いころテレビで見たお箏の演奏に「私はこの楽器が弾きたい」とインスピレーションを感じたのが習い始めのきっかけという、まさにお箏の申し子。舞台の上ではいつも輝いていたいという彼女は、上品でパワフルな演奏家を目指している。

大島康幸

彫刻家・美術講師。1962 年群馬県出身。東京造形大学卒業後多摩美術大学大学院に進学し 1987 年修了。その後東京を中心に画廊、百貨店、美術館等で個展、グループ展を開催。主に木を素材とした具象作品で 2002 年からの FAKE FUR シリーズでは動物の表皮をモチーフに新しい生命表現を試みている。初期作品が横浜美術館に収蔵されている。また作家活動の傍ら東京都内の私立中学高等学校にて美術講師を務める。

大家一将

打楽器奏者。幼少よりピアノ、エレクトーンを始め、中学校の吹奏楽部で打楽器に出会う。奈良県天理高等学校吹奏楽部在籍時に全日本吹奏楽コンクールで金賞受賞。2008 年第13回 KOBE 国際学生音楽コンクール第2位。ドラマ「のだめカンタービレ」出演＆演奏指導など、数々のTV制作やDVD出演、CDのレコーディングに参加。演奏スタイルもクラシックのみに留まらず、ダンサーや、劇団、日本舞踊等数々のアーティストと共演。3 人組の PERCUSSION UNIT「HARROMI-YAH!!!（ハロミーヤ）」に所属し、LIVE やコンサート活動の他、NHK-FM「名曲リサイタル」に出演。2009 年東京藝術大学音楽学部打楽器科を卒業し、現在、Independent Player として精力的に活躍中。

岡村竜司

和太鼓奏者和太鼓創作芸能集団　蒔穫堵～Ma-Ka-Do～（まかど）メンバー。日本古来からの営みを主題に和太鼓を軸とした芸能を研鑽。また新たな表現手段を創作していく事を目的とした集団。蒔・・・地に種を蒔き「稽古、創作」穫・・・実りを収穫し「表現、発信」堵・・・日常の平和に安堵する「成果、成功」をコンセプトにする。

小沢祐美子

ソプラノ歌手。2000 年洗足学園音楽大学声楽科を首席で卒業。同大大学院修士課程音楽研究科修了。同大附属オペラ研究所第 9 期修了。二期会オペラスタジオ第 47 期修了、修了時に優秀賞を受賞。オペラプロフェッショナルコース修了。ソプラノ歌手の枠を越えて、日本語詞の作詞に挑戦したり、ボイストレーニングの指導をするなど、さまざな活動を行っており、特に近年は地元・横浜での演奏活動に力をそそいでいる。二期会プロデュース 女性ヴォーカルユニット「クリスターレ☆」リーダー。横浜市民広間演奏会会員。平成 15 年度 文化庁 国内新進芸術家国内研修員。二期会会員。

笠井瑞丈

振付家・ダンサー。笠井叡に舞踏を、山崎広太にダンスを師事。様々なスタイルのダンスのエッセンスを取り入れながら独自の世界観を持つ作品を発表している。これまでにソロ作品『春の雪』、『華の乱』、『ラストマン』を発表する他、石井かほる、笠井叡等多数の舞台に出演。海外ツアーでは CJ8（カナダツアー）、トリプルビル（ヨーロッパツアー）、リトルアジア（アジアツアー）等で踊る。09 年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員として、ニューヨークで研修。横浜ダンスコレクション R2010 にて審査員特別賞受賞。

梶本はるか

ダンサー・振付家。1983 年生まれ。2005 年より「BATIK」メンバーとして国内外の公演に出演する他、「プロジェクト大山」や長内裕美の作品に出演。ソロ作品に 06 年 ST スポット企画ラボ 20＃19 で発表した『ひとまず、こしらえる』ほか、『あしたのためのその 1 、その 2』等がある。2006 年お茶の水女子大学卒業。2012 年一種小学校教諭免許を取得。小学校の現場に関わりながら、ダンス教育の在り方を探っている。

柏木陽

演劇家。1993 年、演劇集団「NOISE」に参加し、劇作家・演出家の故・如月小春とともに活動。 2003 年に NPO 法人演劇百貨店を設立し、代表理事に就任。全国各地の劇場・児童館・美術館・学校などで、子どもたちとともに独自の演劇空間を作り出している。近年の主な仕事に、兵庫県立こどもの館での中高生との野外移動劇創作、世田谷美術館の中高生向けワークショップ「誰もいない美術館で」の進行など多数。青山学院女子短期大学、大月短期大学、和光大学等で講師もつとめる。俳優としての活動に、「ミュージカル・アニー」ルースター役(明治生命、1999 年)、「3 年 B 組金八先生」遠山医師役(TBS、2002 年)などへの出演がある。

柏原美緒

声楽家。東京芸術大学声楽科卒業。これまでにオペラでは、モーツァルト「魔笛」（童子Ⅰ、パパゲーナ）、「コシ・ファン・トゥッテ」（デスピーナ）、モンテヴェルディ「ポッペアの戴冠」（ドゥルッシラ）、フンパーディンク「ヘンゼルとグレーテル」（グレーテル）に出演。他コンサート活動にも積極的に取り組む。聖徳大学大学院音楽文化研究科博士前期課程修了。コールエデン指導者。葛飾シンフォニーヒルズ少年少女合唱団ヴォイストレーナー。聖徳大学音楽学部兼任助手。

KAZUYA

ダンサー、GACKT の専属の振付師＆ダンサー陣のチーフ。その他にTV・バックダンサー・モデル・舞台・振付・ダンススクール講師など多方面で活動中。主な経歴：（TV）・TV東京系列全国ネット『RAVE2001』高校生大会（九州地区代表）出演（FINF）・NHK『第 58 回 NHK 紅白歌合戦』Gackt ダンサー他（舞台）・陸の界賊-オカノカイゾクー 振付（SHOW）・JOICO《The Art of Healthy Hair》 Hair Show 2008 in 香港 （全国ツアー＆バックアップダンサー）・『GACKT LIVE 2010 CAMUI G SCHOOL de 'FUKINASAI' 神威♂楽園 de フキナ祭』全国ツアー Choreographer＆Dancer（全国 6 公演） 他

QUARTET　LIEN

サクソフォン四重奏。サルビアホール・レジデント・アーティストであるサクソフォン奏者の椿義治がリーダーを務めるサクソフォン四重奏団。関東地方を中心に、ジャンルや形態にとらわれない幅広い演奏活動を展開している。

川野誠一

大蔵流狂言方。2002 年より大蔵流狂言方／眞船道朗を師事、2009 年より善竹十郎（重要無形文化財）を師事し、狂言を学ぶ。多くの古典芸能に興味を持ち、国際演劇協会（ITI）の伝統芸能 WS にて「歌舞伎」「能」の課程を修了。また無外流居合兵道／江戸無外会に所属し、無外流の居合剣術を学ぶ。日本俳優連合会員（総代）。

カンジヤマ・マイムB

パントマイミスト。埼玉県与野市生まれ。桐朋学園大学演劇専攻科卒。19 歳の時、カンジヤママイム著『おしゃべりなパントマイム』に出会い弟子入り。アメリカマイムの第一人者、トニーモンタナロ氏に師事。テレビ、舞台、TDS、寄席など様々なジャンルで活動。最近では NHK 教育テレビおかあさんといっしょ『パント！』のコーナー振付指導に参加。

神田佳子

パーカッショニスト。東京芸術大学卒業及び同大学院修了。これまでに、ソリストとして東京フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団等と共演や、東京オペラシティ主催リサイタルシリーズ「B→C」(1998)、NHK「FM リサイタル」、TV朝日「題名のない音楽会」などに出演。久石譲、小椋佳等らのコンサートツアー、NHK 大河ドラマ『北条時宗』の音楽をはじめ、数多くのレコーディングなどに参加。現在、独自のリズムワークショップも展開中。

京極朋彦

ダンサー、振付家。1984 年 12 月 1 日生まれ。07 年京都造形芸術大学、映像・舞台芸術学科、舞台芸術コース卒業。在学中、太田省吾、山田せつ子、岩下徹らに師事。 シャープな身体性とバネのようなリズム感、ひとの 2.5 倍の汗を武器に、京都を中心に役者・ダンサー・振付家として国内外問わず様々な現場で活動中。 主な出演作品は 2006 年 山田せつ子ダンスシリーズ『奇妙な孤独』（構成・演出・振付：山田せつ子） 2007 年 KIKIKIKIKIKI ダンス公演『おめでとう』（振付・演出：きたまり） 2008 年 木ノ下歌舞伎 『三番叟』（原案・監修：木ノ下裕一振付：芦谷康介 演出：杉原邦生） 同年 SINGAPORE ART FESTIVAL2008 GRAINDER-MAN Performance『MUSTANG』など 自身の振付作品では 2006 年、大学在学中、卒業制作として上演されたソロダンス『鈍突』が学科最優秀賞、および学長賞を受賞。 こまばアゴラ劇場、夏のサミット 2009 にてダンスユニット「肉体関係」『49』上演。 2011 年、大阪ロクソドンタブラックにて倉田翠＋京極朋彦『頼むから静かにしてくれ』を上演 45 分間、無音で踊られるソロダンス『カイロー』は東京、こまばアゴラ劇場、夏のサミット 2010、同年 KYOTO EXPERIMENT、2011 年には TPAM in Yokohama にて上演された。

Green Ray Saxophone Quartet

サクソフォンカルテット。猪俣明日美（Sop）、内田しおり（Al）、川﨑有記（Ten）、池原亜紀（Bar）。国立音楽大学在学中に雲井雅人門下生 4 名で結成。室内楽を下地啓二氏に師事。2010 年 同大学の第 84 回ソロ室内楽演奏会出演。その後第 86 回にも出演。フレデリック・ヘムケ氏によるマスタークラス受講。2011 年ティモシー・マカリスター氏による特別レッスン受講。ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン エリアコンサート出演。2012 年 Green Ray Saxophone Quartet 1st Concert 開催。第 1 回サンハート・アンサンブル・オーディション最優秀賞受賞。第 13 回大坂国際音楽コンクールファイナル出場。2013 年 Green Ray Saxophone Quartet 2nd Concert 開催。

栗栖良依

スローレーベルディレクター。美術・演劇・イベント・製造と横断的に各業界を渡り歩いた後、イタリアのドムスアカデミーにてビジネスデザイン修士取得。その後、東京とミラノを拠点に世界各国を旅しながら、

様々な分野の専門家や企業を繋げ、新しい体験価値の創造に取り組む。横浜ランデヴープロジェクトのディレクターに就任し、スローレーベルを立ち上げ、ディレクターとしてプロジェクト全般の企画開発と推進を担っている。

黒田晃弘

木炭画家。木炭での似顔絵描きをライフワークとし、画風や表現技法のみに落とし込んだようないわゆる絵画作品としてではなく、画家とモデルの関係性、またはコミュニケーションの内容によって、表現の種類さえも変える。2005 年横浜トリエンナーレ正式招待アーティスト。

COCORO*CO

ゴスペルグループ。「亀渕友香＆VOJA（The Voices of Japan）」の結成メンバーを中心に 1996 年結成。グループ名の由来は「こころとこころが通じ合う」と いう意味から。レパートリーはゴスペルに限らず、いつの時代も愛されているポピュラー、ワールドミュージック、日本歌曲の名曲までと幅広い。ゴスペルは、アメリカでは黒人が歌う歌とされているが、COCORO*CO の生み出すゴスペルのテーマは、大地、宇宙、人類、地球上のすべてに対する感謝と愛。スピリチュアルな歌声と美しいハーモニー、そしてユニークなステージトークを武器に、コンサート、ディナーショー、ワークショップ等で、全国の会館、ホテル、学校やライブハウスで活躍中。

小林巌生

インフォメーションアーキテクト。1977（昭和 52）年神奈川県生。有限会社スコレックス代表取締役社長特定非営利活動法人リンクト・オープン・データ・イニシアティブ副理事長横浜オープンデータソリューション発展委員会理事オープンデータ流通推進コンソーシアム委員。デザイナー、ウェブアーキテクト、コンセプター。ウェブデザイナーとして大手企業や自治体等のウェブサイト構築プロジェクトに多数参加。また、ウェブアーキテクトとして地域情報×ウェブをテーマに活動。横浜開港 150 周年 Y150、市民参加都市ブランディングプロジェクト「イマジン・ヨコハマ」等、横浜に関する情報系の企画やデザインに多数参加。現在、オープンデータの推進にも取り組んでおり、政府や自治体、公共機関のオープンデータ施策の支援も行っている。

齋藤眞紀

美術家。1964 年川崎に生まれる。和光大学人文学部芸術科卒。鶴見区在住。舞台美術を皮切りに、絵画、立体造形、版画や風景スケッチと、抽象、具象を問わず様々なジャンルで製作活動を行っている。近年は、川崎市市民ミュージアム、郡山市美術館、岩崎ミュージアムなどでのワークショップをはじめ、スケッチ会の主催に保育園での絵画教室と、さまざまな年齢の人達とふれあいながら、美術の楽しみを広める活動にも力を入れている。

酒井幸菜

振付家・ダンサー。1985 年、神奈川県茅ヶ崎市出身。5 歳よりモダンダンスを学ぶ。東京芸術大学音楽環境創造科卒業。しなやかで繊細なダンスには定評があり、数多くの舞台に出演。タイのマンガ家ウィスット・ポンニミットとのダンスとマンガのコラボレーションによる舞台作品『ダマンガス!!』など、他ジャンルのアーティストとの共同制作や特徴的な建築空間での自身の作品発表をはじめ、微細な演出による空間的な作品を制作し美術館などでのダンスパフォーマンスも行う。代表作に『ジンジャーエールを、朝』（2007 年）『脈拍』（2008 年）『In her, F major』（2009 年）『Night in June／難聴のパール』（2010 年）『わたしたちは生きて、塵』（2012 年）など。また、ミュージックビデオや広告などへの振付・出演活動も行う。これまでに、椎名林檎『色恋沙汰』、高橋酒造『shiro cheers system』、たむらぱん『しんぱい』、清竜人＜MUSIC SHOW＞のステージ演出・振付など。2011 年、第 60 回神奈川文化賞未来賞を受賞。

櫻田素子

ガムラン奏者。横浜生まれ。ガムラングループ・Terang Bulan（トゥラン・ブーラン）主宰。日本各地で演奏の他、バリ島芸術祭に度々招聘され参加。日本人として現在進行形のガムラン音楽の創作、様々なアーティストとのコラボレーションにも取り組む。国立音楽大学卒、日本児童育成協会こどもの城を経てフリーランスに。芸術教育研究所客員研究員。音の森ガムランスタジオ講師、INJ カルチャーセンター・ガムラン講師。

佐藤未来

美術家・現代芸術家。その場所が持つ環境、歴史、人々、問題、矛盾などの地域性をきっかけに、さまざまな表現を用いてサイトスペシフィックなプロジェクトを行い、新しい風景、新しいパースペクティブを提示。

三笑亭可女次

落語家。二ツ目。平成 6 年 先代古今亭志ん馬に入門し「志ん吉」に。没後小笠原諸島父島でウミガメの調査を経て、平成 14 年九代目三笑亭可楽に入門、「可女次」となる。平成 19 年二ツ目昇進。

三遊亭遊かり

落語家。前座。

茂山茂、茂山逸平、松本薫、山下守之

大蔵流狂言師。茂山千五郎家は江戸初期から、京都在住の狂言師の家として歴史に残る。五代目から狂言師として記録が残っており、六代目から禁裏御用（御所に出入りを許されている。今でいう「宮内庁御用達」のような家）の能楽師として、京都・奈良を中心に狂言を上演した記録が各地に残っている。現在も十三代目の当主・千五郎を中心として、400 年にわたり京都に息づいてきた狂言の普及・継承に勤めている。

篠田浩美

打楽器奏者。東京芸術大学打楽器科卒業。ヤングアーティストピアノコンクール（第 2 位）、川口ピアノコンクール（第 3 位、教育長賞）、全国ジュニア管打楽器コンクール（銅賞）。幼少よりピアノ・マリンバを始め、高校より打楽器を始める。現在はソロ、アンサンブル、オーケストラとジャンルを問わず活動中。また Roland の電子パーカッションやシンセサイザー、電子ピアノのデモンストレーター、さらには USTREAM 番組の司会など活動の場を広げている。幼児教育にも精力的でリトミックのチーフインストラクターも務める。また和楽器奏者としても活躍し邦楽演奏会にも出演し、文化庁の演奏会や松竹の歌舞伎公演の演奏にも参加。また多数の CD レコーディングに参加。父である作・編曲家／キーボーディスト 篠田元一の CD やライブにも共演参加。マリンバを高橋美智子、小川佳津子、打楽器を藤本隆史、高田みどり、お囃子を藤舎呂船に師事。PERCUSSION UNIT「HARROMI-YAH!!!」クラシックユニット「primo」、邦楽創造集団「オーラ J」「アンサンブル室町」メンバー。

柴幸男

劇作家・演出家。1982 年生まれ愛知県出身。「青年団」演出部所属。「急な坂スタジオ」レジデント・アーティスト。日本大学芸術学部在学中に『ドドミノ』で第 2 回仙台劇のまち戯曲賞を受賞。2010 年『わが星』にて第 54 回岸田國士戯曲賞を受賞。何気ない日常の機微を丁寧にすくいとる戯曲と、ループやサンプリングなど演劇外の発想を持ち込んだ演出が特徴。全編歩き続ける芝居（『あゆみ』）、ラップによるミュージカル（『わが星』）、一人芝居をループさせて大家族を演じる（『反復かつ連続』）など、新たな視点から普遍的な世界を描く。あいちトリエンナーレや瀬戸内国際芸術祭への参加、岐阜県可児市での市民劇の演出、福島県いわき総合高校での演出など、全国各地にて精力的に活動している。

じゅんじゅん

振付家・ダンサー。マイムをベースにダンスや演劇的手法を混ぜ込みつつ独自の作品作りに挑んだ「水と油」で活躍。国内外で公演活動を行い、2003 年には朝日舞台芸術賞・寺山修司賞を受賞。その後ソロプロジェクト「じゅんじゅん SCIENCE」を立ち上げ、公演やワークショップを通じた普及活動を積極的に展開する。2010 年には文化庁新進芸術家海外研修制度研修員としてベルリンに滞在し、その後も公演活動やワークショップを通じた交流を深めている。ダンスを見るという行為を、ダンス関係者のみならず広く一般にも訴えていくことを目指し、ダンスとマイムの境界を時に飛び越えながら作品製作を続けている。また、運動の機能に精通しながらも親しみやすいワークショップには定評がある。

春風亭笑松

落語家。公益社団法人落語芸術協会所属。平成 13 年 5 月 春風亭小柳枝門下に入門「小まさ」。平成 17 年 7 月二ツ目昇進春風亭笑松（しょうまつ）と改名。

新生呉羽

美術家・舞踏家。ダンスの特性にこだわる無音、即興のダンス:「存在の夢」を国内各所、フランス、ポーランド、イタリア、イギリス、カナダ、中国の現代美術のシーンで継続。即興における、積み重なる瞬間の選択が「あんなのもありなのか」と選択の自由と勇気を喚起することを目指し、石の上、水の中、山、城、劇場、学校などでstamping:踏むダンスを展開。笑いのこぼれるような新しい律動が光の方に向かうことを願って。

善竹富太郎

大蔵流狂言師。社団法人能楽協会会員。昭和 54 生。善竹十郎氏長男。祖父故善竹圭五郎、父・善竹十郎に師事。3 才より稽古を始め、5 才の時に狂言「靭猿」の子猿役で初舞台。その後 20 才で「三番三」、22 才で「那須」、24 才で「釣狐」を披く「SORORI の会」「狂言道場」主宰。昭和音大講師。

即興からめーる団

音楽家。赤羽美希（音楽家）と正木恵子（打楽器奏

者）の二人による音楽ユニット。参加者を巻き込んだワークショップ形式の即興演奏が持ち味。2007 年 10 年から港区にある三田の家で「うたの住む家」を主催。いろいろなバックグラウンドを持つ参加者とともに、楽しみながら歌を創作する活動を続けている。

高田由利子

音楽療法士。洗足学園音楽大学音楽学部ピアノ専攻卒業。レズリー大学表現療法学科音楽療法・メンタルヘルスカウンセリング科修士課程を修了後、ニューヨーク、ノードフ・ロビンズ音楽療法センターにてディプロマ取得。現在、障碍者、高齢者領域で実践。成人のスーパービジョンを行う。横浜市において地域社会におけるコミュニティ・ミュージックセラピープロジェクトを展開している。日本音楽療法学会認定音楽療法士。ノードフ・ロビンズ認定音楽療法士。よこはま音楽広場実行委員会代表。

竹内真紀

ピアノ。東京藝術大学卒業、同大学院修了。その後渡英、Royal Academy of Music にて研鑽を積む。2004 年 North London Piano School にてグランプリ獲得。2006 年 St. Martin in the Field (London) にてソロリサイタルを開催。Concurs international d' Escaldes- Engordany において、最優秀スペイン音楽賞を受賞。

田ノ岡三郎

アコーディオン奏者、作曲家。気ままに旅することが大好きなアコーディオン奏者。その柔らかい笑顔からは想像出来ないような感情的、圧倒的パフォーマンス。ジャンルを超え多種多様な人々と日々コラボしながら風景を紡ぎ出し、精力的に音世界を駆け巡る。音楽大学在学中より、独学でアコーディオンを弾き始める。東京都ヘブンアーティストの第一回審査を受験し合格。街中の至る所でパフォーマンスを開始。この頃作家の永瀧達治の紹介でパリ在住のダニエル・コラン氏宅にて住み込み修行。その後も度々短期留学でフランスに渡り、さらにアコーディオンの魅力に目覚める。フランス全域を放浪。ライブ、セッションなど参加。パリで出会った人たちとの交流を介して、アフリカへも演奏旅行。現在はコンサート、レコーディング、イベントの参加、TV 番組や舞台の出演など幅広く活動中。ソロ活動としてはライブハウス等のほか、児童館コンサート、芸術鑑賞会など様々な場所での活動も多い。

珠

スティールパン奏者。幼少よりピアノを習いその後パーカッションを学ぶ。2005年にトリニダードトバコ共和国に渡航、現地の Steel Pan Band に参加、同共和国最大のコンテスト PANORAMA に出場、参加バンドが優勝する。ソロ活動、バンドサポート、アントニオ・古賀氏のサポートメンバーとして全国のコンサートや海外公演のほか、首都圏6箇所で SteelPan教室講師。2011年には自身の初 CD をリリース。日本の童謡唱歌を Steel Pan でアレンジ、好評を博している。

ドゥイ

造形作家。小野亜斗子・轟岳によるユニット。1999 年より5年間、絵画造形教室「アトリエ・ラピン」のスタッフとして勤務。（小野）2005 年より轟が加わり、 2007 年 3 月まで 深沢アート研究所／馬車道の土曜日コースを担当。2006 年より、横浜・石川町の洗濯屋さん店舗跡を改装した「ドゥイの実験室 」にて、こども造形教室をスタート。2009 年より、鎌倉山ナワールガーデンにある竹林での活動「本気根気狸」。2010 年より、葉山おひさま学童あおぞらでの「ドゥイの出張こども造形教室」。その他、各地イベントにてワークショップを考案・実施。参加者それぞれの面白さやひらめきと即興性を大切に考える、「クリエイティブな遊びの時間」を研究しています。

所谷直生

オペラ歌手(テノール)。国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会歌手育成部 17 期生修了。2004 年藤原歌劇団に「イル・カンピエッロ」のゾルゼートでデビュー。「ラ・ボエーム」ロドルフォ、「ドン・カルロ」カルロ、「リゴレット」マントヴァ、「蝶々夫人」ピンカートン、「カルメン」ホセ、「マノン」デ・グリュー、「トスカ」カヴァラドッシなどに出演。吉沢哲夫、藤川泰彰、フランコ・カステッラーナ、市原多朗、各氏に師事。藤原歌劇団団員。

戸田弥生

ヴァイオリン。1993 年エリーザベト王妃国際音楽コンクール優勝以来、日本を代表するヴァイオリニストの一人として、圧倒的な集中力による情熱的な演奏で聴く者を魅了している。日本の数多くのオーケストラはもとより、ニューヨーク・チェンバー・オーケストラ、モスクワ・フィルハーモニー、ボン・ベートーヴェン・ハレ管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー等との協演多数。1985 年第 54 回日本音楽コンクール第 1 位。1993 年エリーザベト王妃国際音楽コンクールに優勝して一躍注目を集め、本格的な活動を開始する。1996 年にはニューヨークのジュリアード音楽院から“ディレイ・スカラシップ”を受け、1 年間在籍。 1997 年にニューヨークデビューを果たし絶賛を受ける。1999 年にカーネギー・リサイタル・ホールで室内楽を中心としたリサイタル開催。1994 年、第 4 回出光音楽賞を受賞。使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与されている 1740 年製ピエトロ・ガルネリ。

富田真由香

打楽器奏者・音楽講師。洗足学園音楽大学卒業。同大学ソリストコース修了。ダルクローズジャパン・リトミックスクールにて、即興演奏、ソルフェージュ、内的聴取力の養成等学ぶ。現代音楽演奏コンクール競楽Ⅷにて入選、審査員特別奨励賞受賞。ヤマハ主催によるソロリサイタル開催。各地芸術祭や AOI コンサートシリーズ、NHK（TV）「にっぽんの歌」オーケストラ、新作歌舞伎『GOEMON』等にも出演。カワイ音楽学園講師（2008 年まで）、洗足学園音楽大学附属音楽教室講師。

とみやまあゆみ

俳優。神奈川県出身、横浜市在住。桜美林大学総合文化学群演劇専修卒業。舞台・映像などの俳優活動と並行して、学校や劇場での演劇ワークショップの進行役もつとめる。NPO 法人演劇百貨店。世田谷パブリックシアター年間契約ファシリテーター。

外山香

箏演奏家。三歳より伯母久松雅和陸に箏曲の手ほどきを受ける。後に、沢井忠夫、川村昌子、中山いずみに師事。聖心女子大学在学中に第 30 期NHK邦楽技能者育成会を卒業、沢井忠夫合奏団に入団。1989 年文化庁芸術家国内研修員修了。1990 年、1992 年NHK邦楽オーディション合格。日本音楽集団入団（～1992 年）。 第一回日中伝統音楽交流会にソリストとして参加。1990 年第一回リサイタルを行う（以後、2007 年第 8 回まで開催、2005 年は静岡音楽館AOI主催による）。1995 年タイ・バンコク、1997 年ドイツ・カールスルーエに於いてリサイタルを行う。2000 年、横浜市港北芸術祭にて宮間利之とニューハードと協演。 2002 年、横浜市日米協会 50 周年記念式典にて米軍ジャズバンドと協演。1996 年日本クラウンより、2007 年邦楽之友社よりソロCDを発売（第 62 回文化庁芸術祭参加作品）。2007 年横浜交響楽団第 600 回記念演奏会にソリストとして参加。ISCM-ACL 合同香港公演に出演。 2010 年、横浜で開催された APEC レセプションにて演奏。 NHK TV「芸能花舞台」に出演。 2011 年、2012 年、The Swing Herd Orchestra と協演。 2012 年、神奈川フィルハーモニーの公演にソリストとして参加。 現在、沢井箏曲院師範、国内外において演奏活動を行う傍ら教授活動を行う。

中一乃

ヴァイオリニスト。5歳よりヴァイオリンを始める。洗足学園音楽大学卒業、前田賞受賞。卒業演奏会、読売新聞社主催新人演奏会に出演。同大専攻科を修了。これまでにヴァイオリンを鈴木嵯峨子、徳永二男の各氏に師事。また、多数のマスタークラスに参加し、O.クリサ や M.ヴァイマン等の各氏に師事する。現在、フリーのヴァイオリン奏者としてソロ、室内楽、オーケストラ等、多方面で活躍。また音楽通訳としても活動する傍ら、洗足学園音楽大学で講師として後進の指導にもあたっている。

中島佑太

美術家・現代芸術家。そこに集まった人々との対話の中から様々な想像やアイデアを生み出す仕組みを設定し、身近なものを素材にしたワークショップによって作品や活動を作るアートプロジェクトを展開している。

中山晴奈

フードデザイナー。1980 年千葉県生まれ。筑波大学、東京藝術大学大学院を経て、コミュニティデザインの NPO や建築事務所に勤務。美術館や博物館で食を使ったコミュニケーションデザインや出張料理、ワークショップなどを行う。NPO 法人フードデザイナーズネットワークを創設、代表理事。

名本海希

1997 年に東芝 EMI より J-POP で CD デビュー。永谷園やシマダヤの CM ソング、TBS 子供向け番組「のりものいっぱい」主題歌等担当。20 代半ばからジャズボーカルに転身。KIRIN『ジャズとワインの夕べ』出演、ジャズの海外レコーディングの経験を積む。その後、VOCAL として歌う以外に、海外レコーディングのプロデュース、アーティスト・マネジメント、VOCAL 講師としても活動をはじめる。また、渡米経験 10 回以上、米軍基地内で勤務していた経験も活かし、 実際に仕事や生活で活用できる英語の上達法を講師として指導している。

西井夕紀子

作曲家、演奏家。パフォーマンスグループもび主宰。演劇やダンスの音楽を作曲したり、演奏したりする。東京国際芸術祭 2007 にしすがも創造舎演劇上演プロジェクト Vol.4『アトミック・サバイバー ワーニャの子どもたち』、2008 年『エコノミック・ファンタスマゴリア』

などの阿部初美氏演出作品に曲を提供。2011 年、中野成樹＋フランケンズ『ザ・マッチメーカー』でピアノを演奏。FALSETTOS でキーボードを担当。東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業、同大学院修了。

21 世紀ゲバゲバ舞踊団

振付家・ダンサー2011 年に結成。メンバーは共に桜美林卒業後、各々の手法でダンスを展開してきた井上大輔・入手杏奈・辻田暁・伊佐千明・遠江愛・名取秀樹・矢嶋里美・北川結の 8 名で構成される。集団創作という手法で作品を創作してきた舞踊団は、メンバー同士が互いに現在抱く興味や疑問を交換・共有し、“対話”から生まれた身体をシーン・振付として構築しダンス作品として昇華させ、上演してきた。2011 年11月に処女作品『ワカクマズシクムメイナルモノノスベテ』を発表。2012 年は舞踊団企画公演「ゲバゲバの回 01」から始まり、『ダンストリエンナーレトーキョー2012』や『吾妻橋ダンスクロッシング』などのフェスティバルへ参加。また初の舞踊団単独公演『崩壊寸前』を上演。2013 年は『韓国芸術見本市インターナショナルショウケース』に参加、更には『崩壊寸前』を再構成し『カウントアップ（2014）』として新たに上演するなど積極的に作品創作・発表の場を展開する。また、パフォーマンスキッズトーキョーでの振付や定期的なワークショップの開催など、地域社会とのダンスを通した交流の場の拡大にも力を注ぐ。

萩原広充

パーカッション＆ドラムス・ダンサー。横浜市出身。1985 年生まれ。14 歳よりドラムを始め、新堀ギター音楽院港南台教室『佐藤晃一』氏に師事。08 年新堀ギターフィルハーモニーオーケストラ公演にてドラムソリストに抜擢。09 年新堀ギター講師となる。バンド活動、コラボ演奏、指導など海外や日本各地で活動している。

早川りさこ

ハープ奏者。東京芸術大学付属高校を経て、東京芸術大学に学ぶ。卒業後、米国へ留学。2001 年 7 月、NHK 交響楽団入団。2000 年、2001 年には小澤征爾氏率いるサイトウキネンオーケストラのマーラー演奏会シリーズ、レコーディング、アメリカ演奏旅行に参加。

HAL&Panda

ゴスペルシンガー、ヴォイストレーナー。個性派ボーカルグループ「COCORO*CO」や「ビックリトル」で活躍中。数多くのグループにゴスペルも指導。国境なき楽団・海を渡る風のプロジェクトリーダー。【Panda】ゴスペルシンガー。「COCORO*CO」や「ビックリトル」そしてソロ等で活動。各地でクワイア指導。NPO 国境なき楽団理事。音楽を通して愛と平和を伝えるべく多彩な活動を行っている。

東野祥子

振付家・ダンサー。ダンスカンパニーBABY-Q 主宰。身体から織り成される感情の起伏や衝動、個々の人間の本質をダンスの根底に置き、ダークかつカッティングエッジな電子音響と機械仕掛けの硬質な美術、様々なモチーフの交錯する舞台を創りだす。ソロダンス活動として、煙巻ヨーコ名義で即興アーティストとのセッションをクラブ・ライブハウス・ギャラリー・野外等で展開。2004 年 TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD 2004『次代を担う振付家賞』、2005 年横浜ソロ×デュオ〈Compe´tition〉＋群舞部門『未来へ羽ばたく横浜賞』、2006 年オン★ステージ新聞『ベスト新人振付家賞』、2009 年『舞踊批評家協会新人賞』等、受賞多数。

4plus

箏奏者。桐朋学園芸術短期大学で出会ったメンバーが、二十五絃箏の持つ魅力に魅せられ、普及と作品創作を目的に 2009 年に結成した。二十五絃箏の普及や作品創作を目的としたシリーズを定期的に自主開催し、魅力を実感していただこうと取り組んでいる。また、学校公演、地域参加型ワークショップ等のアウトリーチ活動、イベント等様々な場面で幅広く音楽活動を展開している。メンバーはそれぞれにコンクール受賞歴があり、多方面で音楽活動も展開している。

深澤純子

アートファシリテーター多摩美大卒。～89 年まで同校勤務。アート、ジェンダーのワークショップを女性センターや社会教育施設等多数手がける。現在、NPO法人ヒューマン・サービスセンター主宰、港区コミュニティカフェを運営。ジェンダー論で神奈川大学の講師を務める。横浜在住。

藤井聡子

日本画家。1974 年 長野県生まれ。'97 年 女子美術大学日本画専攻卒業。'98 年 第 53 回春の院展 初入選('12 奨励賞受賞)、再興第 83 回院展 初入選('11 奨励賞受賞)。'99 年 東京藝術大学大学院 保存修復日本画 修士課程修了。2002 年 東京藝術大学大学院 後期博士課程修了、博士研究 野村賞受賞 博士学位(文化財)取得。'06 年 第 12 回松伯美術館花鳥画展 優秀賞受賞。'10 年 第 8 回雪舟の里総社墨彩画展 特選受賞。'11 年 個展（銀座みゆき画廊)。'12 年『日中美術展』(東京美術倶楽部)。現在 日本美術院 院友。慶応義塾大学・女子美術大学 非常勤講師。

藤原ちから

編集者、フリーランサー。1977 年、高知市生まれ。中学進学と共に単身上京。2012 年秋から横浜在住。立教大学法学部政治学科卒業後、職を転々とし、出版社勤務の後、現在はフリーランスの編集者として活動。雑誌「エクス・ポ」、武蔵野美術大学広報誌「mauleaf」などを編集している。共編著に『〈建築〉としてのブックガイド』(明月堂書店)。また日本の現代演劇について各媒体に劇評・紹介記事・インタビュー記事等を書いており、共著に『演劇最強論』(飛鳥新社)がある。近年は演劇教育の現場にも関わるようになり、2012 年夏には世田谷パブリックシアターで高校生向けワークショップのファシリテーターを務めたほか、同劇場のワークショップやレクチャーに関する活動を紹介する冊子「キャロマグ」を刊行し、編集に携わっている。

古川はじめ

音楽家。多様なジャンルからミュージシャンが集まり、独自の音楽で活動する東京カンソンのメンバー中から、個性的でアフリカ、中南米等世界の民族音楽の要素をふんだんに盛り込みながら、独特なハーモニーと透明感のある歌声で、日本の童謡叙情歌、民謡等を、現代的、斬新なアレンジで次世代に歌い継ぐ。今回は、東京カンソンから、4人のメンバー選出による企画。

堀江治喜

HIP-HOP プロダンサー、ダンス講師。日本の HIP-HOP 第一号。16 歳にしてブレイクダンサーとして仕事を始める。ロンドン、NY へ渡り、オールジャンルのダンスを習得。小室哲哉プロデュースのヴォーカル＆ダンスユニット「trf」でメジャーデビュー。浜崎あゆみのデビューからのダンサーを2005 年まで務める。全国の中学校の必修科目となった「リズムダンス」の指導用教材「中学校ヒップホップダンス指導の教科書」の制作を手掛ける。

前田侑太郎

大蔵流狂言師。昭和 63 年生。善竹富太郎に師事。桐朋学園芸術短期大学演劇専攻卒。各種公演、アウトリーチに活躍中。

間下邦彦

役者、歌い手:『オペレッタ劇団ともしび』所属。1961（昭和36）年、岐阜県生まれ。日本福祉大学在学中に「うたごえサークル」にて活動。卒業後、うたごえの魅力にひかれて「歌声喫茶ともしび」(株式会社ともしび)に入社。その後「オペレッタ劇団ともしび」の役者として全国で公演。また、「歌声喫茶ともしび」の歌い手として活躍中。主な出演作品:『邦さんのおはなしげきじょう』 オペレッタ『いのちのバトン』『シンプルプレイで2つの寓話劇(はなし)』 オペレッタ『金剛山(クムガンサン)のトラたいじ他』『おもしろどんどん』

松井イチロー

松井イチロー＆LA NOCHE代表。7 月 5 日生まれ 神奈川県座間市出身 横浜市在住。中学生時代に吹奏楽部でラテンパーカッションに出合う。高校時代にフュージョン・カバー・バンドを結成。ドラムを担当し、地元でコンサートを開催した。農業大学に進学してジャズを学ぶ。「ジャズ研究会」サークルのラテン愛好家を集めてラテンジャズバンド「LA NOCHE」を結成、神奈川・東京のライブハウスで活動を行う。自らの活動の場を広げる為に、ライブハウスの企画にも積極的に参画する。マイカル本牧アポロシアターの「横浜サルサナイト」、渋谷 Egg-man の「Egg-mambonight」、旧横浜バンドホテルの「プンタ・デル・エステ」等をプロデュースした。現在は「LA NOCHE」の他に小編成ラテンジャズバンド「GRUPO CERVEZA」と、オリジナル曲を中心としたサンバ・ボサノババンド「JYOSAMP」を主宰する。参加する「LATINESTRELLA」と共に、北海道から沖縄まで全国各地を演奏活動で旅している。演奏活動の傍ら農業を実践。約五反の畑を借りて露地野菜の栽培を行う。収穫した季節の野菜は、軽トラックで昔ながらの「引き売り」をして直売している。

丸田美紀

箏曲演奏家。長崎県佐世保市出身。沢井忠夫、沢井一恵、菊雅楽孝子に師事。古典から現代曲の新作初演、録音、即興演奏等、国内外の音楽祭やリサイタルに、またソロとしても積極的に活動を行うほか、沢井忠夫合奏団団員、 KOTO VORTEX やモノフォニー・コンソート（音楽監督・藤枝守）のメンバーとしても柔軟な感性とその適応力で様々なアプローチを行っている。三重大学非常勤 講師。

ミカラ・ペトリ

リコーダー奏者。3 歳よりリコーダーを始め、5 歳でデンマーク・ラジオに出演。チボリ公園コンサートホールにて、10 歳でコンチェルト・デビューを飾る。以降、

世界各地で演奏活動を行う。1992 年に、デンマークのギタリスト兼リュート奏者、ラース・ハンニバルとデュオを結成。ドイツ・レコード大賞を 2 度にわたって受賞。これまでに著名音楽家が受賞したレオニー・ソニング賞を受賞している。

峯崎圭輔

音楽家。神奈川県出身。国立音楽大学打楽器科卒業。同大学アドヴァンスド・ソリストコース修了。'05 年、TIAA 全日本クラシック音楽コンサート優秀賞受賞。同年、日本クラシックコンクール全国大会出場。'06 年、日本クラシックコンクール全国大会第二位(一位なし)'07 年、安倍圭子・ジブコヴィッチのマスタークラスを受講。'09 年 12 月、ソロパーカッション・デビューリサイタルを開催。'10 年 4 月、打楽器エンターテイメントグループ「Funcussion」のメンバーとして TV に出演。'12 年 4 月、ソロパーカッションライブ「Recitalive」を開催。クラシックのみならず、ドラムやラテン楽器などのポピュラー演奏や、マーチングにおけるスティックパフォーマンスなど多彩なテクニックを持ち合わせ、ソロやアンサンブル、吹奏楽、オーケストラ、ミュージカルなど幅広い分野で活動中。その他、打楽器アンサンブルの作編曲や吹奏楽指導、後進の指導にも力を入れている。これまでに打楽器及びマリンバを、上野信一、新谷祥子、奥田真広、木次谷紀子の各氏に師事。伊勢原ミュージックアカデミー打楽器&ドラム講師。

民族歌舞団　荒馬座

講師は全員舞台公演を中心に行う公演班に所属。保育園・小中学校・一般向け公演を行う一方、太鼓・民舞講習会の講師及び講師助手として活躍中。

向山佳絵子

チェロ奏者。1985 年、第 54 回日本音楽コンクール第 1 位入賞。東京芸術大学を経て 90 年、ドイツ・リューベック国立音楽大学に留学し、同年、第 10 回ガスパール・カサド国際チェロ・コンクール第1位入賞。88 年、第 3 回アリオン賞審査委員奨励賞受賞。92 年、第 2 回出光音楽賞受賞。NHK交響楽団、東京都交響楽団をはじめ数多くの国内外オーケストラとも共演して 98 年にはNHK-FMの人気番組「おしゃべりクラシック」のパーソナリティをつとめた。現在、東京芸術大学非常勤講師。2013 年 7 月からはNHK 交響楽団首席チェロ奏者に就任。

村山二朗

篠笛奏者。1989 年に和太鼓集団「鼓童」でプロデビュー。`91 年に縄文・自然・祭をテーマにした自己バンド「レブンカムイ」を結成、和洋楽器混成ユニットのパイオニア。ホールやライブハウスはもとより、神社仏閣、ギャラリーなど様々な空間で演奏を展開。多彩な音色の曲作りに定評があり「沙也可 SAYAKA-」を含む 6 枚の CD アルバムを発表。また、木の実ナナ主演ミュージカル「阿国」、阿木燿子プロデュース「フラメンコ曽根崎心中」、和太鼓公演「東京打撃団」などの舞台、海外 26 カ国でも篠笛の魅力を紹介。

望月純吉

劇団文学座所属、演出家。2001 年に文学座座員になり、演出作品は『THE CRISIS－ザ・クライシス』『ダウト DOUBT－疑いをめぐる寓話－』『運転免許 わたしの場合』他。アメリカ・ブロードウェイ作品の日本初演プロデュースについても積極的に活動し、ロングランヒットを記録した『ダウト』の日本初演を実現させた。

諸田由里子

ピアノ。桐朋学園女子高等学校、桐朋学園大学卒業。同大学の伴奏研究員及び室内楽研究科を修了。第一回淡路島国際室内楽コンクール第二位受賞。第一回日本室内楽コンクール優勝。イタリアのキジアーナ音楽院に全額スカラシップを得て留学。その後ウィーンに留学。帰国後はソリストとしてのリサイタル活動はもとより、多くのアーティストとのリサイタルの共演や、室内楽奏者としても数多くのコンサートに出演。

山添ｊｏｓｅｐｈ勇

美術家。アートユニット「深沢アート研究所」代表。1975 年生まれ。身時かな素材や事柄をテーマにした美術作品の制作(イ ンスタレーションや平面)と平行して、1998 年からこども造形のアイデア制作やワークショップの企画・実施を活動とする美術家。こども造形教室や美術館やアートイベントなどさまざまな現場で、毎日こどもと接しながら「こども」と「アート」と「つくる・発見・研究」を考える。＜主な活動＞NHK 教育「つくってあそぼ」造形スタッフ、 NHK 教育「みいつけた」造形アイデア制作、清水建設 CM、丸の内 kids フェスタ、「パーク展」アジアの現代美術作家 2008(企画運営)、食と現代美術(BankART1929)、ワークショッププログラム制作(NPO 法人 CANVAS により、東大、慶応大、秋葉原など各地で実施)、ワークショップコレクション(CANVAS)、ころころコース世界〇〇旅行へん(KOKUYO)、短期のこども造形教室 in 松嶺福祉短大。など。深沢アート研究所 http://www.hukalabo.com

ユキ・アリマサ

ジャズ・ピアニスト。3歳よりピアノを始め、12歳頃オスカー・ピーターソンを聞いてジャズに魅了され独学で勉強。玉川大学英米文学科卒業後、渡米。バークリー音楽大学でジャズピアノ演奏、作編曲を学ぶ。ピアニストとしてハンク・ジョーンズ賞、デューク・エリントン作曲賞を受賞。1986年に卒業後、同校ピアノ科助教授として勤務。帰国後、Yuki Arimasa Trio のリーダー及び作編曲家として活動を続ける。洗足学園音楽大学ジャズコースでソルフェージュとピアノのクラスを担当。ジャズ・ピアニスト。3歳よりピアノを始め、12歳頃オスカー・ピーターソンを聞いてジャズに魅了され独学で勉強。玉川大学英米文学科卒業後、渡米。バークリー音楽大学でジャズピアノ演奏、作編曲を学ぶ。ピアニストとしてハンク・ジョーンズ賞、デューク・エリントン作曲賞を受賞。1986年に卒業後、同校ピアノ科助教授として勤務。帰国後、Yuki Arimasa Trio のリーダー及び作編曲家として活動を続ける。洗足学園音楽大学ジャズコースでソルフェージュとピアノのクラスを担当。

横浜シティオペラ

1983 年創立、2004 年にNPO 法人化。横浜を拠点に地域密着型のオペラ及びコンサートを企画運営している。上記出演者は同団体会員。NPO 法人横浜シティオペラ主催の各種オペラ・歌曲コンサートに出演の他、その他の歌劇団公演や、コンサートに出演活躍中。

横山奈加子

ヴァイオリン。桐朋女子高校音楽科、桐朋学園大学音楽学部を卒業後、同大学ソリストディプロマコース終了。 1991年第60回日本音楽コンクール第3位。1992年第5回日本国際音楽コンクール奨励賞。1994年第10回チャイコフスキー国際コンクールにて第5位。その後、新日鉄プロミシング・アーチスト・シリーズで紀尾井ホールにて、リサイタルを行い好評を博す。JT アートホール室内楽シリーズで、世界的ヴィオラ奏者のユーリ・バシュメット氏とも共演。2007年には、トッパンホールにて「冬の情景」と題し、ピアノに野平一郎氏を迎え、ロシアの作曲家ばかり集めたリサイタルを行い好評を博す。2008年より活動しているピアニスト高橋礼恵氏との DUO では、音楽の友社誌上の「2009年のコンサートベスト10」 に選ばれる。その他、NHK－FM などにも出演。NHK、毎日新聞社主催の全日本学生音楽コンクールの審査員なども務めている。

吉原佐知子

箏。東京芸術大学邦楽科生田流箏曲専攻卒業。NHK 邦楽技能者育成会卒業。現代邦楽研究所第1期卒業。同所にてビクター邦楽技能者育英賞受賞。全国高校生邦楽コンクール準優賞。賢順記念全国箏曲コンクール銅賞、奨励賞受賞。NHK オーディション合格。「和楽器にチャレンジ箏」(汐文社出版)執筆担当。日本三曲協会、生田流協会、森の会、あいおいの会会員。2010年 旧東京音楽学校奏楽堂にてリサイタル開催。洗足学園音楽大学現代邦楽コース非常勤講師。

米澤浩

邦楽奏者。尺八。宮田耕八朗氏に師事。78 年日本音楽集団入団。内外のオーケストラとの共演経験も多く、現在に至るまで200公演以上の海外実績を持つ。コンサート活動の以外にもワークショップや専門的な講習会の講師など活動の幅は広い。日本音楽集団団員。(財)地域創造邦楽コーディネーター。《島根邦楽集団》顧問。

りぽあのぴっち＋

歌、ピアノ、ヴァイオリン、フルート、ユーフォニアム、打楽器(マリンバ)、ダンスで構成されたアンサンブルユニット。いわゆる典型的な編成ではないが、『こうしたら面白いかも…』という枠にとらわれない自由な発想で、クラシックを中心とした音楽を発信している。また+は、コラボレーションや繋がりを表している。私たちが音楽を創造し、その表現を叶えるとき、「誰かと繋がりたい」という想いがある。さらに、聴いてくれた人の心が+になるようなひとときを提供していきたい。

Rainbow Jam

高山京子:俳優。専門学校ミュージカル科を経て S&Sentertaiment、RaibowJam へ。東宝ミュジーカル「レ・ミゼラブル」をはじめ TV・舞台多数出演。S&Skids こどもミュジーカル演劇教室講師や地域の指導者として積極的に取り組んでいる。中川梨恵:バレエ・モダン・ジャズ・タップなど様々なダンスを学びのちに日本舞踊も始める。俳優・ダンサーとして活動。こどもミュジーカル演劇教室ダンス講師。福嶋仁美:ミュジーカル科にてミュージカルの基礎を学ぶ。TV 番組にバックダンサー出演。現在は俳優として舞台で活躍。

渡辺峨山

邦楽演奏家。9 歳より父渡辺蚕山に尺八の手ほどきを受ける。12 歳の時始めて聴いたビートルズに感動し、以来お決まりの音楽三昧の日々。優しく温かい音色と、渡辺峨山ならではのアドリブも聴き物。「箏座」メンバーとして、1991 年ビクターレコードよりデビュー。現在、古典演奏の傍ら「箏座」・「空海」・「JPSS」など、自ら率いるバンドでも活動。

【コーディネータープロフィール】

■コーディネータープロフィール

担当したコーディネーターの団体概要は、以下の通りです。実施時点のもので、順不同です。

企業組合　Media　Global（メディアグローバル）

2005 年横浜市より認可を受け、アートマネジメント管理事業を主軸とする芸術系企業組合として発足。母体は 1998 年設立の市民芸術文化グループ「企画集団夢現 MUGEN」。子どものワークショップを得意として活動してきた。これまで行政との協働事業による「ワークショップ」、市民対象の「アートマネジメント講座」や若手アーティスト支援の公演などジャンルは多岐にわたる。2006 年より「横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム」のコーディネーターを担当。

http://www.mediaglobal.info

よこはま音楽広場実行委員会

よこはま音楽広場は「地域にひらかれた音楽（コミュニティ・ミュージック）」を実施するため、平成 19 年に発足しました。平成 19～20 年度には横浜市市民活力推進局による「文化芸術の創造性を活かした地域づくり事業」として横浜市鶴見区に在住の外国人と近隣の住民を対象としたワークショップを行い、演奏家を交えたコンサートを行いました。平成 20 年度から「横浜市芸術文化教育プログラム推進事業」「クラシック・ヨコハマ　サロンコンサートブリッジ」の事業に携わり、病院や小学校などに演奏家を派遣し、体験型のコンサートを行いました。平成 23 年度「横浜アートサイト」の事業に携わり、神奈川県立こども医療センターにて、コミュニティ・ミュージックセラピー（CoMT）を実施しました。教育や福祉、または医療機関などで音楽を行う意味や意義を領域横断的な視点から研究しています。

特定非営利活動法人 子どもに音楽を

世の中には素晴らしいものがたくさんあります。それらを出来るだけ多くの子どもたちに伝え残すことが、私たち大人の大切な役目だと思います。その一つとして、一流の演奏家による生の演奏を小中学生の子どもたちに聴いてもらいたい、演奏家の息づかいや楽器の持つ魅力ある音と響きから、機械ではない、人間の心から紡ぎ出される音楽に接してほしいと考えています。平成 18 年の設立以来、各地の小中学校等で 129 回の演奏活動を実施しています。協力下さっている演奏家は国際的にも活躍、NHK 音楽番組にも度々出演なさっている、現在第一線で演奏活動を行っている方々です。又、これまでにイ・ムジチ合奏団をはじめ来日中の海外演奏家にもご協力頂いています。

http://www.kodomoniongakuwo.sakura.ne.jp/

特定非営利活動法人 横浜こどものひろば

あそぶ・まねる・つくる・みるなどをテーマに、神奈川県認証の NPO 法人として横浜こどものひろばを設立。これまでに 440 回（法人化以前も含む）の舞台の創造的鑑賞体験の機会と、多くのあそびのひろば等々を開催しています。横浜こどものひろばは、子どもの日常と子どものための「あそび」「芸術文化体験」を結ぶことが、日本の子どもが育つ環境を考えた時に、子ども自身の大切な育ちの場となると考えています。そこでは、子ども自身が参加して創り出す「瑞々しい子ども時代」、「豊かな子どもの時間」を大人と一緒に生み出し、子どもにとって必要な子どもの文化が豊かになることを目的としています。参加者は0才～80代まで、様々な年令の異なる人たちで創ることも大切にしています。近年は、従来行なってきた4才以上のプログラム以前の時代、0才～3才までの子どもとその親たちの芸術文化体験による子育てひろばを毎月開催しています。

http://www.yokohama-kodomo.com

特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち

NPO 法人芸術家と子どもたちは、2001 年に設立された特定非営利活動法人です。多様な価値観・考え方・身体感覚を持つ人々が共生する社会を創出するため、子どもたちとアーティストとの出会いを通じて、創造的な学び・遊びの機会をつくりだす活動をしています。「ASIAS（エイジアス）」(Artist's Studio In A School の略)は、公立の小中学校、特別支援学級、幼稚園、保育園などにおいて、アーティストと先生が協力してワークショップ型の授業を実施する活動です。横浜市芸術文化教育プログラムでは、平成 19 年度より毎年いくつかの授業をコーディネートしています。他、地域コミュニティにて活動する「ACTION！（アクション）」などを展開しています。

http://www.children-art.net/

ART LAB OVA アートラボ・オーバ

『ART LAB OVA』は、制作経験の有無やしょうがいの有無、年齢、国籍に関係なく、アートを通じた交流ができる場をつくっている非営利のグループとして 1996 年から活動をしています。横浜唯一の独立系映画館「シネマ・ジャック＆ベティ」1 階の横浜パラダイス会館を拠点に、映画館やスナック、商店街、動物園、学校、福祉施設など、まちの狭間で「場」や「出来事」を通じて「関わり」を探るアートプロジェクトを展開しています。

http://www.facebook.com/artlabova

民族歌舞団　荒馬座

荒馬座は 1966 年に東京の板橋に生まれました。私たちの祖先が働く中からつくり出してきた民族芸能を舞台化し、首都圏を中心に公演活動をおこなっているほか、学校教育の中で、「日本の伝統文化」や「和楽器の学習」が重視されている近年、先生方の研修や模擬授業、学年や学級の子どもたちの体験学習など様々なプログラムに対応した出張講師活動もおこなっています。

自然や命をいとおしむ心、生きる知恵、協同の喜び、困難を乗り越える強さや明るさが込められた民族芸能を通して「明日を生きる力」となるような舞台や、人と人とをつなげる文化活動を広げています。http://www.araumaza.co.jp/

アートの時間

アートの時間は、戸塚区を拠点に音楽・演劇・美術・ダンスといった分野のアートイベントやアートプログラムの企画運営をやっています。大きなホールや劇場では味わえないアーティストの息遣いまで感じられるような場づくりを目指しています。

特に学校でのワークショップは、子どもたちが「日常」をより豊かに生きるために、アーティストの感性に触れるという「非日常」の体験を通して、『いつもと違う自分』の発見をしてもらえたらと思っています。

NPO 法人 Offsite Dance Project（オフサイト・ダンスプロジェクト）

Offsite（オフサイト）は、「日常の場を離れて」の意。Offsite Dance Project は、劇場以外のさまざまな場所でダンスを軸としたパフォーミングアーツを推進するチームとして 2008 年 3 月に結成。2009 年 6 月 NPO 法人設立。公共交通機関や近代建築、美術の建物資産、商業空間、ストリートなど、横浜を拠点に国内外の都市空間で、多分野のアーティストによるアクセスビリティの高いプロジェクトを企画・制作。また、2009 年より、アート教育のコーディネートを実施し、パフォーミングアーツの普及に取り組んでいる。

http://www.offsite-dance.jp

NPO 法人横浜シティオペラ

長年にわたって横浜市の音楽の発展に力を尽くし、また日本のオペラ界にも多大な貢献をした故・佐藤美子の跡を継ぎ、1983 年、横浜市教育委員会の指導のもとに、横浜市在住の音楽家 30 名によって、発足した。その後、市・県の助成を受け、青少年から大人までを対象としたオペラを上演する一方、オペラアリア、歌曲のコンサートを行っている。さらに平成3年より、オペラ・ガラ・コンサート、大ホールでのオペラ、中ホールでの室内オペラの3本による『神奈川オペラフェスティバル』を 21 年間連続で催している。地域の文化発展に貢献した功績により、1993 年に神奈川文化賞、1995 年に横浜文化賞を受賞。

http://www.cityopera.jp/

青葉区民文化センター フィリアホール

フィリアホールは 1993 年にオープンしたクラシック音楽ホールです。内外で活躍する一流のアーティストの公演を年間約 30 回主催し、また、音楽愛好家・アマチュアの方々の音楽の練習や発表の場として数多く利用され、地域密着型のホールとして地元の皆様を中心に広くご愛顧いただいています。ファミリー・コンサートや2、3 才児向け音楽ワークショップ、オープンデー、楽器体験のほか、2007 年度からは青葉区・緑区の公立小学校への

訪問コンサートを実施し、「音楽の喜び」の幅広い普及に日々努めています。
http://www.philiahall.com

泉区民文化センター
テアトルフォンテ

テアトルフォンテは 1993 年に開館した、演劇やダンスの上演に最も適した「ホール」を中心とする文化施設です。観る・演じる・創る――この3つの活動を通し、地域の交流、文化活動の活性化の発展に努めています。一般公募の市民が出演する市民参加型ミュージカルを始め、子供から大人までを対象にした演劇・音楽・ダンスなどのワークショップの開催、また暮らしの中で役立つものづくりを行う創作講座、地域のアーティストを招いてのコンサート事業など、芸術鑑賞の場を提供するとともに、文化活動支援にも力を入れ、「ものづくり」を行う場所としての使命と役割を担います。
http://www.theatre-fonte.com

栄区民文化センター
リリス

1998 年にオープンしたリリスは、県内屈指の響きを誇るコンサートホールを中心とした文化センターです。内外の一流アーティストを招いてのコンサートや、若手アーティスト支援を目的とした「リリス・レジデンス・アーティスト」事業など、クラシック音楽に力を入れた事業を展開しています。また、2007 年度より継続して実施しているアウトリーチコンサートや、0 歳から楽しめるファミリーコンサート、気軽に参加できるリリス de 講座や子ども向け造形美術ワークショップ「コドモアートキャラバン」など区民の皆さまが文化芸術に触れ合う多様な機会を提供し、地域の文化発展に貢献できるよう努めています。http://www.lilis.jp

神奈川区民文化センター
かなっくホール

かなっくホールは 2004 年の開館以来、「集い、ふれあい、つくりだすこころを、ここかなっくホールから」をキーワードに、区民のみなさまへの上質の芸術鑑賞機会の提供にとどまらず、地域の中に芸術文化の担い手を増やす働きかけにも積極的に取り組んでいます。地元の若手アーティスト支援事業「From かなっく」や、区民のみなさまにイベント企画制作の様々なスキルを身につけ、実践していただく「アートマネジメント講座」と「区民プロデュース企画」、地元アーティストや講座受講者による区内での様々なアウトリーチ活動、また地元の文化活動団体の初めてのホール公演をサポートする「ステップアップ・プログラム」など、区民が日常生活の中でアートに触れ合い、自らの手で芸術文化を発信するための拠点として区民文化センターを活用する、“区民がつくる文化のかたち”をめざした事業展開を行っています。
http://kanack-hall.jp/

港南民文化センター
ひまわりの郷

私共、京急グループ共同企業体は平成 18 年度より、指定管理者として、上大岡の中心にある「港南区民文化センター」を運営してまいりました。地域の方々のニーズに答えながら、年間 50 本程度の様々な事業を展開しております。子どもからシニアまで幅広い年齢層に対応するコンサートや体験型イベントを行なっています。（低料金で質の高いクラシックコンサート、乳児も対象の親子で楽しむ音楽コンサート、シニアを対象にした日本の伝統芸能（邦楽、落語）、小・中・高生のストリートダンスコンテスト他）http://www.himawari-sato.com

NPO 法人アートプラットフォーム
急な坂スタジオ

急な坂スタジオは、舞台芸術（現代演劇・ダンスなど）の創造拠点として、2006 年 10 月にオープンした横浜市による公設民営の文化施設です。元結婚式場の旧老松会館を転用し、大小5つのスタジオ、市民向けのコミュニティ・ルームなどを備えた稽古場として、地域とアーティストの交流の場を生み出しています。また、横浜を基点とした創造・発表のあり方を模索しながら、次世代の舞台芸術を担う人材も育成・集積し、横浜から世界へと羽ばたくバックアップを図っています。
http://kyunasaka.jp/

株式会社シグマコミュニケーションズ
久良岐能舞台

横浜市磯子区の自然豊かな場所に位置する久良岐能舞台では、能楽をはじめとする古典芸能の稽古や発表会、茶室でのお茶会等、市民に開かれた能舞台として利用されています。四季折々の草花が楽しめる庭園では散策も楽しめます。株式会社シグマコミュニケーションズでは劇場管理、ホール運営事業を推進しております。そんな中で平成 18 年 9 月より久良岐能舞台の指定管理者として運営・管理を横浜市より受託しております。一年間に自主事業を 10 公演程開催しており、10 月にはメセナ活動として近隣地区小学校を無償招待する小学校向け狂言鑑賞教室を開催する等、地域から愛される能舞台を目指して活動しております。http://www.kuraki-noh.jp/

鶴見区民文化センター
サルビアホール

2011 年 3 月に開館した横浜市鶴見区にある文化施設。通常時 548 名を収容し、音楽・演劇・ダンスなど用途に合わせて使用できる多目的ホールの他に、100 名を収容する残響豊かな音楽ホール、自由自在に芸術作品を展示できるギャラリー、リハーサル室、練習室を兼ね備えています。貸館業務・自主事業制作を行うほか、地域の文化振興と鶴見の文化拠点として、近隣学校等においても多角的な活動を目指しています。自主事業の中ではレジデントアーティストを起用した公演を行っており、特に音楽系プログラムにおけるご協力ができるものと思います。それ以外にも、他文化施設、文化団体とのネットワークを活かして多彩なアーティストのコーディネートをさせていただきます。
http://salvia-hall.jp/

戸塚区民文化センター
さくらプラザ

さくらプラザは、2013 年 8 月開館の芸術文化施設です。戸塚駅に直結し、アクセスの良い場所で文化の発信・拠点としてさまざまな芸術活動の普及・支援をおこないます。本格的なクラシックコンサート・伝統的な古典芸能など世界で活躍する多彩なアーティストを招き、上質な芸術体験を提供するとともに、ワークショップやアウトリーチ活動など地域への普及事業をアーティストと協力して実施します。そこに暮らす人々が文化芸術に触れる時間と空間を創造し、区民のステイタスの向上に貢献します。http://www.totsuka.hall-info.jp/

緑区民文化センター
みどりアートパーク

平成 25 年 10 月5日にオープンする横浜市緑区民文化センター（みどりアートパーク）は、文化活動の練習・発表・鑑賞・情報収集の場を提供するだけでなく、地域における活動や人材の育成・支援、地域と連携し文化の力によるまちづくりを進めることで、（1）文化活動・情報発信の拠点（2）地域の文化振興を担う人材を育成する拠点（3）地域の連携の拠点として、「地域に根差した個性ある文化づくり」に役立つことを目的に、横浜市が設置した施設です。http://www.m-artpark.com/

株式会社ワコールアートセンター
象の鼻テラス

象の鼻テラスは、横浜市・開港 150 周年事業として、2009 年 6 月 2 日に開館しました。横浜港発祥の地を、横浜の歴史と未来をつなぐ象徴的な空間として整備した象の鼻パーク内に、アートスペースを兼ね備えたレストハウス（休憩所）として、横浜市が推進する新たな都市ビジョン「文化芸術創造都市クリエイティブシティ・ヨコハマ」を推進する文化観光交流拠点の一つです。開港当時から異文化と日本文化がこの土地で出会ってきたように、象の鼻テラスは、さまざまな人や文化が出会い、つながり、新たな文化を生む場所を目指し、アート、パフォーミングアーツ、音楽など多ジャンルの文化プログラムを随時開催しています。併設した象の鼻カフェでは、文化プログラムに連動したメニューの提供などを行っています。
http://www.zounohana.com/

旭区民文化センター
サンハート

横浜市旭区民文化センター「サンハート」は、相鉄線「二俣川駅」直結の二俣川ライフ 5F にあり、交通アクセス良好な旭区民や近隣の地域の方々のための文化センターです。多目的にご使用いただける「ホール」、アコースティック音楽の公演に最適な「音楽ホール」の他、「アートギャラリー」では美術・工芸作品の展示の場として、そして、「ミーティングルーム」や各種練習室等を兼ね備えています。～人を愛するサンハート、人から愛されるサンハート～をコンセプトに、各施設の貸し出しだけではなく、旭区民の文化芸術を通じた「喜びづくり」、旭区の「地域活性化」「地域価値向上」を目指します。多彩な自主事業を展開し、芸術文化を通して、旭区からパワーを発信しています。
http://www.sunheart.info/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜市吉野町市民プラザ

吉野町市民プラザは、南区に平成元年 7 月 15 日に開館し、年開館 25 周年を迎えます。地域の身近な文化施設としてホール、ギャラリー、会議室、スタジオを備え、鑑賞・発表・練習等で多くの方にご利用いただいております。地域の拠点施設としての役割を活かし、区民の芸術文化を通じた地域の発展と活性化を目指しています。施設での芸術鑑賞・体験型事業のみならず、地域文化団体や学校との連携・サポートを図り、地域に根ざした活動を行っています。
http://www.yaf.or.jp/yoshino/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜市民ギャラリーあざみ野

横浜市民ギャラリーあざみ野は、美術・工芸を基本としつつ、ジャンルを超えた「創造性溢れる表現活動」を幅広く育み、創造性を介して人と人とが交流することのできる、市民と創造活動の出会いの場をつくることを目的としています。
http://artazamino.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜美術館

1989 年開館の横浜美術館は、みる、つくる、まなぶ、を掲げ開館以来鑑賞と共に、制作プロセスを通した美術館普及に力を入れてきました。今回の学校訪問のプログラムでは、横浜美術館の事を知ってもらい、美術に興味を持ち親しんでいくことのきっかけとし、生徒さんの美術館を訪れての創作や鑑賞につながればと考えています。
http://www.yaf.or.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜にぎわい座

横浜にぎわい座は、落語、漫才、大道芸など、大衆芸能の専門館として生まれました。 かつて寄席や芝居小屋が立ち並び、連日華やいだ横浜の町。伝統を今に受け継ぎ、芸能を味わっていただく場、そして新しい芸能を生み出す場として、横浜にぎわい座は歩んできました。芸能ホール（391 席）は、やぐらをイメージした舞台廻りや桟敷席、仮設花道など大衆芸能の雰囲気を演出した空間で、毎月 1 日～15 日は落語、漫才、マジック、民謡など様々な主催公演を開催しています。また、その他に、小ホール・練習室・制作室を備え、各種の練習や創作活動にご利用いただけます。施設の管理・運営は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が行っています。
http://www.yaf.or.jp/nigiwaiza/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜赤レンガ倉庫１号館

横浜赤レンガ倉庫1号館は、明治政府によって 1913 年に創建された横浜市を代表する歴史的建造物です。 当館は、コンテンポラリーダンスと現代アートを中心に、国際的なダンス振付のコンペティションやダンス公演など世界へ発信される事業を推進しています。特にその中心事業である「横浜ダンスコレクション EX」は、「若手振付家の育成」と「コンテンポラリーダンスの普及」、アジアの振付家を世界に発信するための「ダンスマーケットの構築」を目指し、これまで成果をあげてきました。現在は、世界のダンスシーンの発展に貢献できる存在となるべく、そのプラットフォームとしての役割を拡充し、世界のダンス関係者が集う貴重な機会を創出しています。
http://www.yokohama-akarenga.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
横浜みなとみらいホール

横浜みなとみらいホールは、横浜の新都心「みなとみらい21地区」にあります。横浜港に向かって開け、若い街ならではの活気に満ちた明るいエリアです。1998 年 2 月に小ホールが稼動を開始し、同年 5 月には大ホールも合わせてグランドオープンとなりました。以来、年間 600 回を超える演奏会の場として、横浜市民はもちろんのこと、国内海外のアーティストからも横浜を代表するホールとして親しまれています。
http://www.yaf.or.jp/mmh

神奈川県立音楽堂

神奈川県立音楽堂は、1954 年、公立施設としては日本で初めての本格的な音楽専用ホールとして開館しました。ロンドンのロイヤルフェスティバルホールをモデルに、最高の音響効果をあげるように設計されたホールは、開館当時『東洋一の響き』と絶賛され、その響きは今も国内はもちろん海外からも高い評価を受けています。ホールの壁面はすべて「木」で作られており、そのアコースティックな響きは 50 年を経た今でも人々に感動をあたえつづけています。
http://www.kanagawa-ongakudo.com/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
岩間市民プラザ

横浜市岩間市民プラザは、保土ヶ谷区の天王町駅そばに立地する文化施設です。上映会・コンサート・発表会など、様々な目的に使用できる 181 席のホールの他に、音楽練習ができる大小４つのスタジオ、 会議や講座に最適なレクチャールーム、ギャラリー、リハーサル室を備えています。また、「午前の音楽会」などをはじめとしたコンサートや、映画の上映会の他にも、横浜ビジネスパークや橘樹神社への出前公演なども行うなど、地域に密着した自主事業を数多く行っています。
http://artazamino.jp/

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
協働推進グループ

（財）横浜市芸術文化振興財団は美術、音楽、演劇等の芸術文化活動を総合的に振興し、開港以来培われてきた豊かな文化的伝統の維持と、横浜市独自の芸術文化の巣新を図り、もってゆとりと生きがいに満ちた市民生活の実現と国際文化都市・横浜の進展に寄与する目的で平成14年度に設立されました。平成16年度以来「芸術文化教育プログラム」を横浜市、市教育委員会、STスポット横浜とともに協働事業として市内の小・中・特別支援学校において実施しています。協働推進グループも「芸術文化教育プログラム」を市内学校においてコーディネータとして参画し、アーティストを講師として派遣し、美術、伝統芸能等の授業を実施しました。
http://www.yaf.or.jp/ycc/

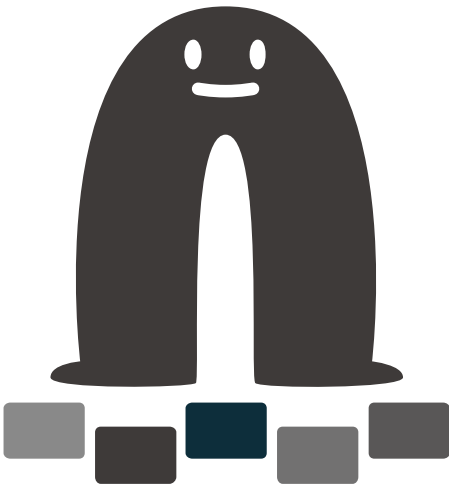
NPO 法人 ST スポット横浜

STスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和 62 年に発足しました。小劇場「STスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。
http://stspot.jp/

【各種資料】

横浜市芸術文化教育プラットフォーム
平成 25 年度　学校プログラム　募集要項

～小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の先生方へ～



アーティストが学校へ！

募集〆切[延長しました]：平成 25 年 3 月 22 日（金）

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

横浜市文化観光局

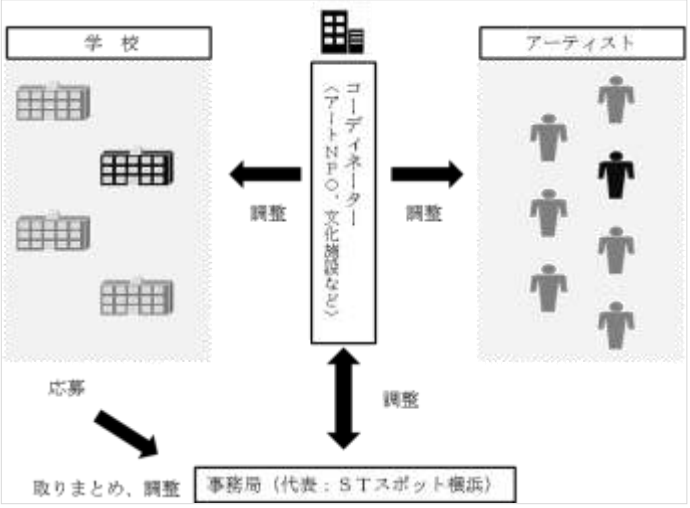
横浜市教育委員会

１．学校プログラムの概要

（１）学校プログラムとは？

芸術家が、直接学校へ出かけます　平成 16 年度にスタートした、子どものための芸術文化・教育事業です※ 。音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家（アーティスト）が、直接学校へ出かけます。「体験型プログラム」と「鑑賞型プログラム」の２種類があります。

コーディネーターと先生が、事前に実施内容を調整します　学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科等のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生が持っている情報と、コーディネーターがもつ文化芸術分野に関する専門知識をかけ合わせることで、効果的なプログラムが実施できます。



アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします　私たちは、芸術文化のもつ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく過程を大切に考えています。教科等との連動以外に、コミュニケーション能力の育成など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するのがアートです。自由な発想を導き、豊かな感性を育てることで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。

※横浜市芸術文化教育プラットフォームとしては平成 19 年度より実施しています。

（２）学校プログラムには、２つの種類があります。

体験型プログラム　３日程度のプログラムです。具体的な体験を通して、アーティストとともに様々なジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。対象は一つの学年、取組みは１～２クラス単位で行います。４日～１２日程度のプログラムにも取り組みます※ 。

鑑賞型プログラム　基本的に１日で終了するプログラムです。アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話しを聞くことで芸術文化を身近に感じることができます。音楽や伝統芸能の鑑賞を通して、芸術に触れる機会を提供します。対象は一つの学年です。

※文部科学省や、文化庁が実施している同種事業と連動して取組むことを想定します。該当校には、詳細を追ってご連絡します。

２．学校プログラムの募集内容

（１）応募資格と対象

横浜市立の小学校及び中学校、特別支援学校、高等学校が対象です。なお、応募できるのは、原則として各学校ごとに１校で１プログラムのみです。

（２）プログラムの種類

「体験型プログラム」「鑑賞型プログラム」の 2 種類（詳細は１ページ）あわせて、全８８校程度、採択する予定です。なお、これまでの取組み事例の一部は、プラットフォームのウェブサイト(http://y-platform.org)でも公開しています。

（３）募集期間と申し込み方法

平成 25 年 2 月 5 日(火)から 3 月 22 日(金)まで[〆切を延長しました]。メール添付かＦＡＸで、事務局へ別添の調書をお送りください。横浜市芸術文化教育プラットフォームのウェブサイト（http://y-platform.org/）にて、募集要項と実施希望調書のダウンロードが可能です。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
所在地：横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜内
メール：toiawase@y-platform.org　ＴＥＬ＆ＦＡＸ：０４５－３２５－０４１４
ＵＲＬ：http://y-platform.org/

※本事業は、横浜市の平成 25 年度予算が横浜市会において議決されることを条件として募集しています。

（４）募集にあたっての留意点

・実施希望をいただいても、全体の実施校数の枠の関係で、ご希望に添えない場合があります。実施希望が想定校数を上回った場合には、新規校・継続校のバランスや実施にあたっての取組の考え方（「期待する内容」「達成したい目標」など）等を総合的に踏まえて、事務局で選定させていただきます。何卒御了承ください。
・コーディネーターやアーティストを、応募の際に指定することはできません。
・詳細は、実施決定後に、コーディネーターと話し合っていただきます。
・コーディネーターやアーティストの謝金と交通費は、事務局が負担します。消耗品や材料などは、学校側に負担していただく場合もあります。詳しくは、実施決定後にコーディネーターとご相談ください。
・過去に取組みを行った学校でも、お申込みいただけます。ただし、以前実施した内容と同様の取組みが行われるとは限りません。

（５）実施校の採択について

以下の取組みについて、今年度は優先します。
（ア）この事業に取り組んだ連続年数が少ない学校での取組み　（イ）特別支援学校や個別支援学級での取組み　（ウ）対象学年をしぼった取組み

３．今後のスケジュール

募集（2 月 5 日（火）～3 月 22 日（金）まで）
この冊子の最後にある希望調書をお送りください。

事務局による実施校の調整（３月～４月）
一部の学校に対して、訪問・電話などの方法でヒアリングを実施する場合があります。より詳しいご希望をお知らせください。25 年度に実施しますので、担当者変更の際は、確実な引き継ぎをお願いします。

実施校への決定通知（５月より順次）
事務局と学校とで、簡単な取り決めの文書を交わし、実施を決定します。その際、コーディネーターをお知らせします。

実施に向けての調整（５月より順次）
担当コーディネーターと打合せをします。ねらい、ジャンル、回数、アーティストなどを調整します。コーディネーターに学校の詳細な希望とクラス・学年の状況をお伝えください。

アーティストの決定、実施内容の調整（随時）
学校と調整のうえ、アーティストを決定します。その後、適宜打合せを行い、プログラムを組み立てます。日程などもこの段階で決定します（その後も、必要に応じて打合せを行うことがあります）。

プログラム実施
打合せ内容に沿って、プログラムを実施します。時期は、平成 25 年度（おおむね平成 25 年 6 月から平成 26 年 3 月）の実施となります。

アンケートの実施、記録写真・映像などの確認、簡易な報告書の提出（実施後２週間程度）
プログラムの改善点やアドバイスなどをいただいた上で、次回以降によりよいプログラムをお届けできるよう、コーディネーターとの振り返り、各資料の提出にご協力ください。

※詳細は、取組実施校の通知の際にお知らせします。

４．実施希望調書の記入例

平成 25 年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	西区　　プラットフォーム小学校　　★★★★　　校長	
担当教諭名	◎◎◎◎　　ふりがな　　〇〇〇〇 （担当が決まっていない場合は、校長先生のお名前をご記入ください。） （e-mail: toiawase@y-platform.org）	
連絡先	TEL：　１２３　　―　１２３４　　FAX：　５６７　　―　５６７８	
学校の現状 学校プログラムに応募するにあたり、学校の現況について、教えてください。	**本校ではコミュニケーション能力の育成に力を入れた学校づくりを行っています。その中で、来年の２年生は、落ち着きがあって、物事を慎重に進める半面、引っ込み思案でなかなか自分の考えや気持ちを表現することが得意ではない子どもたちが多いように見受けられます。**	
期待する内容 学校プログラムでどんなことをしたいか、お書きください。	**演劇やダンスといった体を動かすジャンルの体験型、または音楽の鑑賞型を希望します。体を動かして、言葉だけに頼らない表現を通して、自分の考えや思いを恥ずかしがらずに伝える体験をさせてあげたいと思っています。またみんなで活動を行うことで、一体感を味わうことができればと思います。**	
達成したい目標 学校プログラムで達成したい目標を選択し（複数可）詳しくご記入ください。	☐表現力　☑コミュニケーション能力　☐創造力　☐想像力　☐感受性　☐集中力 ☐協調性　☐共感力　☐言語力　☐その他（　　） **この体験を通して、普段とは違う自分、そして友だちに気が付き、お互いをより理解しあいながら、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てるきっかけになればと考えています。◎教科等のねらいやかかわりも含めて、お書きください。**	
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両方ご記入ください。下記のうち、第一希望とするプログラムは　☑体験型　☐鑑賞型　です。	
	体験型　☑３日程度　☐４～12 日程度	**鑑賞型**　１日程度
予定教科等 ※複数選択可。	☐音楽　☐図画工作・美術　☐総合的な学習の時間 ☑生活　☑国語　☐社会　☐算数・数学　☐理科 ☐技術・家庭・職業　☑体育・保健体育 ☐外国語活動　☑道徳　☐特別活動 ☐ その他（　　）	☑音楽　☐図画工作・美術　☐総合的な学習の時間 ☑生活　☐国語　☐社会　☐算数・数学　☐理科 ☐技術・家庭・職業　☐体育・保健体育 ☐外国語活動　☐道徳　☐特別活動 ☐ その他（　　）
希望ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	☐音楽系　☐美術・工芸系 ☑演劇系　☑ダンス系 ☐伝統芸能系 ☐その他（　　）	☑音楽系　☐美術・工芸系 ☐演劇系　☐ダンス系 ☐伝統芸能系 ☐その他（　　）
実施対象 ※予定で可。全校での実施は不可。	2年生　2クラス、参加者数　76　人	2年生　2クラス、参加者数　76　人
実施時期 ※原則6月以降の実施となります。	10　月ごろ	1　月ごろ

５．お問い合わせ・お申込み

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
所在地：横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８　ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜内
メール：toiawase@y-platform.org　ＴＥＬ＆ＦＡＸ：０４５－３２５－０４１４
ＵＲＬ：http://y-platform.org/

※「芸術文化教育プラットフォーム」事業は、横浜市の平成 25 年度予算が横浜市会において議決されることを停止条件として募集しています。

横浜市芸術文化教育プラットフォームとは？

横浜の子どもたちの創造性をはぐくみ、豊かな情操を養う「学校プログラム」の拡大や質の向上をねらいとして、アートと地域、人々のつながる場がプラットフォームです。

横浜などで活動を続けるアート NPO や民間の芸術団体、地域の文化施設を中心に、学校、アーティスト、企業、地域、市民、行政などがゆるやかに連携・協働する場です。平成 20 年 3 月の設立以後、学校教育とアートをつなぐ「学校プログラム」を中心に、地域の課題解決へ向かう「コミュニティプログラム」、フォーラムをはじめとした情報共有を行う「中間支援プログラム」を通じて、アートの可能性をさぐっています。

平成24年度　横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム　実施校一覧

平成25年1月15日現在。都合により変更となる場合があります。アーティスト名は敬称略。コーディネーターとして施設名が掲出されている場合、当該年度の施設運営者・指定管理者等が担当していることを指します。

	学校名	学年	内容	アーティスト	コーディネーター
1	駒岡小	6	臨書	天真書法　咲碧玄会	鶴見区民文化センターサルビアホール
2	末吉小	5	アニメーション	布山タルト	横浜市民ギャラリー
3	鶴見小	6	狂言	善竹富太郎・善竹大二郎	久良岐能舞台
4	青木小	6	身体表現	武田力	急な坂スタジオ
5	浦島小	6	箏	吉澤延隆	よこはま音楽広場実行委員会
6	神奈川小	3	クラシック音楽	川田知子、田中麻紀	子どもに音楽を
7	神橋小	6	声楽	山田英津子	横浜みなとみらいホール
8	神大寺小	4	パントマイム	カンジヤマ・マイムＢ	Media Global
9	子安小	5	ゴスペル	HAL	神奈川区民文化センターかなっくホール
10	西寺尾第二小	4	ジャズ	ユキ・アリマサ	オフィスマキナ
11	羽沢小	4	箏	吉澤延隆	よこはま音楽広場実行委員会
12	南神大寺小	6	パーカッション	若鍋久美子	神奈川区民文化センターかなっくホール
13	浅間台小	全	オペラ	横浜シティオペラ	横浜シティオペラ
14	本牧南小	5	狂言	善竹富太郎・善竹大二郎	久良岐能舞台
15	間門小	6	箏	奥田雅楽之一	吉野町市民プラザ
16	藤の木小	6	尺八、箏	米澤浩、熊沢栄利子	横浜にぎわい座
17	坂本小	3	パペット	中村信子	Media Global
18	山王台小	4～6	ダンス	大島おりえ	磯子区民文化センター杉田劇場
19	屏風浦小	4	演劇	団のぼる	磯子区民文化センター杉田劇場
20	洋光台第四小	5	木炭画	黒田晃弘	横浜市芸術文化振興財団
21	並木第一小	5	和太鼓	民族歌舞団 荒馬座	民族歌舞団 荒馬座
22	西富岡小	5	打楽器	神田佳子	神奈川県立音楽堂
23	能見台南小	5	声楽	鶴川勝也	みなとみらいホール
24	下田小	2	パペット	中村信子	Media Global
25	城郷小	6	クラシック音楽	山口裕之、広海滋子	子どもに音楽を
26	新吉田第二小	6	箏	吉澤延隆	よこはま音楽広場実行委員会
27	小雀小	4	コンテンポラリーダンス	福留麻里	ST スポット横浜
28	品濃小	5	造形	深澤純子	アートの時間
29	下郷小	6・4	尺八、箏	米澤浩、熊沢栄利子	横浜にぎわい座
30	東戸塚小	5	ゴスペル	城田有子、河原厚子	横浜市芸術文化振興財団
31	平戸台小	1	身体表現	倉品淳子	ST スポット横浜
32	深谷小	3	演劇	柏木陽	アートの時間
33	俣野小	4	民族音楽	櫻田素子	アートの時間
34	港南台第一小	5	身体表現	望月純吉	横浜こどものひろば
35	港南台第三小	全	落語	（調整中）	横浜にぎわい座
36	相武山小	3	コンテンポラリーダンス	東野祥子	吉野町市民プラザ
37	永野小	3	コンテンポラリーダンス	遠田誠	吉野町市民プラザ
38	永谷小	4	クラシック音楽	中川賢一	吉野町市民プラザ
39	野庭すずかけ小	3	コンテンポラリーダンス	京極朋彦	急な坂スタジオ
40	日限山小	5	声楽	山口佳子	オフィスマキナ
41	日下小	4	コンテンポラリーダンス	太田ゆかり	芸術家と子どもたち
42	白根小	4	ボディーパーカッション	山本愛香、藤井里佳	旭区民文化センターサンハート
43	二俣川小	4	木炭画	黒田晃弘	旭区民文化センターサンハート
44	鴨居小	2	身体表現	中市真帆	横浜こどものひろば
45	竹山小	2	コンテンポラリーダンス	ＫＥＮＴＡＲＯ!!	横浜赤レンガ倉庫１号館
46	十日市場小	4	オペラ	横浜シティオペラ	横浜シティオペラ
47	山下小	5	チェロ	清水詩織	みなとみらいホール
48	二つ橋小	6	和太鼓	民族歌舞団 荒馬座	民族歌舞団 荒馬座
49	桂台小	5	ゴスペル	城田有子、河原厚子	横浜市芸術文化振興財団
50	上郷小	5・6	クラシック音楽	古川展生、小森谷裕子	子どもに音楽を
51	公田小	3～5	造形	李真希、松本光世	栄区民文化センターリリス
52	小山台小	3・4	声楽	前田進一郎、藤井麻理、中桐かなえ	栄区民文化センターリリス
53	千秀小	全	オペラ	横浜シティオペラ	横浜シティオペラ
54	豊田小	4	ラテン音楽	古川はじめ、荒谷葉子、上村純	横浜こどものひろば
55	伊勢山小	2	造形	齋藤眞紀	泉区民文化センターテアトルフォンテ
56	中和田南小	3	コンテンポラリーダンス	新生呉羽	アートの時間
57	東中田小	4	ボディーパーカッション	峯崎圭輔	泉区民文化センターテアトルフォンテ
58	あざみ野第二小	全	造形	うめぐみ	横浜市民ギャラリーあざみ野
59	美しが丘小	6	即興音楽	岡崎香奈	よこはま音楽広場実行委員会
60	鴨志田第一小	6	声楽	宮本益光	青葉区民文化センターフィリアホール
61	勝田小	6	邦楽	中村仁美	神奈川県立音楽堂
62	川和小	4	打楽器	ＴＡＭＡＫＩ	Media Global
63	山田小	5	土粘土	うめぐみ	横浜市民ギャラリーあざみ野
64	汐見台中	1	彫刻	大島康幸	横浜美術館
65	小田中	3	映像	SHIMURAbros	横浜市民ギャラリー
66	本郷中	2	木版画	高橋由貴子	横浜美術館
67	泉が丘中	1	身体表現	井上大輔	泉区民文化センターテアトルフォンテ
68	盲特別支援	全	創作	片岡祐介、北村成美	ST スポット横浜
69	浦舟特別支援	全	創作	柏木陽、片岡祐介	ST スポット横浜
70	中村特別支援	全	現代美術	ART　LAB OVA	ART LAB OVA
71	東俣野特別支援	全	笙	石川高	ST スポット横浜
72	二つ橋高等特別支援	3	コンテンポラリーダンス	Co.山田うん	Offsite Dance Project
73	本郷特別支援	中	金管楽器	Big Boss Brass Quintet	栄区民文化センターリリス
74	西寺尾小	1	コンテンポラリーダンス	山田うん	Offsite Dance Project　[スクール・オブ・ダンス]
75	小田小	1	コンテンポラリーダンス	伊藤千枝	Offsite Dance Project　[スクール・オブ・ダンス]
76	長津田小	4	コンテンポラリーダンス	黒沢美香	Offsite Dance Project　[スクール・オブ・ダンス]
77	瀬谷さくら小	6	コンテンポラリーダンス	矢内原美邦	Offsite Dance Project　[スクール・オブ・ダンス]
78	元石川小	5	コンテンポラリーダンス	東野祥子	Offsite Dance Project　[スクール・オブ・ダンス]
79	荏田南小	5	コンテンポラリーダンス	黒田育世	Offsite Dance Project　[スクール・オブ・ダンス]

申し込み先：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局　[e-mail　toiawase@y-platform.org]　[FAX　３２５－０４１４]

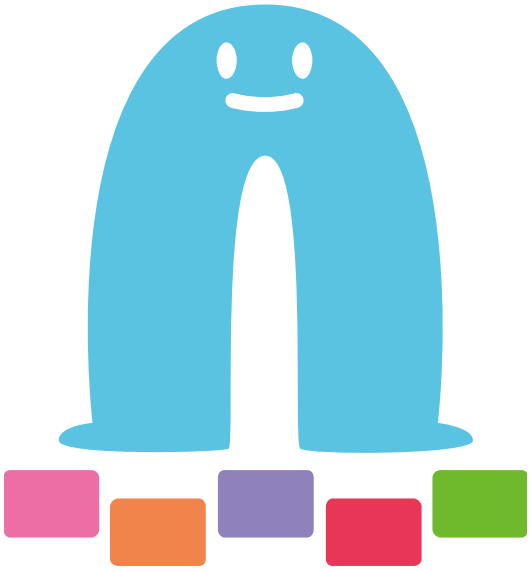
※本様式は横浜市芸術文化教育プラットフォームのサイト（http://y-platform.org/）よりダウンロードできます。

平成25年度横浜市芸術文化教育プラットフォーム／学校プログラム 実施希望調書

学校名、校長名	区　　学校　　校長	
担当教諭名	ふりがな　　(e-mail:　　)	
連絡先	TEL：　　—　　FAX：　　—	
学校の現状 応募するにあたり、学校の現況について、教えてください。		
期待する内容 学校プログラムでどんなことをしたいかお知らせください。		
達成したい目標 学校プログラムで達成したい目標を選択し（複数可）詳しくご記入ください。	□表現力　□コミュニケーション能力　□創造力　□想像力　□感受性　□集中力 □協調性　□共感力　□言語力　□その他（　　）	
希望選択	「体験型」「鑑賞型」両方ご記入ください。下記のうち、第一希望とするプログラムは、　□体験型　□鑑賞型　です。	
	体験型　□３日程度　□４～12日程度	鑑賞型　１日程度
予定教科等 ※複数選択可。	□音楽　□図画工作・美術　□総合的な学習の時間 □生活　□国語　□社会　□算数・数学　□理科 □技術・家庭・職業　□体育・保健体育 □外国語活動　□道徳　□特別活動 □ その他（　　）	□音楽　□図画工作・美術　□総合的な学習の時間 □生活　□国語　□社会　□算数・数学　□理科 □技術・家庭・職業　□体育・保健体育 □外国語活動　□道徳　□特別活動 □ その他（　　）
希望ジャンル ※複数選択可。現時点で未定なら選択不要。	□音楽系　□美術・工芸系 □演劇系　□ダンス系 □伝統芸能系 □その他（　　）	□音楽系　□美術・工芸系 □演劇系　□ダンス系 □伝統芸能系 □その他（　　）
実施対象 ※予定で可。全校での実施は不可。	年生　クラス、参加者数　人	年生　クラス、参加者数　人
実施時期 ※原則6月以降の実施となります。	月ごろ	月ごろ

重要書類

平成 26 年 3 月 31 日までなくさずに保管してください



横浜市芸術文化教育プラットフォーム

学校プログラムのすすめかた
実施マニュアル＋学校報告書様式

実施校の先生のために｜ 平成 25 年度版

http://y-platform.org

【もくじ】

①..... 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要
②..... プラットフォームの「学校プログラム」とは？
③..... 年間の実施の流れ
④..... アンケート実施と集計・報告書提出について
⑤..... 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先
様式.... 児童・生徒向けアンケート（全１枚）
様式.... 学校向け実施報告書（全２枚）
様式.... 横浜市庁内メール便の宛名

企画・制作／横浜市芸術文化教育プラットフォーム
（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会）

1 横浜市芸術文化教育プラットフォーム 概要

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

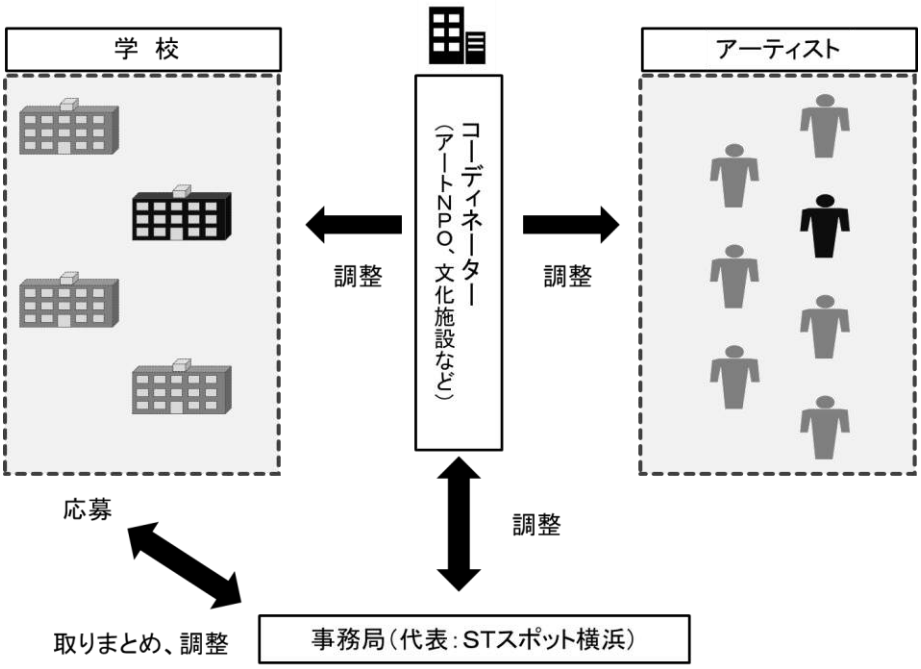
（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での位置付けを行うための体制づくり

（２）様々な実施主体、関係団体を結ぶネットワーク

（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校プログラムにおいて、各学校は子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じてプログラムを実施します。プログラム実施の方向性の提案も行います。**アートＮＰＯや文化施設などは、**<u>**コーディネーター**</u>として学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整し、子どもたちに向けたアートプログラムを実施します。

また事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）は、年間を通して学校からの相談対応や、学校向けプログラムの募集業務等の調整を行います。ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会で構成されています。



平成２５年度のコーディネート団体　※順不同。

【アートＮＰＯ、民間芸術文化団体】企業組合 Media Global、よこはま音楽広場実行委員会、特定非営利活動法人子どもに音楽を、特定非営利活動法人横浜こどものひろば、特定非営利活動法人芸術家と子どもたち、ART LAB OVA、民族歌舞団 荒馬座、アートの時間、特定非営利活動法人 Offsite Dance Project、特定非営利活動法人横浜シティオペラ

【地域の文化施設】青葉区民文化センター フィリアホール、泉区民文化センター テアトルフォンテ、栄区民文化センター リリス、神奈川区民文化センター かなっくホール、港南区民文化センター ひまわりの郷、急な坂スタジオ、久良岐能舞台、鶴見区民文化センター サルビアホール、戸塚区民文化センター さくらプラザ、緑区民文化センター　みどりアートパーク、旭区民文化センター サンハート、象の鼻テラス、吉野町市民プラザ、横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜美術館、横浜にぎわい座、横浜みなとみらいホール、神奈川県立音楽堂、横浜赤レンガ倉庫１号館、岩間市民プラザ

【事務局構成団体】横浜市芸術文化振興財団、特定非営利活動法人 ＳＴスポット横浜

2 プラットフォームの「学校プログラム」とは？

私たちは、芸術文化のもつ創造性を通して、子どもたちが互いの力を認め合い伸ばしていく過程を大切に考えています。教科等との連動以外に、コミュニケーション能力の育成など、学びの基礎づくりの中で、力を発揮するのがアートです。自由な発想を導き、豊かな感性を育てることで、子どもたちの学習活動がより豊かなものになることを期待します。アートのちからを、学びの基礎づくりに活かします。

(1)学校プログラムとは？

芸術家が、直接学校へ出かけます　平成 16 年度にスタートした子どものための芸術文化・教育事業です。音楽・美術・演劇・ダンス・伝統芸能など、幅広い分野で活躍している芸術家（アーティスト）等が、直接学校へ出かけます。「体験型プログラム」と「鑑賞型プログラム」の２種類があります。

コーディネーターと先生が、実施内容を調整します　学校プログラムでは、ふだん文化施設や芸術団体で活動しているスタッフが、学校での実施内容を調整するコーディネーターとして、授業づくりを支援します。対象となる学年と教科等のねらいや、ふだんの学校の様子といった先生が持っている情報と、コーディネーターがもつ文化芸術分野に関する専門知識をかけ合わせることで、効果的なプログラムが実施できます。

(2)学校プログラムには、2つの種類があります。

体験型プログラム　３日程度のプログラムです。具体的な体験を通して、アーティストとともに様々なジャンルの創造活動に取り組みます。ワークショップ形式で子どもの潜在的な創造性を引き出し伸ばしていくことを主眼に、体験する過程そのものを大切にしながら実施します。原則として、対象は一つの学年、取組みは１～２クラス単位で行います。

鑑賞型プログラム　基本的に１日で終了するプログラムです。アーティストによる演奏やパフォーマンスを鑑賞することが基本です。その後アーティストのお話しを聞くことで芸術文化を身近に感じることができます。音楽や伝統芸能の鑑賞を通して、芸術に触れる機会を提供します。原則として、対象は一つの学年です。

実施にあたっては、事務局が選定したコーディネーター団体が、学校からの要望（実施日程、実施内容など）を聞き取り、最適な実施内容となるよう、学校と調整を行います。

3 年間の実施の流れ

年間のスケジュールの流れは、次のとおりです。

(1)事務局→実施校へ決定の通知(5月末まで)

事務局から学校に、実施の決定通知を出します。その際、コーディネーターをお知らせします。

(2)実施に向けて、学校⇔コーディネーター間での調整(6月より順次)

担当コーディネーターと打合せをします。ねらい、ジャンル、回数、アーティストなどを調整します。コーディネーターに学校の詳細な希望とクラス・学年の状況をお伝えください。

＜コーディネーターとの確認ポイント＞

□ 目標の設定と具体的な授業イメージの共有

□ 授業を実施する学年、内容、時期などの再確認

□ 複数日にわたる場合は、実施するコマの確認（３・４時間目に二組、５・６時間目に一組、など）

メモ 事前に年間行事予定表などを用意しておくと、やりとりがスムーズになります。

(3)アーティストの決定、実施内容の調整(随時)

学校と調整のうえ、アーティストを決定します。その後、適宜打合せを行い、プログラムを組み立てます。日程などもこの段階で決定します。その後も、必要に応じて打合せを行うことがあります。その際学校で用意できるもの（例：画用紙など）については、ご協力ください。

＜コーディネーターとの確認ポイント＞

□ 学校で用意するもの、コーディネーターが用意するものの確認

□ 実施場所や控室などの確認

□ 昼食は、どこでどのようにとるかを確認

□ 子どもたちに対して、事前に取り組みについてどう説明するか

(4)プログラム実施

打合せ内容に沿って、プログラムを実施します。時期は、平成 25 年度（おおむね平成 25 年 6 月から平成 26 年 3 月）の実施となります。

(5)アンケートの実施と集計、学校向け実施報告書提出など(実施後2週間程度)

プログラムの改善点やアドバイスなどをいただいた上で、次回以降によりよいプログラムをお届けできるよう、コーディネーターとの振り返り、各資料の提出にご協力ください。

□ 児童・生徒用アンケートの実施と集計 → 提出

□ 学校向け実施報告書の記入 → 提出

□ 活動記録写真（映像）の確認

※いずれも詳細は、次頁を参照してください。

4 アンケート実施と集計・報告書提出について

実施終了後２週間を目安に、アンケートの実施－集計と、学校報告書の提出をお願いします。

児童・生徒用アンケートの実施と集計 → 提出

今後の実施プログラムの参考にしますので、今回の授業に参加した子どもたちにアンケートを実施してください。

・対象…授業を実施した小学３年生以上の全児童・生徒が対象です。

（小学１・２年生、特別支援級の子どもたちが対象の場合は、アンケートの提出は任意とします）

・内容…別紙のひながたを、適宜印刷してご使用ください。

・集計…お手数ですが、実施報告書の中に集計フォームがありますのでご記入ください。

・提出…すべてのアンケート用紙を報告書送付先（次ページ参照）までお送りください。なお、事務局からは返却しませんので、必要に応じて控えを取り、取組みの振り返りに活用してください。

学校向け実施報告書の記入 → 提出

今後の事業の参考にしますので、担当教諭の方はアンケートにご協力ください。

・対象…今回の取組にいちばん深くかかわった教員の方、１名がご記入ください。

・内容…別紙のひながたにご記入ください。なお回答の一部は、事業報告として公開されます。

・提出…報告書送付先（次ページ参照）までお送りください。

活動記録写真（映像）の確認

取組を拡大するために使用しますので、写真（映像）の使用許諾確認にご協力ください。

・内容…授業を担当したコーディネーターが、活動の模様を撮影した写真（映像）に対して、使用許諾の確認をお願いします。（写真では５枚程度を想定しています）

・方法…学校によって、年間で一括の写真・映像許諾を得ている場合、保護者会や学年通信などで説明を行っている場合、個別対応が必要な児童・生徒が必要な場合などがあるかと思われますので、適宜コーディネーターとご相談ください。

・提出…コーディネーターが事務局に提出しますので、使用許諾の確認のみお願いします。

メモ　アンケート・記録写真・映像の使用目的は、つぎのとおりです。いずれも、横浜市個人情報の保護に関する条例に従って使用します。(1)横浜市芸術文化教育プラットフォームの広報用資料（報告書、ウェブサイト）(2)横浜市及び当事務局の各種資料 (3)横浜市及び当事務局主催事業(シンポジウム等)における配布用資料・紹介 (4)翌年度の募集要項におけるプログラム案内としての例示 (5)担当コーディネーター・アーティストの資料 (6)その他マスコミ、自治体等からの要請による資料提供

報告書およびアンケートの送付先 ※庁内メール便でご送付ください

横浜市　文化観光局文化振興部文化振興課　芸術文化教育PF担当　板東康子　宛

神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-3715　FAX: 045-663-5606

5 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

そのほか、基本的な調整事項はコーディネーターが行いますが、問題が生じた場合は、プラットフォーム事務局にご相談ください。連絡先は、以下のとおりです。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜　アート教育事業部　内
担当者：小川智紀（おがわ・とものり）、田中真実（たなか・まみ）
所在地：神奈川県横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８
TEL&FAX: 045-325-0414　〒220-0004
・ＰＦ事務局として　http://y-platform.org　office@y-platform.org
・ＳＴスポット横浜として　http://www.stspot.jp　artedu@stspot.jp

横浜市教育委員会事務局　指導部指導企画課
担当者：江口和良（えぐち・かずよし）
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-4447　FAX: 045-664-5499

横浜市　文化観光局文化振興部文化振興課
担当者：鬼木和浩（おにき・かずひろ）、板東康子（ばんどう・やすこ）
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-3715　FAX: 045-663-5606

横浜市芸術文化振興財団　協働推進グループ
担当者：鈴木敦（すずき・あつし）、児玉未央（こだま・みお）
神奈川県横浜市中区北仲通４－４０　商工中金横浜ビル 5F
〒231-8315　Tel. 045-221-0212　Fax. 045-221-0216

【報告書およびアンケートの送付先】※庁内メール便でご送付ください。

横浜市　文化観光局文化振興部文化振興課　芸術文化教育ＰＦ担当　板東康子　宛
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-3715　FAX: 045-663-5606

アンケート――アーティストの授業について教えてください

1．今回の授業を前から楽しみにしていましたか。

☐ 楽しみにしていた　☐ 楽しみではなかった　☐ 特に気にしていなかった

2．授業は楽しかったですか。その理由も教えてください。

☐ 楽しかった　☐ 楽しくなかった　☐ どちらでもなかった

理由（　　）

3　あなたにとって、この授業でためになったことはありますか。

☐ あった　☐ なかった

理由（　　）

4　あなたは、今回のような授業をまた受けたいですか。

☐ 受けたい　☐ 受けたくない

5　今回の授業であなたが感じたことや思い出に残ったことがあれば、自由に書いてください。

学校　　年　　組　男・女　名前

学校向け実施報告書（全２枚）

１．今年度の事業報告として、一部を公開します。どうぞご協力ください。

（１）本紙をご記入いただく先生のお名前とふりがなをお知らせください。

学校名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿学校

お名前：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　ふりがな：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

今回の取組みの教科・領域：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（２）子どもたちのアンケートの集計結果をお知らせください。

１．今回の授業を前から楽しみにしていましたか。

・楽しみにしていた･････････････････････････････　人

・楽しみではなかった･････････････････････････　人

・特に気にしていなかった･････････････････････　人

２．授業は楽しかったですか。その理由も教えてください。

・楽しかった･････････････････････････････････　人

・楽しくなかった･････････････････････････････　人

・どちらでもなかった･････････････････････････　人

◆主な理由など

３．あなたにとって、この授業でためになったことはありますか。

・あった･････････････････････････････････････　人

・なかった･･･････････････････････････････････　人

◆主な理由など

４　あなたは、今回のような授業をまた受けたいですか。

・受けたい･･･････････････････････････････････　人

・受けたくない･･･････････････････････････････　人

５　今回の授業であなたが感じたことや思い出に残ったことがあれば、自由に書いてください。

◆主な記述など

（次のページに続きます）

（３）次に、担当の先生に子どもたちの様子についてお伺いします。今回の取組みにより、子どもたちにとって最も力がついたと思われる項目ひとつに◎印、そのほか力がついた項目に〇印をご記入ください。

表現力	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力	創造力	想像力	感受性	集中力	協調性	共感力	言語力

（子どもたちのどんな様子を見てその力がついたと思いましたか。具体的にご記入ください。）

（４）今回の取組みを通して、先生ご自身がアーティストによる授業を通して、感じたことをご記入ください。２００字程度でお願いします。

（教科・領域との関連／コーディネーターやアーティストとの連携／ご自身に影響があったこと／具体的な取組内容／今後の期待や希望　などについて、自由にご記入ください。）

２．引き続き、担当の先生にお伺いします。以下の項目は、学校名、個人名が特定されない形で集計します。

（ここで回答いただいた内容は、来年度の選考とは関係がありません。率直なご意見をください）

（１）実施にあたって、コーディネーターと適切なコミュニケーションをとることはできましたか。

1　2　3　4

とれた　どちらかといえば、とれた　どちらかといえば、とれなかった　とれなかった

（２）子どもたちはプログラムに満足していたようでしたか。

1　2　3　4

満足　どちらかといえば、満足　どちらかといえば、不満　不満足

（３）先生のねらいに照らして、今回のプログラムは満足できるものでしたか。

1　2　3　4

満足　どちらかといえば、満足　どちらかといえば、不満　不満足

（４）運営面で問題点や改善すべき点がありましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

報告書などを横浜市庁内メール便で送付する際に、封筒に貼ってご利用いただけます。

----------（キリトリ）----------

横浜市庁内メール便（市メール）

送付先

横浜市　文化観光局文化振興部文化振興課
横浜市芸術文化教育プラットフォーム担当　板東康子　宛
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-3715　FAX: 045-663-5606

発送者

学校名：横浜市立

担当者：

発送日：

内容物

横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム　学校報告書

横浜市芸術文化教育プラットフォーム

学校プログラムのすすめかた

コーディネーターのみなさんへ ｜ 平成25年度版

http://y-platform.org

【もくじ】

①..... 横浜市芸術文化教育プラットフォーム概要
②..... 事業の進行スケジュール
③..... ステップ1 担当校調整：５月３１日まで
④..... ステップ2 実施打合せ：６月３日から
⑤..... ステップ3 中間報告：８月９日まで
⑥..... ステップ4 プログラムの実施：実施は年度内に
⑦..... ステップ5 プログラム終了後：半月以内に報告
⑧..... 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

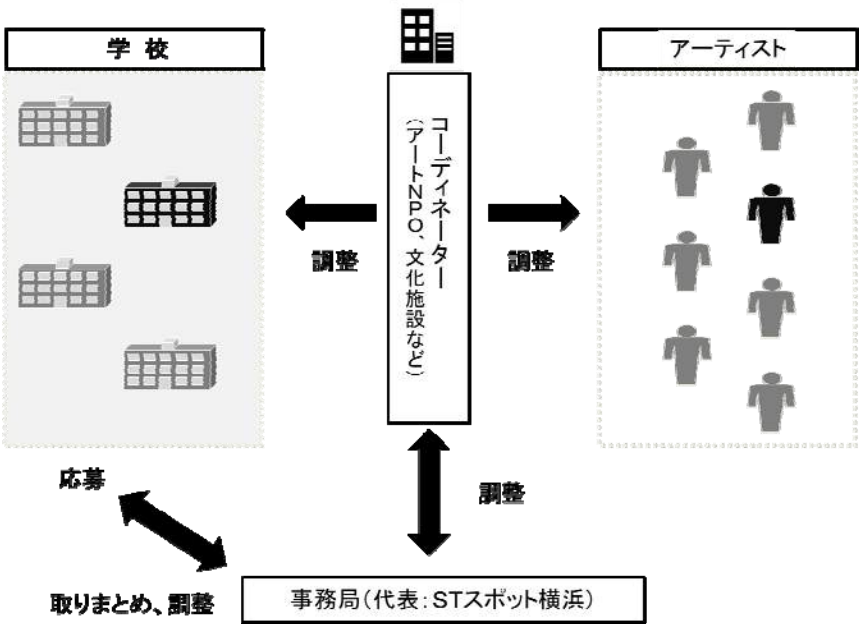
企画・制作／横浜市芸術文化教育プラットフォーム
（ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会）

1 横浜市芸術術文化教育プラットフォーム概要

横浜市芸術文化教育プラットフォームは、芸術文化の学校向けプログラムを中心とした「連携のしくみ」です。さまざまな立場の方があつまって、つくられています。ねらいは、次の三点です。

（１）学校現場の実状に応じ、カリキュラム上での位置付けを行うための体制づくり
（２）様々な実施主体、関係団体を結ぶネットワーク
（３）子どもたちにとって効果的なプログラムの提供及びプログラム実施に関する調査研究や人材育成

学校プログラムにおいて、各学校は子どもたちに対して効果的なプログラムを検討し、カリキュラムに位置付けるなど学校現場の実状に応じてプログラムを実施します。プログラム実施の方向性の提案も行います。**アートＮＰＯや文化施設などは、**<u>**コーディネーター**</u>として学校の先生とアーティストをつなぎ、取組が円滑に進むよう調整し、子どもたちに向けたアートプログラムを実施します。
また事務局（ＳＴスポット横浜内に設置）は、年間を通して学校からの相談対応や、学校向けプログラムの募集業務等の調整を行います。ＳＴスポット横浜、横浜市芸術文化振興財団、横浜市文化観光局、横浜市教育委員会で構成されています。



平成２４年度のコーディネート団体　※順不同。平成２５年度のコーディネーターは、ウェブサイトをご参照ください。

【アートＮＰＯ、民間芸術文化団体】株式会社オフィスマキナ、企業組合 Media Global、よこはま音楽広場実行委員会、特定非営利活動法人子どもに音楽を、特定非営利活動法人横浜こどものひろば、特定非営利活動法人芸術家と子どもたち、ART LAB OVA、民族歌舞団 荒馬座、アートの時間、特定非営利活動法人 Offsite Dance Project、特定非営利活動法人横浜シティオペラ
【地域の文化施設】青葉区民文化センター フィリアホール、泉区民文化センター テアトルフォンテ、栄区民文化センター リリス、神奈川区民文化センター かなっくホール、急な坂スタジオ、久良岐能舞台、鶴見区民文化センター サルビアホール、旭区民文化センター サンハート、磯子区民文化センター 杉田劇場、吉野町市民プラザ、横浜市民ギャラリー、横浜市民ギャラリーあざみ野、横浜美術館、横浜にぎわい座、横浜みなとみらいホール、神奈川県立音楽堂、横浜赤レンガ倉庫１号館
【事務局構成団体】横浜市芸術文化振興財団、特定非営利活動法人 ＳＴスポット横浜

2 事業の進行スケジュール

学校での授業については、基本的に、アーティストの選定から、学校との交渉のタイミング、実施日程の決定など、多くの部分をコーディネーターにおまかせします。コーディネーター自身はもちろんのこと、学校にも、アーティストにとっても適切な事業進行管理をおねがいします。

年間のスケジュールは次のとおりです。授業の実施時期が９月以降の場合は、大まかに次のような進行になります（例外もあります）。

コーディネーター	時期	ＰＦ事務局
ステップ１　**担当校調整：5 月 31 日まで** 事務局と仕様などを確認の上、実施担当校を決定します。	3-4 月	一部の学校へ、ヒアリングを実施
	5 月	各コーディネーターと実施校の調整 下旬以降に、各学校に決定を通知
ステップ２　**実施打合せ：6 月 3 日から** 学校の担当者から希望を聞いてください。	6-7 月	コーディネーター会議を開催（調整中）
ステップ３　**中間報告：8 月 9 日まで** 実施日程とアーティスト選定について**中間報告**をお願いします。その後、順次、協定書として契約を締結します。	8 月	中間報告の取りまとめ
ステップ４　**実施：3 月末までの任意の時期** とにかく楽しい内容になるよう、全力をつくしてください。 **ステップ５**　**終了後：半月以内に報告を** 終わったら、報告書・写真などをＰＦ事務局に送ってください。そのあと、事務局から指定口座に入金します。	9 月	各コーディネーターが担当している実施現場の一部を見学。順次、実施について記者発表。
	10 月	
	11 月	
	12 月	
	1 月	
	2 月	上・中旬に、次年度の募集開始
	3 月	次年度の実施校の調整

このほか、教師のためのワークショップを実施予定

事務局へ提出する書類

（１）団体プロフィール ……**5 月 31 日（金）**までに
（２）実施予定プログラムシート ·**8 月 9 日（金）**ごろまでに中間報告として
（３）報告書 ……終了後、半月以内に
（４）写真（５枚程度） ……終了後、半月以内に

3 ステップ１ 担当校調整：５月３１日まで

＜担当校の内定＞

まず、担当していただく学校（担当校）について、事務局と打合せの上、仕様を含めた進行の手順を確認します。

＜団体プロフィールの提出について＞

コーディネーターの皆さんには「**団体プロフィール**」を作成していただきます。これは、学校への実施決定連絡の際に伝える情報以外に、ホームページや報告書に記載するプラットフォームの公開情報として、またコーディネーター間の情報共有手段として、１年間使われるものです。昨年度作成していただいたものがある場合は、そのまま使用いたします。内容の変更・改訂は随時お受けしますので、事務局までお知らせください。

【記入例】

■ウェブサイト・報告書などで公開する情報	
団体名／施設名	特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜
ＵＲＬ	http://stspot.jp/
主な活動ジャンル	□音楽　■演劇　■舞踊　□美術　□伝統芸能　□その他
団体 PR（200～300 字程度）	ＳＴスポット横浜は地域の芸術文化機関として、昭和 62 年に発足しました。小劇場「ＳＴスポット」を拠点に、現在国内で活躍する多数の地元アーティストを輩出するなど、創造環境全体の向上に努めてきました。 平成 16～20 年度には「アートを活用した新しい教育活動の構築事業」を神奈川県、県教委との協働事業として実施し、県内の幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校等にアーティストを講師として派遣し、演劇やダンス、現代美術等の授業を行いました。 平成 20 年度からは「横浜市芸術文化教育プラットフォーム」の事務局を担当し、学校教育とアートの現場をつなぐ事業を推進しています。
■担当校と、他のコーディネーターも含めたプラットフォーム内部で共有する情報	
コーディネート担当者（ふりがな）	★★★★（×××・××××）、☆☆☆☆（＋＋＋・＋＋）
郵便番号	220-0004
住所	神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
日中連絡が取れる電話番号	045-325-0414
ＦＡＸ番号	045-325-0414
メールアドレス	artedu@stspot.jp
備考	

4 ステップ２ 実施打合せ：６月３日から

＜学校での打ち合わせに際して＞

学校にコーディネーター団体をお知らせする６月３日（月）以降、担当校へのご連絡をお願いします。なるべく夏休みごろまでに、電話でのやり取りや、実際に学校へ足を運ぶなどして、担当の先生と顔合わせ、打合せをお願いします。進め方は、各団体独自の方法で進めていただいて構いません。以下は参考です。

メモ　学校とのやり取りは、ファックスがいちばん確実です。電話は、放課後（１５時３０分以降）が繋がりやすいようです。また、メールは連絡の補助手段と考えたほうがいいようです。

学校との実施イメージの確認

・授業を実施する学年、内容、時期などの再確認
・目標の設定
・複数日にわたる場合は、実施するコマの確認（３・４時間目に二組、５・６時間目に一組、など）

メモ　目標の設定については「からだを使った取組みをする」など、スローガン的なフレーズで合意しておくと、その後の進行の助けになる場合があります。先生が不安そうでしたら、一度紙に落とした上で確認をすると、問題点が明確になることがあります。

アーティストとの実施イメージの確認

・事業の趣旨の説明
・取組むプログラムの検討と目標の設定
・スケジュール（移動、振り返りの時間も含めて）
・具体的な授業のイメージを膨らませる
・学校で用意するもの、コーディネーターまたはアーティストで用意するものの確認
・実施場所の確認
・謝金とアシスタントの有無について

メモ　アーティストが学校で取り組む上で不安を持っている場合は、顔合わせと学校の様子を見学を兼ねて事前に学校をおとずれてみるのもいいかもしれません。また、アーティストの公演・展示の機会があれば、先生をお誘いして伺うこともできるかもしれません。

実施に向けての最終確認

・写真撮影の許諾について（詳細は、ステップ４をご覧ください）
・実施場所の確認、着替えの場所や控室の確認
・昼食は、どこでどのようにとるかを確認（変更はだいたい一週間前まで）
・子どもたちに対して、事前に取り組みについてどう説明するか

5 ステップ２ 中間報告：８月９日までに中間報告

＜実施予定プログラムシートの提出について＞

その後、学校側と実施に向けた調整を続け、８月９日（金）までに「実施予定プログラムシート」で、目標、実施日、アーティストなど決定・内定した状況をＰＦ事務局まで中間報告してください。

【記入例】

■学校	
学校名	横浜市立プラットフォーム第一中学校
担当教諭名	○○○○（１組担任）、△△△△（２組担任）、□□□□（美術）
■コーディネーター	
団体名	ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜
コーディネート担当者名	★★★★、☆☆☆☆
■アーティスト	
アーティスト名	◆◆◆◆
アーティスト肩書	画家・漫画家
アーティストプロフィール（200 字程度）	1937(昭和 12)年、東京葛飾生まれ。子供のころからいくつものアルバイトを経験し、小学校卒業とともにメッキ工場に勤める。その後職を変わりながら、職業としてマンガ家をめざし、1955(昭和 30)年に単行本『白面夜叉』で本格デビュー。貸本マンガや子供向け雑誌で活躍。1965(昭和 40)年から「月刊漫画ガロ」に作品を発表し、徐々に注目を集めるようになる。独特な作風で知られ、寡作ではあるが、根強いファンを持つ。代表作に『ねじ式』『紅い花』『無能の人』などがある。
■実施予定概要	
ジャンル	美術
プログラム名	デザイン
実施日程・時程	2012 年　8 月　2 日　1 時限目　～　6 時限目
	2012 年　8 月　9 日　1 時限目　～　6 時限目
	2012 年　8 月　16 日　1 時限目　～　6 時限目
実施科目・教科名	総合的な学習の時間
取り組む学年、クラス数	2 年生 2 クラス、特別支援学級 1 クラス
対象人数	78 人
学校・アーティスト・コーディネーター間で合意した目標（200 字程度）	吹き出し、コマ割り、あるいは絵が単純で感性に直接的に訴えるマンガの視覚表現方法を理解し、そのエネルギーを子どもたちに身につけてもらう。また、マンガを、イメージをはっきりさせるための一つの道具として捉えることで、対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。

＜契約について＞

上記の中間報告の内容に基づき、ＰＦ事務局とコーディネーターが協定書（契約）を締結します。

6 ステップ３ プログラムの実施：実施は年度内に

プログラムを実施する時期は、年度内の任意の時期で結構です。実施は、各団体におまかせします。実施の際は、取材対応をお願いする場合もあります。

＜活動記録写真について＞

コーディネーターのみなさんには、活動記録写真を撮影した上で、事務局に送っていただきます。なるべく問題が起こらないよう、学校と慎重に打ち合わせをすすめてください。

学校への撮影許可のとり方

・基本的に、応募の段階で記録写真をとることを学校側は承諾していますが、個別事情の確認をお願いします。

メモ　記録写真の使用目的は、つぎのとおりです。いずれも、横浜市個人情報の保護に関する条例に従って使用します。(1)横浜市芸術文化教育プログラム推進事業の広報用資料（報告書、ウェブサイト）(2)横浜市及び当事務局の各種資料 (3)横浜市及び当事務局主催事業(シンポジウム等)における配布用資料・紹介 (4)翌年度の募集要項におけるプログラム案内としての例示 (5)担当コーディネーター・アーティストの資料 (6)その他マスコミ、自治体等からの要請による資料提供

実際の撮影

・事前に学校と確認した内容に沿って、デジカメ等で写真を撮影してください。

・最終的に事務局にお送りいただく写真は５枚程度ですが、学校ＮＧを想定して、多めに撮影しておいてください。

メモ　撮影不可能な児童・生徒がいる場合は、（１）該当する子が入らないように撮影する、（２）撮影不可能な児童・生徒がいないクラスを撮影対象にする、（３）子どもたちの後ろ姿だけを撮影する、（４）事後確認をきちんと行う、の組み合わせで対応してください。また保護者の許諾が必要な場合、学級通信・学年通信での通知、保護者会での説明といった方法があることを学校側に提案してみてください。

撮影の確認

・取組終了後、撮影した写真を学校側に確認してもらってください。

・確認方法はいろいろありますが、（１）後日直接学校に行って確認してもらう、（２）写真をプリントアウトし郵送した上でＯＫをとる、などが考えられます。臨機応変に対応ください。

・最終的に５枚程度を、事務局までデータでお送りください。

メモ　学校側との調整が難航した場合は、事務局までお知らせください。

7 ステップ4 プログラム終了後：半月以内に報告

＜アンケートについて＞

実施終了後に、先生たちがアンケートを実施します。コーディネーター側では、アンケートを実施する必要はありません。

＜実施報告書の提出について＞

実施内容、コーディネーターの感想、アーティストの感想などを記入した報告書を事務局までお送りください。ひながたは、別途データでお送りします。各校の実施終了後、2 週間以内を目途に事務局までお戻しください。

メモ　「実施予定プログラムシート」と重複している項目がありますので、変更がなければ同内容を記載していただいて結構です。

メモ　アーティストのコメントをとる欄があります。たとえば、現場で聞き書きするなど、工夫してコメントをとってください。

＜経費について＞

以上の到着を確認した上で、事務局より事業経費の入金をします。この中には、税金、材料費、交通費、機材運搬費等全てを含みます。アーティストやアシスタントなどへの支払い関連業務（銀行振込や所得税の源泉徴収など）は、各団体にお任せします。

ただし、プログラムによって入金方法が異なる場合があります。その際には、別途ご説明します。

＜個人情報の取り扱いについて＞

この事業を実施する上で知り得たすべての情報（学校の個別の情報、写真など）の取り扱いについてはくれぐれもご注意ください。

8 横浜市芸術文化教育プラットフォームの連絡先

報告事項以外でも、トラブルが生じそうなときは、プラットフォーム事務局にご相談ください。コーディネーターといっしょになって難局を乗り越えたいと考えています。

事務局の連絡先は、以下のとおりとなります。

横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
特定非営利活動法人ＳＴスポット横浜　アート教育事業部　内
担当者：小川智紀（おがわ・とものり）、田中真実（たなか・まみ）、持田喜恵（もちだ・きえ）
所在地：神奈川県横浜市西区北幸１－１１－１５　横浜ＳＴビル２０８
TEL&FAX: 045-325-0414　〒220-0004
・ＰＦ事務局として　http://y-platform.org　office@y-platform.org
・ＳＴスポット横浜として　http://www.stspot.jp　artedu@stspot.jp

また、プラットフォーム事務局を構成している機関・団体の連絡先は、以下のとおりです。

横浜市　文化観光局文化振興部文化振興課
担当者：鬼木和浩（おにき・かずひろ）、板東康子（ばんどう・やすこ）
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-3715　FAX: 045-663-5606

横浜市教育委員会　事務局　指導部指導企画課
担当者：江口和良（えぐち・かずよし）
神奈川県横浜市中区港町１－１　〒231-0017　TEL: 045-671-4447　FAX: 045-664-5499

横浜市芸術文化振興財団　協働推進グループ
担当者：鈴木敦（すずき・あつし）、児玉未央（こだま・みお）
神奈川県横浜市中区北仲通 4－40 商工中金横浜ビル 5F　〒231-0003
TEL: 045-221-0212　Fax: 045-221-0216

横浜市芸術文化教育プログラム推進事業
横浜市芸術文化教育プラットフォーム・学校プログラム　平成 25 年度事業報告書

発行：横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
（ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局）

作成：ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　　公開開始：平成 26 年 7 月 2 日

《お問い合わせ先》〒220-0004　神奈川県横浜市西区北幸 1-11-15　横浜ＳＴビル 208
ＮＰＯ法人ＳＴスポット横浜　地域連携事業部　内　横浜市芸術文化教育プラットフォーム事務局
電話：045-325-0410　ファックス：045-325-0414　メール：toiawase@y-platform.org